

頂操作マニュアル

Ver.4.5.02

目 次

(項目をクリックすると当該ページへジャンプします)

1 頂の基本操作.....	5
1-1 頂を起動する	5
1-2 頂を終了する	10
1-3 積算ファイルを保存する.....	11
1-4 動画マニュアルを見る	13
1-5 取扱説明書を見る	15
1-6 ダブルクリックの機能を設定する (文字の修正 or 下位表表示)	16
1-7 文字を修正する.....	17
1-8 画面の文字の表示サイズを変える	20
2 単価検索.....	21
2-1 単価システム画面を開く.....	21
2-2 単価検索システム画面の説明	23
2-3 単価地区を確認する.....	27
2-4 単価・歩掛年度及び単価地区を変更する.....	28
2-5 代価 (単価) をツリーから探す.....	29
2-6 代価 (単価) を検索機能を使って探す	32
2-7 機械損料を豪雪補正にする	35
3 設計書の作成.....	36
3-1 表紙を作成する	36
3-2 設計書作成画面の説明	39
3-3 階層・内訳・代価・単価のアイコンの説明.....	42
3-4 階層 (新土木積算大系) とは (内訳との違い)	43
3-5 階層を利用した設計書作成の流れ (土木工事など)	45
3-6 階層を自由に単独で作る.....	47
3-7 階層のレベルを変更する.....	48
3-8 階層を折りたたむ (指定したレベル以下を非表示にする)	51
3-9 階層を内訳に (内訳を階層に) 切り替える	54
3-10 内訳方式での設計書作成の流れ (管工事など)	56
3-11 内訳を代価に変更する.....	61
3-12 標準代価 (単価) を設計書に貼り付ける	64
3-13 貼り付けた標準代価を変更する	67
3-14 新しい代価表を作る	70
3-15 新しい単価を作る.....	74

3-16	代価の諸雑費の率を設定する	75
3-17	行を挿入（削除）コピーする	78
3-18	行の順番を入れ替える	79
3-19	タイトル行を作る	80
3-20	小計・中計などの集計行を作る	81
3-21	共通仮設費を積上げる	82
3-22	夜間単価に変更する	87
3-23	ユーザー単価に登録する	89
3-24	ユーザー単価を利用する	91
3-25	積算物件の同一単価を一度に変更する（単価一覧）	93
3-26	積算後に工事価格を目標金額に合わせる（単価一括変更）	95
3-27	直接工事費から諸経費を計算する	101
3-28	工事価格から直接工事費を逆算する	104
4	諸経費の設定	108
4-1	諸経費画面の説明（土木工事）	108
4-2	諸経費画面の説明（管工事）	112
4-3	諸経費画面の説明（民間工事）	114
4-4	支給品額・桁等購入費その他を設定する	115
4-5	事業用損失防止施設費を経費計算に反映させる	116
4-6	処分費を経費計算に反映させる	117
4-7	直接工事費に経費除外項目がある場合	119
4-8	共通仮設費補正で工事場所区分を設定する	120
4-9	イメージアップ経費を計上する	121
4-10	緊急工事の径费率補正をする	122
4-11	現場管理費の冬期補正をする	123
4-12	一般管理費の前払い補正をする	124
4-13	一般管理費の契約保証による補正をする	125
4-14	管工事で材料費（特殊製品費）を経費に反映させる	126
4-15	間接費を諸経費として一つにまとめる（民間工事など）	130
4-16	処分費や契約保証費を間接费率分に反映させない	132
4-17	自動計算された金額を変更する	133
4-18	丸めの単位を変更する	135
5	印刷	138
5-1	印刷画面の説明と印刷方法	138
5-2	印刷範囲を指定する	141
5-3	代価表（単価表）を設定する	143

5-4	単価表番号を任意に付ける	146
5-5	表紙を設定する	148
5-6	表紙に任意の表題を付ける	150
5-7	表紙のデザインを変える.....	152
5-8	金額抜き印刷などその他の印刷設定.....	156
5-9	両面印刷をする	158
5-10	エクセル用紙の印刷編集（上段に色をつけるなど）	160
6	その他の機能.....	165
6-1	設計変更・実行予算に使う	165
6-2	PDF ファイルに変換する	168
6-3	Excel ファイルに変換する	170
6-4	単価データの更新版をダウンロードする.....	173
6-5	プログラムの修正版をダウンロードする.....	177
6-6	データの保存先を変える.....	182
7	トラブル一覧.....	185
7-1	数値を入力できない.....	185
7-2	ダブルクリックしても文字の修正ができない	185
7-3	設計書に貼り付けると単価が変わってしまう	185
7-4	印刷プレビュー画面がでない（コレクションがありません）	186
7-5	修正プログラムをダウンロードできない.....	187
7-6	データの保存ができない.....	187
7-7	エクセルファイルで保存できない	187
7-8	単価検索画面で明細が表示されない.....	188
7-9	「ランタイムエラー」とエラーメッセージが出る（Windows Vista の場合） ..	189

1 頂の基本操作

1-1 頂を起動する

頂を起動するにはデスクトップにあるアイコンをクリックします。



「頂」のアイコンをクリックすると下図のオープンウィザードが開きます。

オープンウィザード画面



- **単価検索**: 設計書を作成しないで、特定の代価や単価を調べたい場合にクリックします。設計書作成の画面を開かずに直接単価検索システム画面を開きます。単価検索の詳細は→「[2 単価検索](#)」を参照してください。
- **新規設計書**: 新しい設計書を作成します。クリックすると表紙作成画面が開きます。

表紙作成画面（その1）

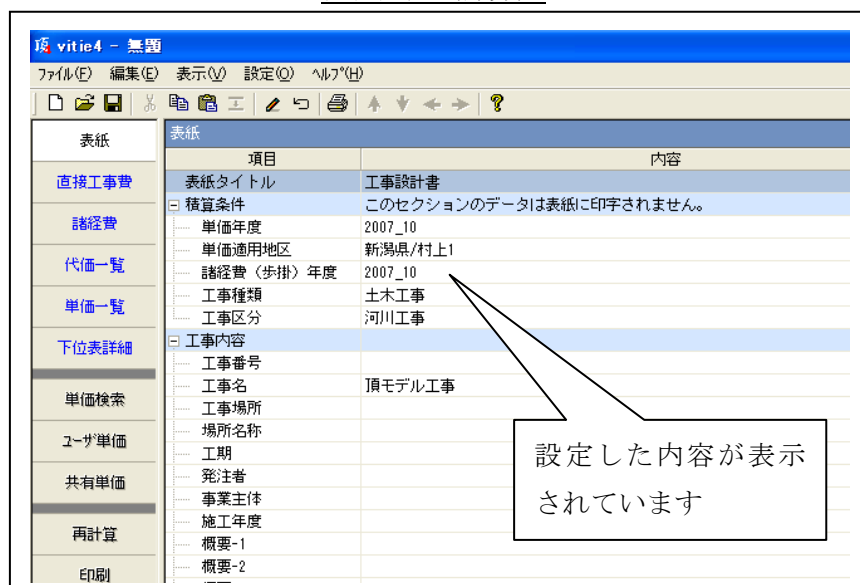
①必要事項を入力して②【次へ】をクリックします。⇒⇒表紙作成画面（その2）へ進みます。

表紙作成画面（その2）

③各項目を選択します。ボックス右端にある▼をクリックするとプルダウンメニューが開き、該当するものを選択することができます。設定が終了したら④【次へ】をクリックします。

設定した内容が入力された表紙画面が開きます。

表紙画面（部分）

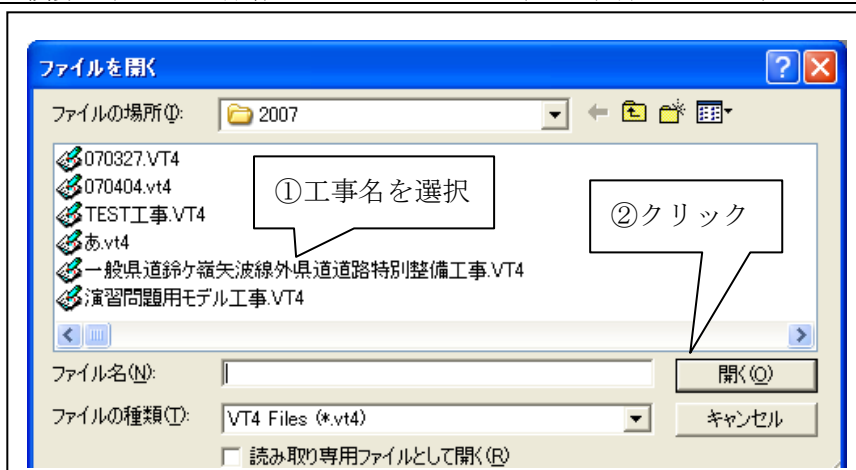


表紙の作成手順は→「[3-1 表紙を作成する](#)」を参照してください。

設計書の作成手順は→「[3 設計書の作成](#)」を参照してください。

- **前回の設計書を継続**: 前回頂を終了したとき積算していた工事ファイルを開きます。
- **既存設計書を開く**: 過去の積算ファイルを保存しているフォルダを開きます。

頂の積算ファイルが保存してあるフォルダ（この場合フォルダ名は 2007）



この中から①呼び出したいファイルをクリックして②【開く】をクリックすると、表紙画面が開きます。（2007年に積算したファイルは「2007」に保存されます）

- **指定工事価格で逆算**：直接工事費を積上げる前に、工事価格から直接工事費や間接費を逆算する場合にクリックします。逆算の手順は→「[3-28 工事価格から直接工事費を逆算する](#)」を参照してください。
- **動画マニュアル**：操作説明を動画マニュアルで見ることができます。
- **諸経費の積算**：直接工事費を入力すると、それに対する諸経費の率計算と工事価格を自動計算します。直接工事費がわかっている場合に使います。「諸経費の積算」をクリックすると下図の画面が開きます。

- ①工事種類などを選択して、②直接工事費を入力し③【次へ】をクリックします。選択した条件と入力した直接工事費で自動計算された諸経費画面が開きます。諸経費計算の詳細は→「[4 諸経費の設定](#)」を参照してください。

- **問い合わせ**：サポートセンターの連絡先です

補足説明（お使いのパソコンがインターネットに接続されている場合）

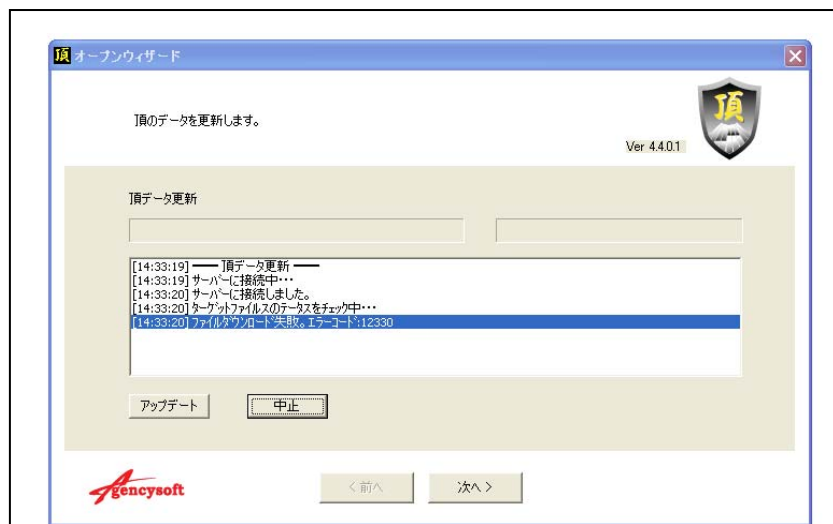
- (1) 頂を起動すると下図のような確認画面が出ることがあります。頂は起動するたびに頂のサーバーに歩掛や単価の修正データの有無を確認に行きます。もし修正データがある場合にはこの確認画面が表示されます。この修正データは間違いを修正したものであるため、【実行】をクリックしてダウンロードしてください。




更新が終わると下図の画面が出ますので【閉じる】をクリックしてください。



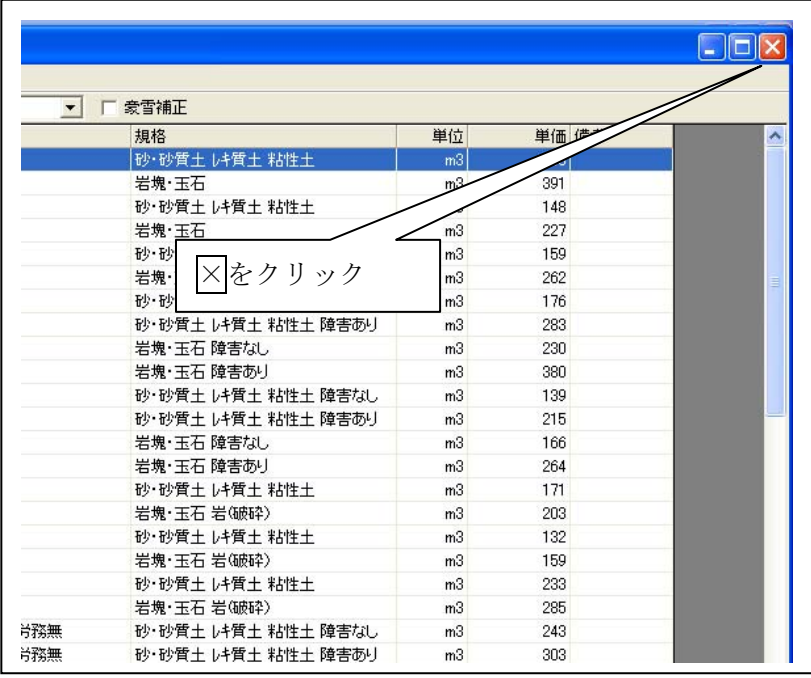
- (2) オープンウィザードで【前へ】をクリックすると下図が開きますが、サーバーとの接続状況を表示するものなので通常は無視してください。



1-2 頂を終了する

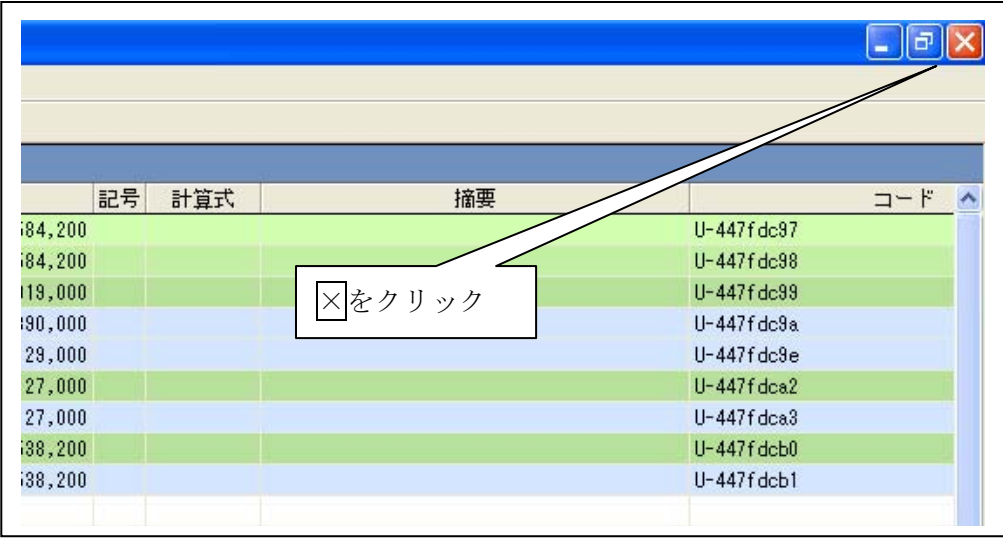
どの画面でも右上の  をクリックすれば終了することができます。

単価検索画面



規格	単位	単価 (円)
砂・砂質土 しき質土 粘性土	m ³	391
岩塊・玉石	m ³	148
砂・砂質土 しき質土 粘性土	m ³	227
岩塊・玉石	m ³	159
砂・砂	m ³	262
砂・砂	m ³	176
砂・砂質土 しき質土 粘性土 障害あり	m ³	283
岩塊・玉石 障害なし	m ³	230
岩塊・玉石 障害あり	m ³	380
砂・砂質土 しき質土 粘性土 障害なし	m ³	139
砂・砂質土 しき質土 粘性土 障害あり	m ³	215
岩塊・玉石 障害なし	m ³	166
岩塊・玉石 障害あり	m ³	264
砂・砂質土 しき質土 粘性土	m ³	171
岩塊・玉石 岩(破砕)	m ³	203
砂・砂質土 しき質土 粘性土	m ³	132
岩塊・玉石 岩(破砕)	m ³	159
砂・砂質土 しき質土 粘性土	m ³	233
岩塊・玉石 岩(破砕)	m ³	285
岩塊無 砂・砂質土 しき質土 粘性土 障害なし	m ³	243
岩塊無 砂・砂質土 しき質土 粘性土 障害あり	m ³	303

設計書画面

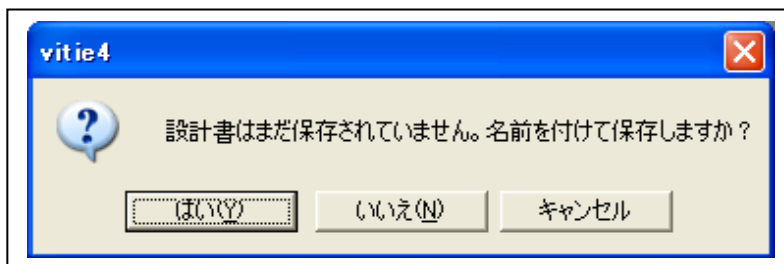


記号	計算式	摘要	コード
184,200			U-447fdc97
184,200			U-447fdc98
119,000			U-447fdc99
190,000			U-447fdc9a
29,000			U-447fdc9e
27,000			U-447fdca2
27,000			U-447fdca3
188,200			U-447fdb0
188,200			U-447fdb1

1-3 積算ファイルを保存する

新規設計書で積算した場合はどこかの時点で積算ファイルを保存する必要があります。通常は直接工事から諸経費画面に移る場合などに、下図のような確認メッセージが出ます。【いいえ】を選択して後で保存することもできますが、できればこの時点で保存することをお勧めします。

- ① 確認メッセージが出たら【はい】をクリック。



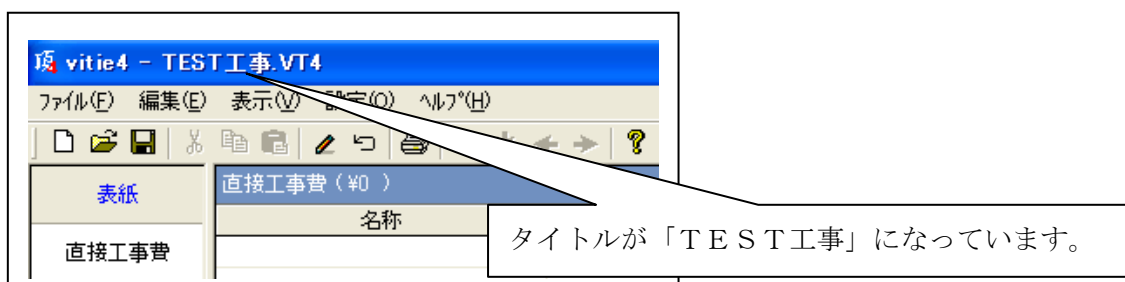
補足説明

- (1) 前日からなどの作業で、すでに保存されている工事の場合はこのメッセージは出ません。
- (2) 急いでいるときや、保存しない場合は【いいえ】をクリックしても次へ進むことができます。

- ② ダイアログが開くので名前を入力して
- ③ 【保存】をクリック。

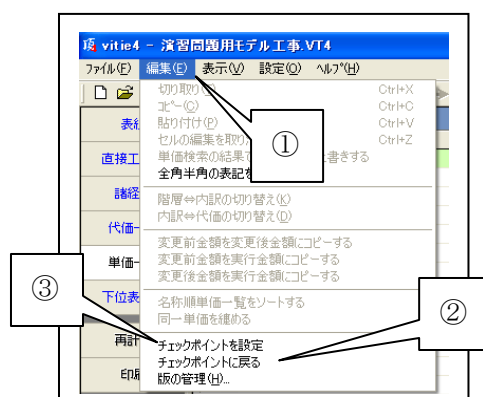


⇒⇒直接工事費画面が開き、タイトルバーに工事名称が表示されています。



補足説明

- (1) 「名前を付けて保存」ダイアログでは表紙で入力した工事名が表示されます。
- (2) ファイル名に続く「.VT4」は頂ファイルの拡張子です。
- (3) 【いいえ】で先へ進んだ場合でも、終了する前に必ず保存メッセージが出ます。
- (4) 途中で別の名前で保存したいときは、メニューバー「ファイル」の「名前を付けて保存」をクリックすれば、いつでも保存することができます。
- (5) 「頂」のデータは【保存】した時に書き換えられるのではなく、入力するごとに書き換えられていきます。一度工事名を入力して保存すれば作業終了時毎に「保存する・しない」を確認するメッセージは出ません。
- (6) したがって、作業の途中で間違いに気づいても元に戻ることはできません。ただし、次の手順で当日頂を起動した時点まで戻ることができます。設計書作成画面で①メニューバーの「編集」⇒②「チェックポイントに戻る」をクリック。

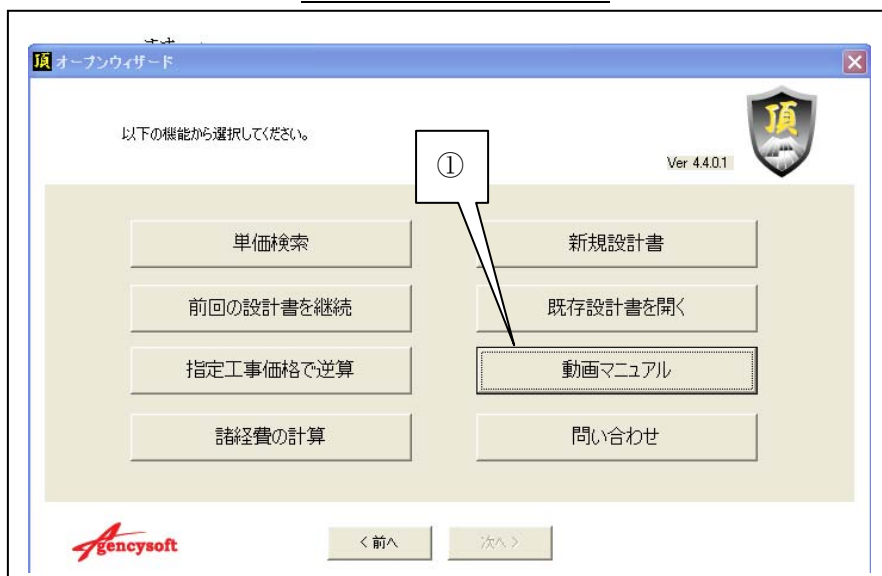


- (7) 積算中随時に上図の③「チェックポイントを設定」をクリックしておく、「チェックポイントに戻る」を実行したときに、頂を起動したときではなく、チェックポイントを設定した時点に戻ることができます。
- (8) ファイルの保存先については→「[6-6 データの保存先を変える](#)」を参照して下さい。

1-4 動画マニュアルを見る

- ① 音声付動画マニュアルを見るにはオープンウィザード画面の【動画マニュアル】をクリックします。

オープンウィザード画面



⇒⇒動画マニュアルの目次が開きます。

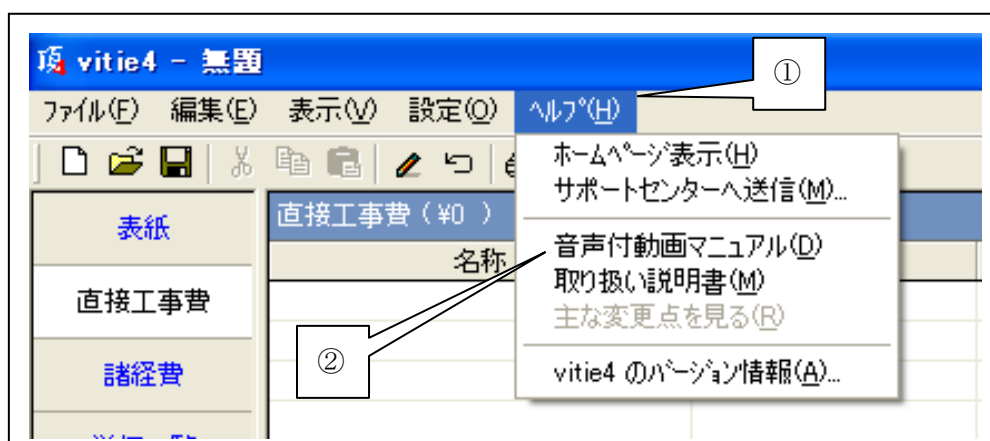
- ② 見たい項目を選択して③【見る】をクリック。

動画マニュアル目次画面



積算の途中で設計書作成画面からでも開くことができます。

- ① メニューバーの「ヘルプ」をクリック。
- ② 「音声付動画マニュアル」をクリック。

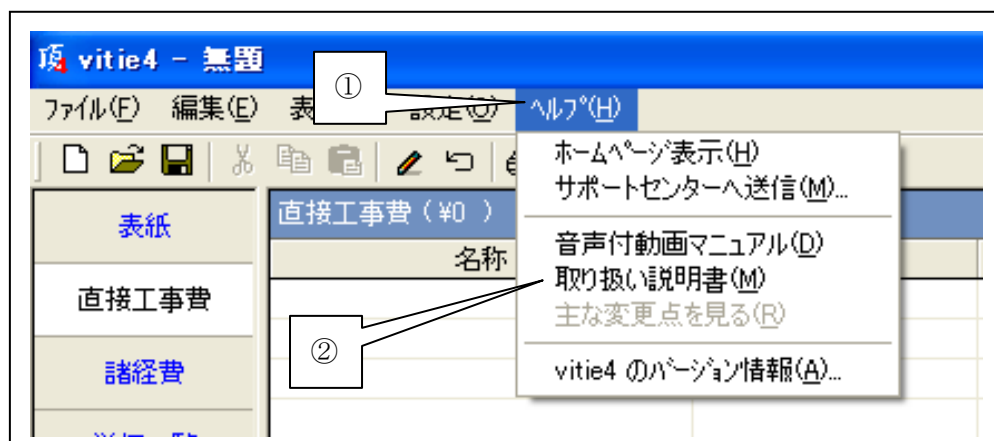


⇒⇒動画マニュアルの目次が開きます。

1-5 取扱説明書を見る

動画マニュアルではなく、文書の取扱説明書を見るには

- ① 設計書のメニューバーの「ヘルプ」をクリック。
- ② 「取扱説明書」を選択してクリック。



⇒⇒取扱説明書が開きます。

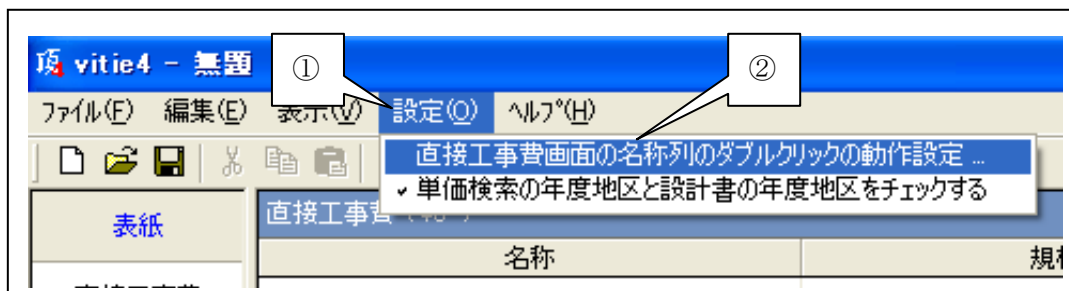
- ③ 目次を表示させて見たい項目を選択してクリック。

⇒⇒該当するページが表示されます。

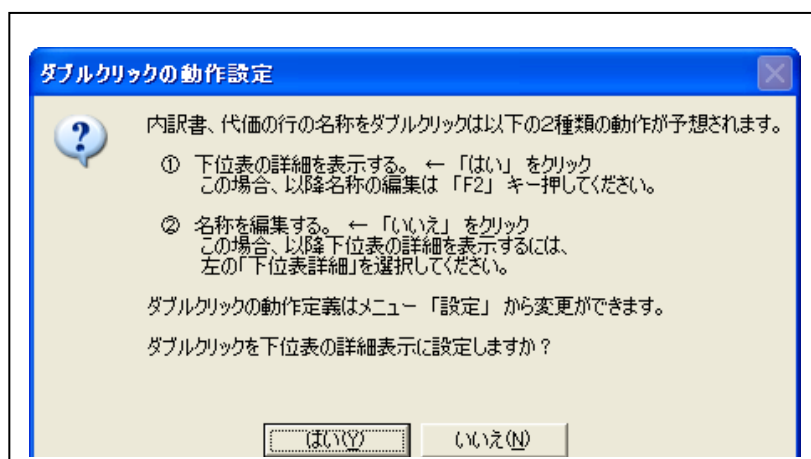
1-6 ダブルクリックの機能を設定する（文字の修正 or 下位表表示）

ダブルクリックの動作を文字修正するための「文字編集」と「下位表の詳細を表示」のどちらかの機能に設定することができます。

- ① メニューバーの【設定】をクリック



- ② 「直接工事費画面の名称列のダブルクリックの動作設定」をクリック
⇒⇒「ダブルクリックの設定」ダイアログが開きます



- ③ 下位表の詳細を表示する場合は【はい】をクリック。
- ④ 文字編集にする場合は【いいえ】をクリック。

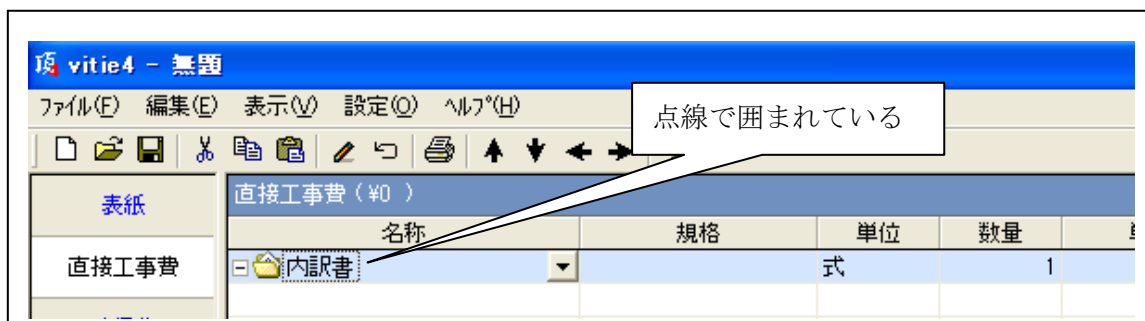
補足説明

- (1) ダブルクリックの動作を“下位表の表示”に設定した場合、文字を編集するときは当該文字列をクリックしてからキーボードの【F2】ボタンを押すと編集モードに入ることができます。
- (2) 逆に“名称を変更する”に設定した場合は、下位表を表示するには左側ボタン部の【下位表詳細】ボタンをクリックします。

1-7 文字を修正する

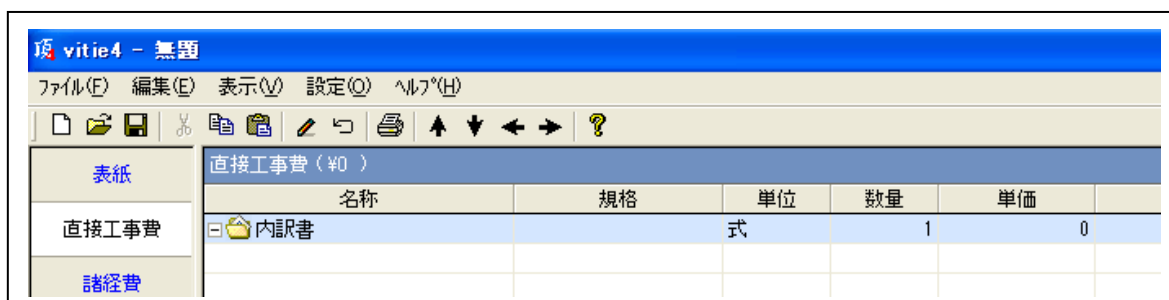
名称欄などの文字を修正する方法を説明します。

- (1) 新規に内訳などを貼り付けた直後の場合



貼り付けた直後は文字の周囲が点線で囲まれています。この状態のときはそのままキーボードで文字を入力すれば変更できます。

- (2) 貼り付けた直後に他の操作をしたために、文字の周囲の点線が無い場合



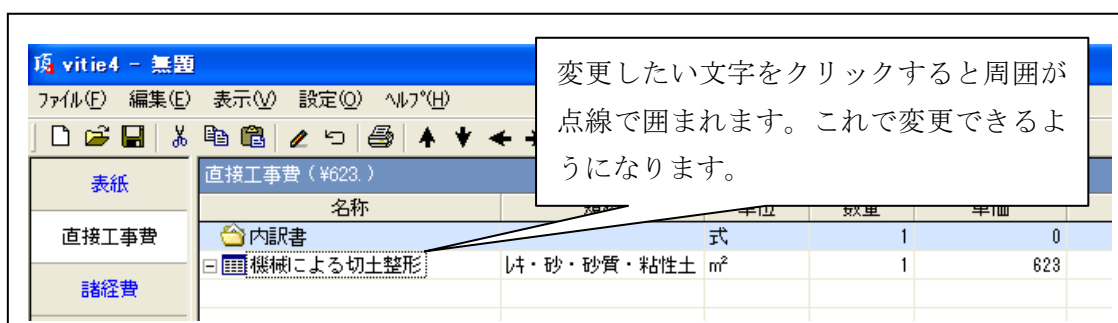
この状態のときは変更したい「内訳書」の文字を 1 度クリックすると、周囲が点線で囲まれて (1) の状態になり、変更することができるようになります。

- (3) 単価検索システムから代価などを貼り付けた場合



単価検索システムから代価などを貼り付けた直後も文字の周囲は点線で囲まれています。

ん。この場合も変更したい文字を 1 度クリックすると、周囲が点線で囲まれて修正できるようになります。名称欄だけでなく規格欄も同様です。



(4) 文字列の一部を修正したい場合

文字の周囲が点線に囲まれている状態のときに別の文字を入力すると既存の文字は全て消えてしまいます。既存の文字列の一部を修正する場合や文字を追加する場合は次の要領で行います。下図の例で「機械による切土整形」を「機械切土整形」に修正してみます。

- ① 修正したい文字列をクリック。
- ② キーボードの【F2】ボタンを押す。⇒⇒背景色が濃いブルーになります。



- ③ 当該箇所カーソルを入れてクリック。⇒⇒カーソルが中に入って点滅します。
- ④ 「による」の 3 文字を削除し【Enter】を押す。

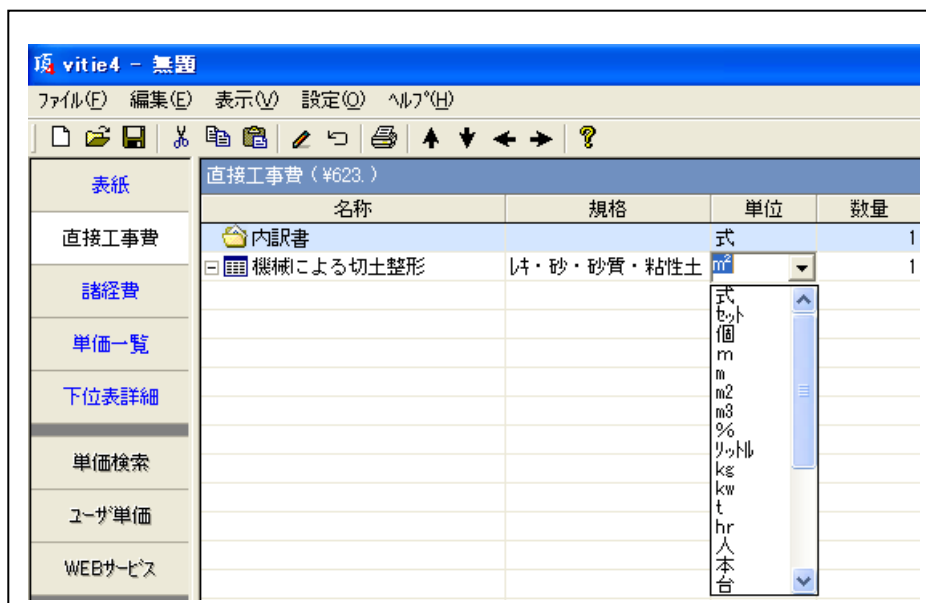


文字の部分修正をするためには【F2】ボタンのほかにダブルクリックの機能を利用するという方法もあります。ただしこの場合はダブルクリックの機能を設定する必要があります。(→「[1-6 ダブルクリックの機能を設定する](#)」参照)

(5) 単位を変更する場合

単位を変更する場合は当該単位欄をクリックすると▼が表示されます。▼をクリックしてプルダウンメニューから変更したい単位を選択します。

もし変更したい単位が無い場合は、名称欄などと同じように直接文字を入力することもできます。

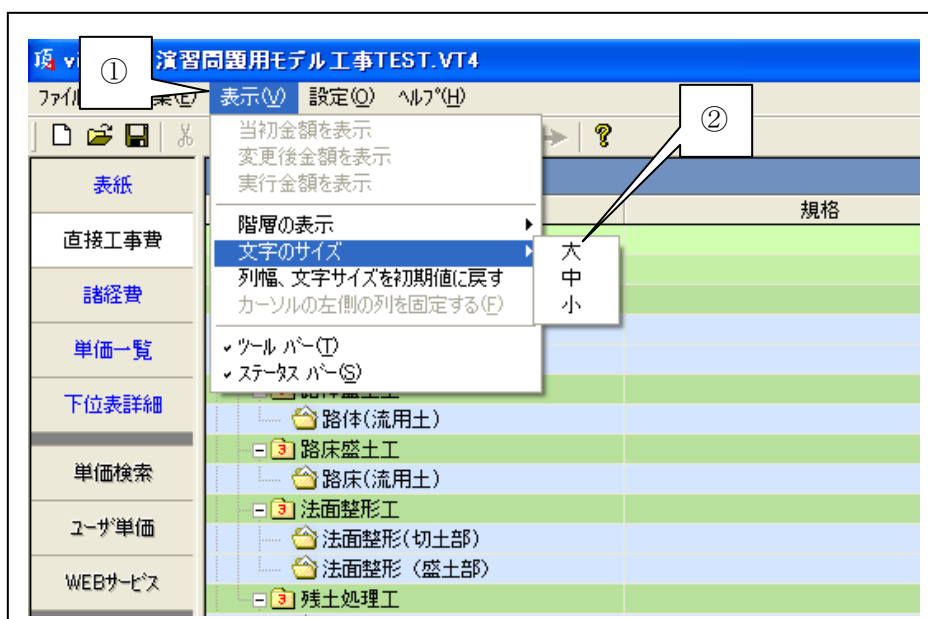


1-8 画面の文字の表示サイズを変える

画面に表示する文字の大きさを「大・中・小」と3段階に変えることができます。単価検索システム画面と設計書画面では別々に設定する必要がありますが、どちらもメニューバーの【表示】タブから選択します。

設計書画面で説明します。

- ① メニューバーの【表示】タブをクリック。
- ② “文字のサイズ”から選択。(ここでは大を選んでみます)



⇒⇒文字が大きくなります。



初期設定では“小”になっています。

2 単価検索

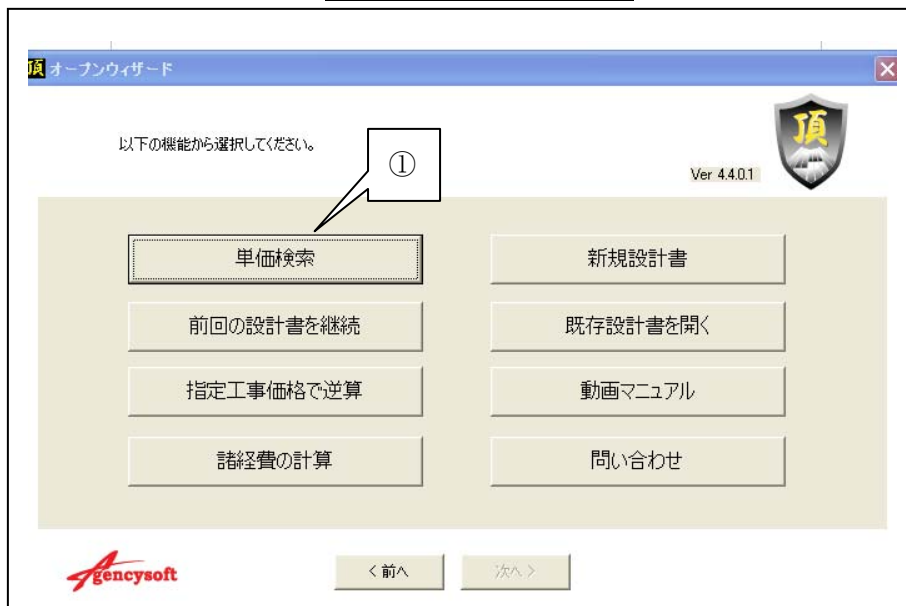
2-1 単価システム画面を開く

設計書を作るのではなく直接代価や単価を知りたい場合と、設計書の作成中に参照したいときでは画面の開き方が違います。

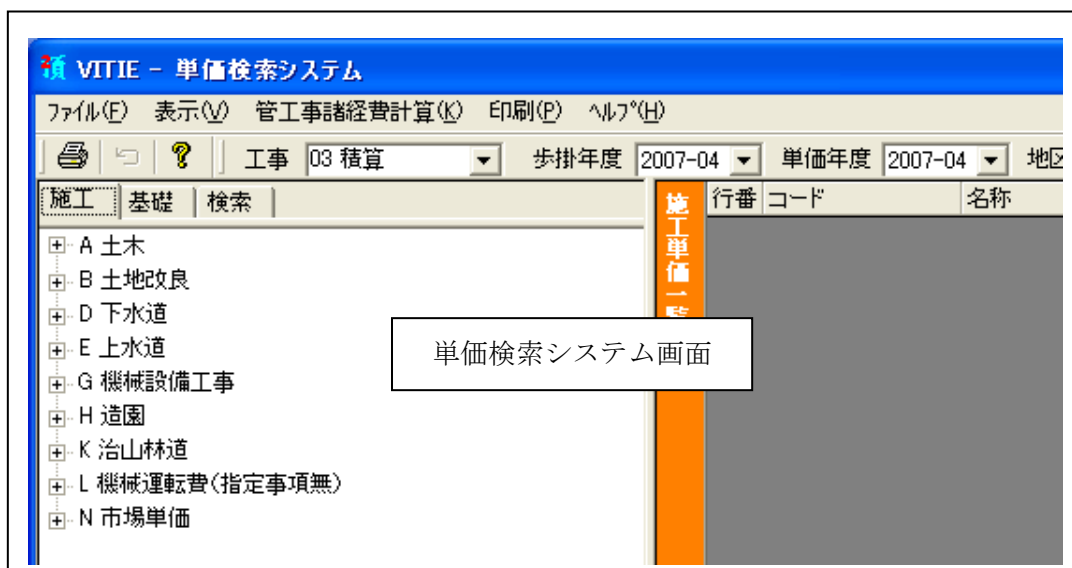
●代価や単価を直接見たい場合（設計書は作成しない）

① オープンウィザードを開いて「単価検索」をクリック。

オープンウィザード画面



⇒⇒単価検索システム画面が開きます

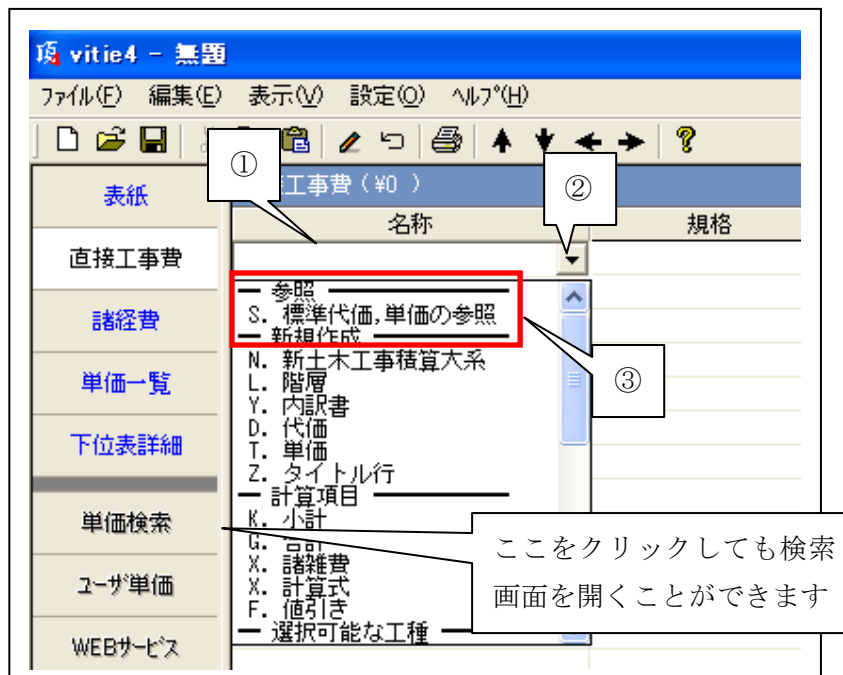


補足説明

- (1) 代価（単価）を探すには→「[2-5 代価\(単価\)をツリーから探す](#)」または→「[2-6 代価\(単価\)を検索機能を使って探す](#)」を参照してください。
- (2) 「頂-単価検索」をダブルクリックしても起動させることができます。
- (3) 単価検索システム画面では名称を変更したり、単価を変更したりすることはできません。変更する場合は設計書に貼り付けてから行います。

●設計書作成中に単価検索システム画面を開く場合

- ① 設計書名称欄をクリック。⇒⇒右端に▼印が表示されます。
- ② ▼をクリック
- ③ 標準代価単価の参照をクリック。



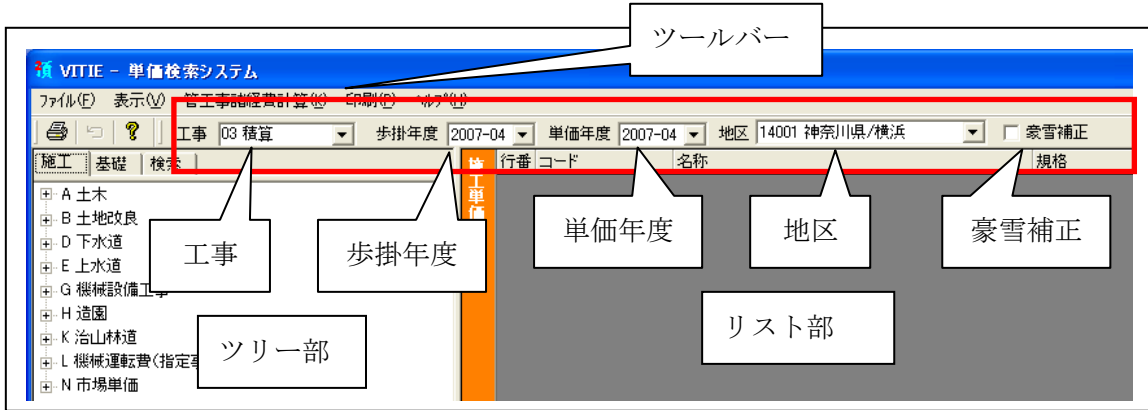
補足説明

- (1) ▼印ではなく左側ボタン部の【単価検索】をクリックしても単価検索システム画面を開くことができます。
- (2) 頂をインストールした後認証をしていないと、単価システム画面を開いたときに認証を求めるメッセージが表示されます。必ず認証をするようにしてください。

2-2 単価検索システム画面の説明

単価検索システム画面は「ツールバー」「ツリー部」「リスト部」と大きく 3 つに分かれています。

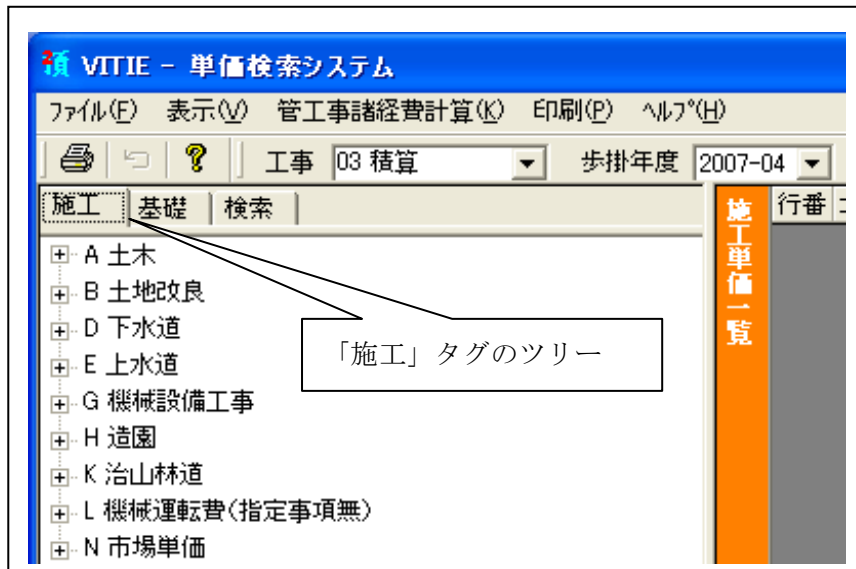
● ツールバーの説明



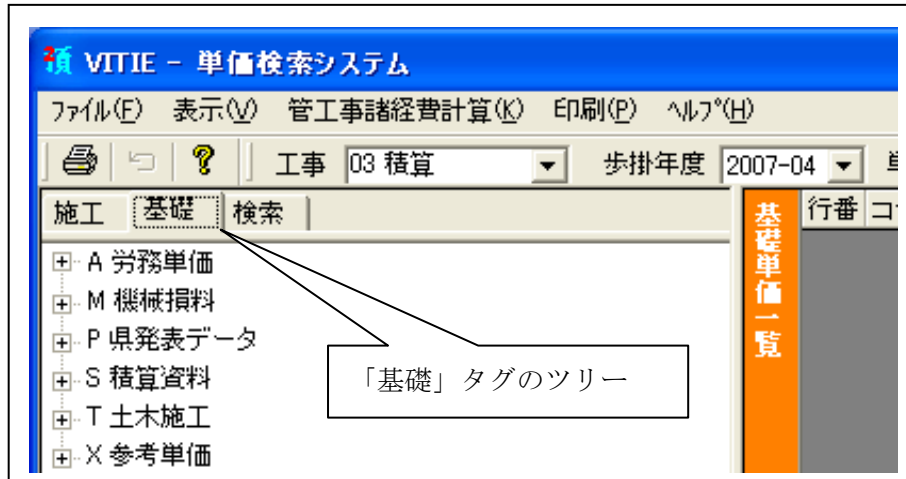
1. **工事**：画面では「03 積算」と表示されています。ご契約の種類によって「01 土木工事」「04 管工事」「05 公園工事」などがあります。その種類によってツリー部に表示される工事の種類が変わります。例えば土木工事でご契約されているお客様は「E 上水道」「G 機械設備工事」「H 造園」は表示されません。
2. **歩掛年度**：画面に表示している歩掛の年度が表示されています。去年の歩掛を見たいときは、右端の▼をクリックして年度を選択することができます。ただし、例えば 2006 年の歩掛（2006-04・2006-10）を表示させるには、2006 年度もご契約されていたユーザーに限ります。2007 年度からご契約されたお客様は▼をクリックしても 2006-04 は表示されませんのでご注意ください。
3. **単価年度**：2007-04 は 2007 年 4 月に公表された単価を表示しています。単価年度も歩掛年度と同様に、ご契約されている過去の年度の単価を見ることができます。
4. **地区**：各県で公表している単価地区を表示しています。積算しようとする工事場所の地区を選択します。単価地区がわからないときは→[「2-3 単価地区を確認する」](#)を参照してください。
5. **豪雪補正**：ここにチェックを入れると機械損料が豪雪補正した単価になります。本州内の指定地域は+10%、北海道は+15%となります。一度チェックを入れると別の工事で新規に積算するときでも、豪雪補正のまま記憶されています。

● ツリー部の説明

施工タグの画面



基礎タグの画面



補足説明

- (1) 施工タグでは下位表のある代価の工種を表示します。
- (2) 基礎タグでは労務費・材料費などの基礎単価を表示します。
- (3) ツリー部の画面はお客様の契約の種類、地区などによって変わります。
- (4) それぞれの使い方は次項以降を参照してください。

検索タグの画面

検索タグの画面

補足説明

- (1) 「名称をあいまい検索する」にチェックを入れておくと、文言が違っていても似ている名称を表示することができます。チェックを入れておくことをお勧めします。
- (2) 検索方法は→「[2-6 代価\(単価\)を検索機能を使って探す](#)」を参照してください。

●リスト部の説明

リスト部はツリー部で選択した工種名を表示する場所です。上段と下段にわかれていて上段の工種名をダブルクリックすると下段にその明細が表示されます。その明細を確認して、目的の代価であるかどうか確認することができます。

ただし基礎単価の場合は明細が無いので、下段は表示されません。

下段の明細まで表示された状態

① ツリーから選択

② 上段の該当行をダブルクリックすると、その明細が下段に表示されます

③ 下段に明細が表示される

リスト部下段を閉じるにはこの をクリック

行番	コード	名称	規格	単位	数量	単価	金額	記	計算式	備考
1	A-1-1-1-2-1-1	バックホウ掘削積込 山積0.8m3(平0.6)	砂・砂質土 レキ質土 粘性土 障害なし	m3	176	17680				
2	A-1-1-1-2-1-2	バックホウ掘削積込 山積0.8m3(平0.6)	砂・砂質土 レキ質土 粘性土 障害あり	m3	288					
3	A-1-1-1-2-1-3	バックホウ掘削積込 山積0.8m3(平0.6)	岩塊・玉石 障害なし	m3	230					
4	A-1-1-1-2-1-4	バックホウ掘削積込 山積0.8m3(平0.6)	岩塊・玉石 障害あり	m3	380					
5	A-1-1-1-2-1-5	バックホウ掘削積込 山積1.4m3(平1.0)	砂・砂質土 レキ質土 粘性土 障害なし	m3	139					
6	A-1-1-1-2-1-6	バックホウ掘削積込 山積1.4m3(平1.0)	砂・砂質土 レキ質土 粘性土 障害あり	m3	215					
7	A-1-1-1-2-1-7	バックホウ掘削積込 山積1.4m3(平1.0)	岩塊・玉石 障害なし	m3	166					
8	A-1-1-1-2-1-8	バックホウ掘削積込 山積1.4m3(平1.0)	岩塊・玉石 障害あり	m3	264					

行番	コード	名称	規格	単位	数量	単価	金額	記	計算式	備考
★	A-1-1-1-2-1	バックホウ掘削積込 山積0.8m3	砂・砂質土 レキ質土 粘性土 障害なし	m3	100	176	17680			
1	A-1-1-1-7-3	バックホウ運転(掘削積込)	山積0.8m3(平0.6)	日	0.33	53560	17674	E		
2	Y0000002248	諸経費		式	1	6	6	D	*U4	
		計					17680			
		1 m3 当たり					176			

上図は①A 土木→1 土工→1 機械土工（土砂,岩石）→1 機械土工(土砂)→2 バックホウ→1 掘削積込（地山）とツリー部で選択し、②リスト部で 1 行目「バックホウ掘削積込 山積 0.8m3[0.6] 砂・砂質土 レキ質土 粘性土 障害なし」を選択してダブルクリックし、③下段にその明細を表示させた状態です。

補足説明

- 下段に表示された明細の中にコードが「A-1-1-1-7-8 バックホウ運転(掘削積込)」のように「アルファベット-数字」になっている行は、代価であることを表し当該行をダブルクリックするとさらにその明細（二次代価）を表示させることができます。
- この画面では修正などはできません。
- 設計書作成画面から検索した場合は、下段の★印行をダブルクリックすれば設計書に貼り付けることができます。

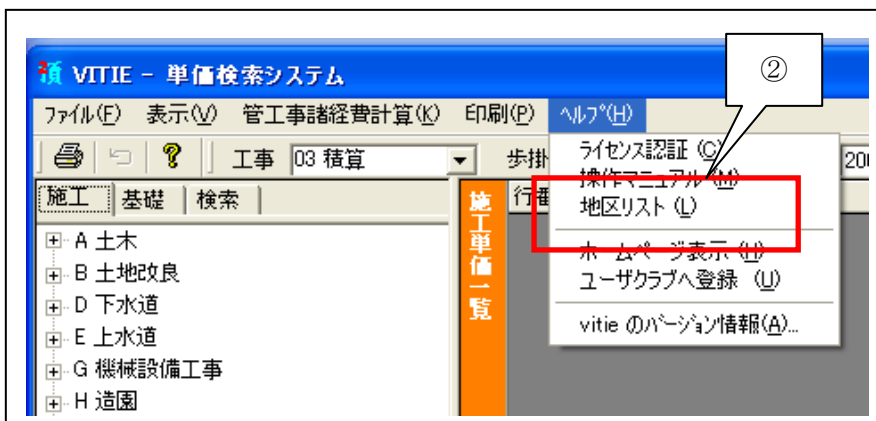
2-3 単価地区を確認する

積算する単価地区がわからないときは、次の要領で確認してください。

- ① 単価検索システム画面を開き、メニューバーの「ヘルプ」をクリック。

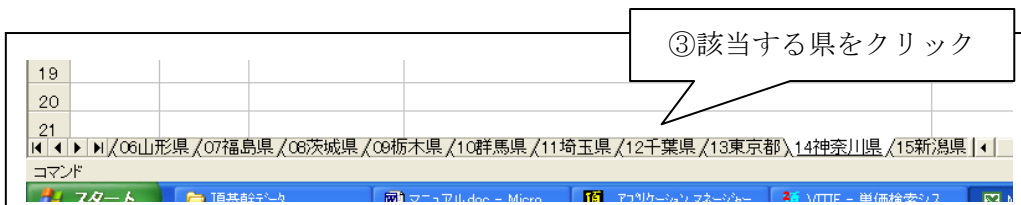


- ② 地区リストをクリック。



⇒⇒地区リストのエクセル画面が開きます。

- ③ 画面最下段の県名リストから該当する県をクリック。



⇒⇒画面にその県の表が開きます。地区名と番号を確認したら

- ④ 右上の【×】ボタンでエクセル画面を閉じます。

単価地区を変更する場合は→「[2-4 単価・歩掛年度及び単価地区を変更する](#)」を参照してください。

2-4 単価・歩掛年度及び単価地区を変更する

ツールバーの各項目のボックス右端にある▼をクリックして選択することができます。
この図は地区ボックスの▼をクリックした状態です。

地区を「15001 新潟県村上1」に変更する

- ① 単価検索システム画面を開きます。
 - ② 地区ボックス右端の▼をクリック。
 - ③ プルダウンメニューから「15001 新潟県村上1」を選択してクリック。
- ⇒⇒村上1地区の単価が表示されます。

単価検索システム画面

②③

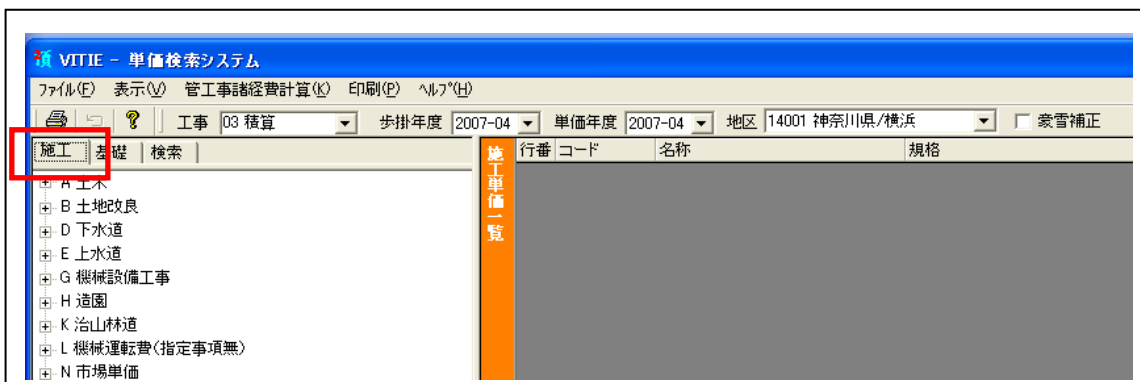
施工	基礎	検索	行番	コード	名称	単価	規格
A 土木	1 土工	+	1	A-31-2-1-1	仮設材運搬	15001 新潟県/村上1	10k
			2	A-31-2-1-2	仮設材運搬	15002 新潟県/村上2	20k
			3	A-31-2-1-3	仮設材運搬	15003 新潟県/村上3	30k
			4	A-31-2-1-4	仮設材運搬	15004 新潟県/村上4	40k
			5	A-31-2-1-5	仮設材運搬	15005 新潟県/村上5	50k
			6	A-31-2-1-6	仮設材運搬	15006 新潟県/村上6	60k
			7	A-31-2-1-7	仮設材運搬	15007 新潟県/村上7	70k
			8	A-31-2-1-8	仮設材運搬	15008 新潟県/村上8	80k

補足説明

- (1) 各ボックスに表示される内容は、お客様の契約状況によって変わります。
- (2) 2006年に契約をされていない場合は単価年度や歩掛年度の▼をクリックしても2006年度分は表示されません。
- (3) 工事場所の単価地区を確認するには、→「[2-3 単価地区を確認する](#)」を参照してください。

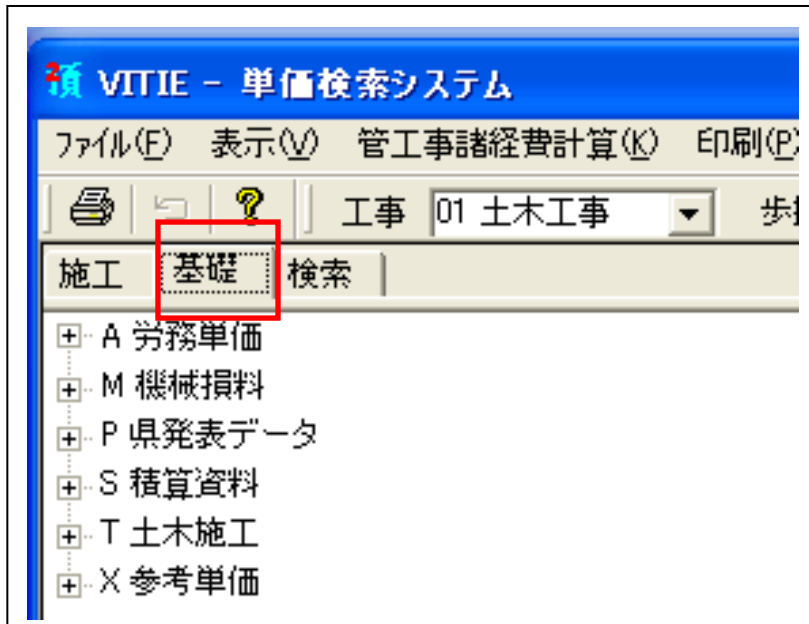
2-5 代価（単価）をツリーから探す

施工の基本画面



ツールバーに「工事」「歩掛年度」「単価年度」「地区」「豪雪補正」の各ボックスがあります。最初にこの部分を確認します。ツリー部にはAからNまでの工種がありますが、ご契約の種類によっては表示されない工種もあります。また、九州地区では「Q.コンクリート二次製品」が表示されます。

基礎の基本画面



「施工」も「基礎」も項目名の前にある \oplus をクリック、または項目名を直接ダブルクリックすると、折りたたまれていた下位部分が順次展開されます。

参考例として「歩道路盤工 再生砕石 RC-40 路盤厚 5 cm」の代価を探します。

- ① 単価検索システム画面を開いて【施工】タブをクリック。(初期値は【施工】になっています)
- ② A 土木の前の【+】をクリック。
- ③ 10 道路舗装の前の【+】をクリック。
- ④ 1 路盤工の前の【+】をクリック。
- ⑤ 4 歩道の前の【+】をクリック。
- ⑥ 5 再生材 RC-40 の文字をクリック。(ここには【+】はないので)
⇒⇒文字をクリックすると、右側のリスト部に関連する工種が一覧表示されます。

行番	コード	名称	規格	単位	単価 (備考)
1	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 3cm(一層)	m ²	576
2	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 4cm(一層)	m ²	597
3	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 5cm(一層)	m ²	617
4	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 6cm(一層)	m ²	637
5	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 7cm(一層)	m ²	658
6	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 8cm(一層)	m ²	678
7	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 9cm(一層)	m ²	698
8	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 10cm(一層)	m ²	719
9	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 11cm(一層)	m ²	739
10	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 12cm(一層)	m ²	759
11	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 13cm(一層)	m ²	779
12	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 14cm(一層)	m ²	800
13	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 15cm(一層)	m ²	820
14	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 16cm(一層)	m ²	840
15	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 17cm(一層)	m ²	861
16	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 18cm(一層)	m ²	881
17	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 19cm(一層)	m ²	901
18	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 20cm(一層)	m ²	922
19	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 21cm(二層)	m ²	1,458
20	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 22cm(二層)	m ²	1,478
21	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 23cm(二層)	m ²	1,498
22	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 24cm(二層)	m ²	1,519
23	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 25cm(二層)	m ²	1,539
24	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 26cm(二層)	m ²	1,559
25	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 27cm(二層)	m ²	1,580
26	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 28cm(二層)	m ²	1,600
27	A-10-1-4-5.	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 29cm(二層)	m ²	1,620

- ⑦ 厚さ 5 cm は 3 行目なので、3 行目をダブルクリック。

⇒⇒リスト部下段に当該代価の明細が表示されます。(次ページ参照) ここで内容を確認します。

この例のように路盤工が土木工事の舗装工にある、とわかっている場合はツリーからの検索を行います。ツリー上のどこにあるか不明の場合は、検索ボックスの使用をお勧めします。(→「[2-6 代価\(単価\)を検索機能を使って探す](#)」参照)

リスト部下段に代価明細が表示された状態

The screenshot shows the VITIE software interface with a list of construction items. The selected item is 'A-10-1-4-5 路盤工(歩道)RC-40' with a unit price of 617. The detailed cost breakdown in the lower pane includes:

行番	コード	名称	規格	単位	数量	単価	金額	記号	計算式	備考
★	A-10-1-4-5-3	路盤工(歩道)RC-40	路盤厚 5cm(一層)	m ²	100	617	61,740			
1	Y0000001624	特殊作業員		人	0.56	16,700	9,362	B		
2	Y0000001625	普通作業員		人	1.77	14,100	24,957	B		
3	Y0000000304	再生コンクリート	RC40-0	m ³	6.35	1,600	10,160	A		100x0.05x1.27
4	A-10-1-6-4	振動ローラー	3~4t標準式・L	日	0.56	28,160	15,769	E		
5	Y0000000248	諸雑費	式	1	1,502	1,502	1,502	D	(B+E)+0.03V4	
		計					61,740			
		1 m ² 当たり					617			

リスト部下段に「路盤工(歩道)RC-40 厚さ 5 cm」の代価表明細が表示されました。

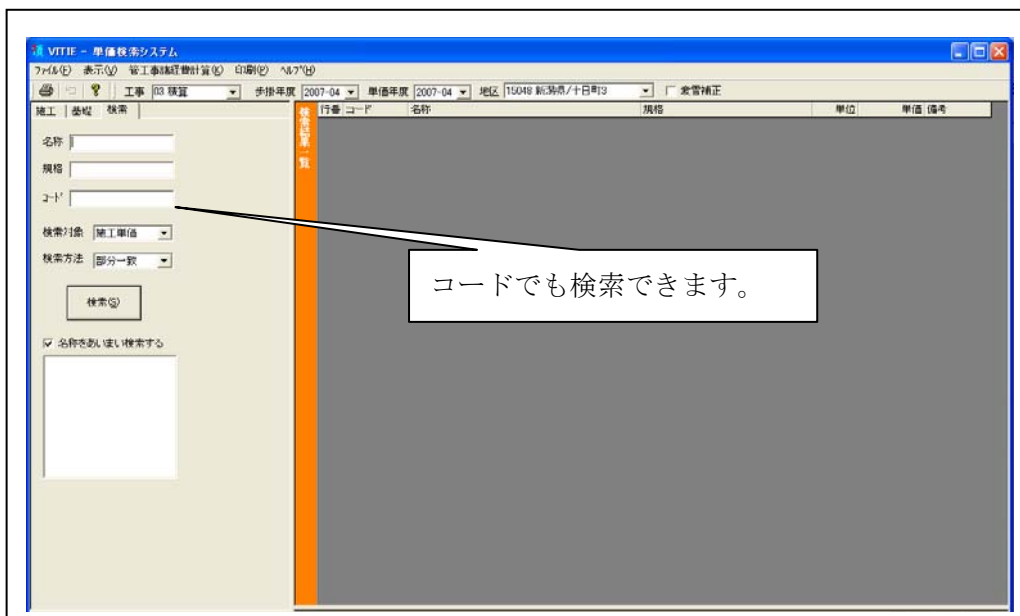
補足説明

- ① 選択した代価を設計書に貼り付ける場合は下段の★印の行をダブルクリックします。
- ② リスト部下段の明細はここで変更することはできません。変更するには設計書に貼り付けた後で行います。
- ③ 単価の場合は①の操作で【基礎】タブをクリックします。単価の場合、明細はないのでリスト部下段は開きません。

2-6 代価（単価）を検索機能を使って探す

探している代価や単価がどこにあるかわからないときは、検索ボックスを使って文字による検索ができます。

検索の基本画面



画面左側のボックスに必要事項を入力して【検索】ボタンをクリックすると、該当するものがある場合は左側のリスト部に表示されます。しばらく待っても何も表示されない場合は該当するものが無いので、文言を変えて検索してください。

名称：検索したい工種名や単価名の一部または全部を入力します。

規格：規格の一部または全部を入力します。

コード：コードの一部または全部を入力します。

検索対象：「施工単価」か「基礎単価」を選択します。

検索方法：「部分一致」か「前方一致」を選択します。通常は「部分一致」をお勧めします。

あいまい検索：ここにチェックをつけておくと似たような言葉の項目も表示します。

補足説明【1】

- (1) 名称・規格・コードの3項目はどれか一項目を入力すれば、他は空欄でも検索できます。
- (2) コード検索は施工工種 (A-1-1-1 など) も基礎単価 (P1010 など) も可能ですが、Yコードはできません。

参考例として「舗装のカッター切断」を検索してみます。

- ① 【検索】タブをクリックして検索画面を開く。
- ② 名称ボックスに「舗装」スペース「切断」と入力し【Enter】を押す。
- ③ 検索対象が「施工単価」になっているのを確認。
- ④ 検索方法が「部分一致」になっているのを確認。
- ⑤ 【検索】ボタンをクリック。

⇒⇒その結果、名称欄に該当する文字を含んだ工種名がリスト部に一覧表示されます。

検索結果画面

① ② ③ ④ ⑤

行番	コード	名称	規格	単位	単価	備考
1	A-12-3-1-1	舗装版切断(アスファルト)	厚20cm以下	m	392	
2	A-12-3-1-2	舗装版切断(アスファルト)	厚30cm以下	m	670	
3	A-12-3-1-3	舗装版切断(アスファルト)	厚40cm以下	m	894	
4	A-12-3-1-4	舗装版切断(エンガート)	厚20cm以下	m	786	
5	A-12-3-1-5	舗装版切断(エンガート)	厚30cm以下	m	1,570	
6	A-12-3-1-6	舗装版切断(エンガート)	厚35cm以下	m	2,865	
7	A-12-3-1-7	舗装版切断(エンガート+アスファルト)	エンガート厚20cm以下 全厚30cm以下	m	1,070	
8	A-12-3-1-8	舗装版切断(エンガート+アスファルト)	エンガート厚20cm以下 全厚45cm以下	m	1,706	
9	A-12-3-1-9	舗装版切断(エンガート+アスファルト)	エンガート厚20cm以下 全厚30cm以上	m	1,570	
10	A-12-3-1-10	舗装版切断(エンガート+アスファルト)	エンガート厚20cm以下 全厚45cm以上	m	2,215	
11	A-12-3-1-11	舗装版切断(エンガート+アスファルト)	エンガート厚30cm以下 全厚45cm以上	m	2,865	
12	E-90-6-4-1	舗装版切断	エンガート版 10cmまで	m	491	
13	E-90-6-4-2	舗装版切断	エンガート版 15cmまで	m	751	
14	E-90-6-4-3	舗装版切断	エンガート版 20cmまで	m	996	
15	E-90-6-4-4	舗装版切断	エンガート版 25cmまで	m	1,392	
16	E-90-6-4-5	舗装版切断	エンガート版 30cmまで	m	1,819	
17	E-90-6-4-6	舗装版切断	エンガート版 45cmまで	m	3,903	
18	E-90-6-4-7	舗装版切断	アスファルト版 10cmまで	m	269	
19	E-90-6-4-8	舗装版切断	アスファルト版 15cmまで	m	369	
20	E-90-6-4-9	舗装版切断	アスファルト版 20cmまで	m	466	
21	E-90-6-4-10	舗装版切断	アスファルト版 25cmまで	m	575	
22	E-90-6-4-11	舗装版切断	アスファルト版 30cmまで	m	662	
23	E-90-6-4-12	舗装版切断	アスファルト版 45cmまで	m	973	

あいまい検索にチェックが付いていることを確認

補足説明【1】

- (1) 材料などの単価を検索するときは検索対象を「基礎単価」にします。
- (2) 上の例のように間にスペースを入れることで、二つ以上の文字を指定できます。1文字でも違えば検索できないので、文字数は少な目の方がヒットする確率が高くなります。二文字程度を推奨いたします。
- (3) リスト部に項目は表示されても、単価が空白のものがありません。これは地区によって単価を発表していない場合があるからです。この場合は近隣地区の単価があればそれを参考にするか、直接取引業者に確認してください。
- (4) 同じ工種名が違うアルファベットコードで表示された場合は、現在積算中の工事種類のものを優先してください。(治山林道なら K コードを優先)

補足説明【2】 検索で表示されるコード先頭文字のアルファベットの意味について

(1) 施工単価の場合

A：土木 B：土地改良 D：下水道 E：上水道 G：機械設備 H：造園 K：治山林道 L：1時間当り機械運転費 N：市場単価

(2) 基礎単価の場合

A：三省労務単価 M：機械損料 P：県発表データ S：積算資料単価 T：土木施工単価 X：参考単価

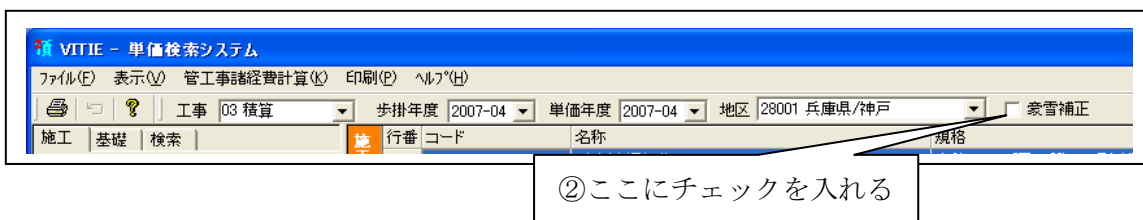
(3) 基礎単価の検索でPコードとSコードの両方があった場合には、県単価のPコードを優先してください。

行番	コード	名称
1	P0116010010	鉄筋二
2	P0116010020	鉄筋二
3	P0116010030	鉄筋二
4	P0116010040	鉄筋二

2-7 機械損料を豪雪補正にする

機械損料を豪雪補正に設定するには以下の手順で行います。

- ① 単価検索システム画面を開く。
- ② ツールバー右端の「豪雪補正」にチェックを入れる。



⇒⇒機械損料が変わります。上段は補正前、下段は補正後を表示しています。バックホウ損料が変わっています。

行番	コード	名称	規格	単位	数量	単価	金額	記	計算式
★	L-1-2-2-1	バックホウ運転費	山積0.28m3[平0...	hr	1	5,057	5,057		
1	Y0000001636	特殊運転手		人	0.16	16,200	2,592	B	
2	Y0000000277	軽油		㍓	7.2	98	705	A	
3	M0202230010	バックホウ[ローラ型・排出ガス...	山積0.28m3(平...	hr	1	1,760	1,760	E	
4	Y0000002248	諸雑費		式	1	0	0	D	*U4
		計					5,057		

行番	コード	名称	規格	単位	数量	単価	金額	記	計算式
★	L-1-2-2-1	バックホウ運転費	山積0.28m3[平0...	hr	1	5,137	5,137		
1	Y0000001636	特殊運転手		人	0.16	16,200	2,592	B	
2	Y0000000277	軽油		㍓	7.2	98	705	A	
3	M0202230010	バックホウ[ローラ型・排出ガス...	山積0.28m3(平...	hr	1	1,840	1,840	E	
4	Y0000002248	諸雑費		式	1	0	0	D	*U4
		計					5,137		

補足説明

- (1) 豪雪補正のチェックは積算の最初に行ってください。
- (2) 一度チェックをつけると改めてチェックをはずさない限り、日時や積算物件が変わっても記憶されます。

3 設計書の作成

3-1 表紙を作成する

- 新規作成の設計書の場合

① オープンウィザード画面の新規設計書をクリック。

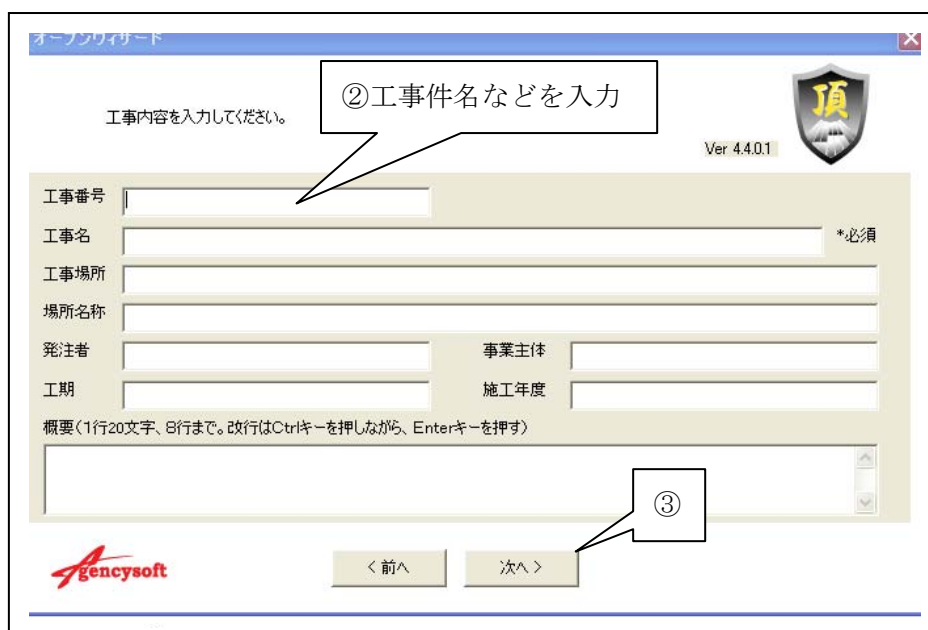
オープンウィザード画面



⇒⇒表紙入力画面が開きます。

② 必要事項を入力。

オープンウィザード 表紙入力画面



③ 【次へ】をクリック。⇒⇒条件設定画面が開きます。

オープンウィザード 積算条件設定画面

- ④ 各種条件を設定して
- ⑤ 【次へ】をクリック。⇒⇒表紙画面が開きます。

表紙画面

- ⑥ 必要があれば、見積情報や会社情報をここで入力。
- ⑦ 【直接工事費】ボタンで直接工事費画面へ進みます。

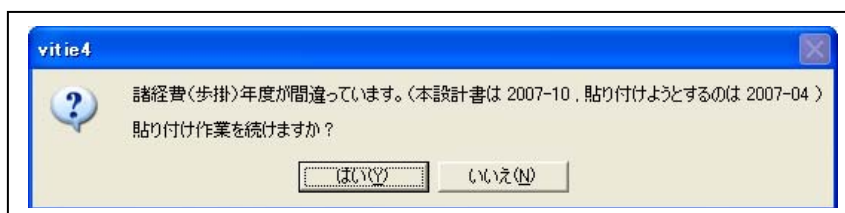
● 後から表紙を作成（編集）する場合

表紙画面は設計書作成画面の【表紙】ボタンでいつでも開くことができます。オープンウィザードの表紙画面で作成しなかった場合や、作成したものを編集する場合は【表紙】ボタンから行います。

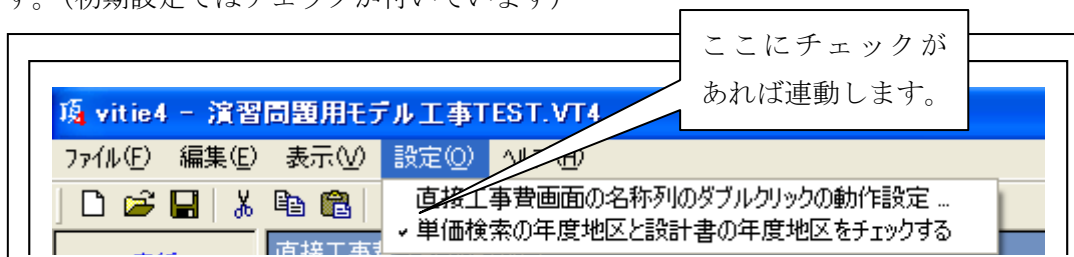
補足説明

- (1) 表紙で積算条件を設定して設計書と連動させて、間違いを未然に防ぐことができます。例えば、違う地区の単価を貼り付けようとする、警告メッセージを出すことができます。

警告画面



連動させるには、設計書画面を開いてメニューバーの「設定」から「単価検索の年度地区と設計書の年度地区をチェックする」にチェックマークが付いているか確認します。(初期設定ではチェックが付いています)



- (2) 会社情報は一度入力すると変更しない限り記憶されます。次回以降の積算には入力する必要はありません。
- (3) 表紙の入力情報がどのように印刷されるか確認するには、【印刷】ボタンで「印刷設定」画面を確認し、プレビュー画面で見ることができます。

3-2 設計書作成画面の説明

設計書画面には「直接工事費画面」と「内訳表画面」「代価表画面」などがあります。内訳表画面は「【第〇〇位内訳表】△△工事」とツールバー下の薄いブルーの枠に現在の画面の名称を表示しています（次ページ参照）。代価表も同じです。直接工事費画面のときは現在までの積上げ金額の合計がカッコ内に表示されています。

直接工事費画面

名称	規格	単位	数量	単価	金額	記号	計算式	摘要	コード
仮設工事	式		1	51,187	51,187				U-4701efc6

左側のボタン部は他の画面と一部を除いて共通しています。クリックすることにより表示されている画面を呼び出すことができます。

表紙：表紙画面を表示します。

直接工事費：表紙や諸経費など他の画面から直接工事費画面を表示します。

諸経費：諸経費画面を表示します。

代価一覧：積算中の設計書で使われている代価の一覧を表示します。同じ代価を再び使う場合はここからコピーして貼り付けることもできます。

単価一覧：積算中の設計書で使われている単価の一覧を表示します。項目毎に集計されますので、全体の数量を知ることもできます。

下位表詳細：当該行が内訳や代価の場合に、その下位表（明細）を開きます。

単価検索：単価検索システム画面を開きます。

ユーザ単価：ユーザー単価画面を開きます。（利用方法は→3-23・24を参照）

共有単価：まだサービスを開始していません。

再計算：数値を変えた場合にこのボタンをクリックすることで、その結果を設計書全体に反映させます。（クリックしなくても【戻る】ボタンなどで、表示画面が変わると自動的に再計算されます）間違いを防ぐために、設定を変えた場合にはこのボタンが赤く変色します。

印刷：印刷設定画面を表示します。

行の挿入：途中に行を挿入します。着目行の上行に新しい行が挿入されます。

切り取り：不要な行を削除します。

コピー：行をコピーするときに、着目行をクリックしてからこのボタンをクリックします。

貼り付け：すぐ上のコピーボタンをクリックした後、このボタンをクリックすると最終行に貼り付けます。途中の行に貼り付けたい場合は、行の挿入をした後にその行をクリックしてからこのボタンをクリックします。

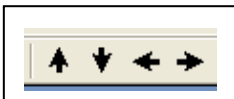
直接工事費画面のツールバーの特殊なものについて説明します。



上行コピーを行います。（一つ上の行をそのままコピーします）



「チェックポイントを設定する」（左側）と「チェックポイントに戻る」（右側）の動作を実行します。チェックポイントについては→「[1-3 積算ファイルを保存する](#)」の補足説明を参照してください。



上下の矢印は行の入れ替えを、左右の矢印は階層方式の場合にレベル数の繰上げ繰下げの動作を実行します。レベル数の移動については→「[3-7 階層のレベルを変更する](#)」を参照してください。

内訳表画面と代価表画面も基本的には直接工事費画面と同じですが、ボタン部に「夜間工事にする」と「戻る」ボタンが追加されます。

内訳表画面

【1位内訳表】土工事と内訳名を表示

名称	規格	単位	数量	単価
★ 土工事		式		
1 バックホウ掘削積込 山積0.8m3 [平0.6]	砂・砂質土 4質土 粘性土 障害なし	m3		

★印の付いた薄いブルーの1行目はタイトル行です。2行目から明細を作ります。

内訳表画面と代価表画面には【夜間工事にする】と【戻る】ボタンがあります。

夜間工事にする : ボタンは現在表示している代価を夜間単価に変更します。(→「[3-22 夜間単価に変更する](#)」参照)

戻る : ボタンで1階層上の画面に戻ります。上の例では直接工事費画面に戻ります。

代価表画面

【1位代価表】バックホウ掘削積込 山積0.8m3 [平0.6]

名称	規格
★ バックホウ掘削積込 山積0.8m3 [平0.6]	砂・砂質土 4質土 粘性土 障害なし
1 バックホウ運転(掘削積込)	山積0.8m3 [平0.6] [加型・排ガス対]
2 諸雑費	

代価表名を表示

3-3 階層・内訳・代価・単価のアイコンの説明

設計書は「階層」「内訳書」「代価表」「単価」などを組み合わせて作成していきますが、それぞれ意味が異なります。例えば「階層」と「内訳」では計算方法や集計方法が異なります。

「頂」では1行ごとにその行が「階層行」なのか「内訳行」あるいは「代価行」や「単価行」なのかを決めながら作成していきます。

ここではそれぞれのアイコンを説明します。アイコンは各行の先頭に表示され、その行が何の行なのかを現しています。

直接工事費画面

直接工事費 (¥2,670,300.)			
	名称	規格	単価
階層行	1 道路改良		式
階層行	2 道路土工		式
内訳行	3 掘削工		式
	掘削(土砂)		m3
	掘削(硬岩)		m3
代価行	3 路体盛土工		m3
	路体(流用土)		式
単価行	3 残土処理工		式
	ダンプトラック運搬 10...	D I D区間無 運搬...	m3
	処分費		m3

階層行：背景色はグリーン・フォルダが閉じている・レベル数を示す赤い数字がある。

内訳行：背景色はブルー・フォルダが半開き・赤い数字はない。

代価行：背景色はなし・横長の表の形。(上図ではダンプトラック運搬)

単価行：背景色はなし・縦長のメモ用紙の形。(上図では処分費)

3-4 階層（新土木積算大系）とは（内訳との違い）

階層とは国土交通省で進める新土木積算大系の用語で、設計書の構成方法の一種です。階層方式に対応するものは内訳書方式です。

内訳方式は第〇〇号内訳書として内訳の明細は別紙に表示しますが、階層方式では下位構造も同一画面で表示します。

階層方式での設計書

名称	規格	単位	数量	単価	金額	記
1 道路改良		式	1		16,587,104	
2 道路土工		式	1		4,402,700	
3 掘削工		式	1		1,919,000	
掘削(土砂)		m3	4500	420	1,890,000	
掘削(硬岩)		m3	50	580	29,000	
3 路体盛土工		m3	1000		127,000	
路体(流用土)		式	1	127,000	127,000	
3 路床盛土工		式	1		591,000	
路床(流用土)		式	1		591,000	
3 法面整形工		式	1		1,227,500	
法面整形(切土部)		式	1		958,500	
法面整形(盛土部)		式	1		269,000	
3 残土処理工		式	1		538,200	
残土処理		式	1		538,200	
2 擁壁工		式	1		3,448,904	
3 作業土工		式	1		67,590	
4 床堀り		式	1		31,260	
バックホウ床堀り 山積0.8m3 (平... 砂・砂質土 1m3)		m3	30		16,500	
バックホウ床堀り 山積0.8m3 (平... 岩塊・玉石 障)		m3	30		14,760	
4 埋戻し		m3	30		36,330	
埋戻しC	1m≦W1<4m	m3	30	1,211	36,330	
3 場所打擁壁工(構造物単位)		式	1		3,381,314	
4 小型擁壁		m3	80		3,381,314	
小型擁壁工(A) (人力打設)	0.5~1.0m	m3	50	41,390	2,069,500	
重力式擁壁工	1m≧2m未満	m3	30	31,270	938,100	
鉄筋工	SD295A D13	t	2.4	109,310	262,344	

この例ではレベル1が道路改良、レベル2は道路土工、レベル3掘削工となり、第4階層目の掘削(土砂)が内訳となっています。また、階層行は数量×単価で金額を表示するのではなく、自分のレベルより下位の合計をそれぞれ表示する集計行になっています。したがって階層行は単価を持つことはできません。


頂では階層行は背景をグリーンで表示しフォルダアイコンにレベル数を表す赤い数字を表示しています。

実際の設計書では工種名の先頭の文字位置がレベルが下るごとに少しずつ後ろへ後退しています。その他集計行の有無などで、階層方式か内訳方式かを判断します。

それに対して内訳行は背景色がブルーでフォルダが少し開いたアイコンで表示しています。このように頂の画面では背景色とアイコンの違いで階層行と内訳行を見分けることができます。

参考に内訳方式の設計書を示します。

内訳方式での設計書



見積算書.VT4

表示(V) 設定(O) ヘルプ(H)

直接工事費 (¥2,535,440.)

名称	規格	単位	数量	単価	金額	記
土工事		式	1	770,000	770,000	
排水工事		式	1	493,600	493,600	
擁壁工事		式	1	921,840	921,840	
舗装工事		式	1	350,000	350,000	

土工事など各工事の下位表は同じ画面ではなく、それぞれ「第〇〇号内訳書」として別画面に表示されます。その分だけ行数が少なくなります。

各大工種の明細は全て別紙に表示され、文字の先頭もズレが無くそろっています。

一般的には土木工事は階層方式、管工事では内訳方式が使われています。

補足説明

- (1) 階層は集計行です。単価を持つことはできません。金額は自分より下位の階層の合計金額です。
- (2) 仮に下位のレベル3以下の工種を持っているレベル2の工種行を削除しようとする場合、「レベル3以下も同時に削除するか、またはそのレベル3をレベル2に繰り上げて残す」かの選択メッセージが出ます。前頁の例ではレベル2の道路土工の行を削除しようとしたときに、レベル3の掘削工・路体盛土工・路床盛土工・法面整形工・残土処理工がこれに該当します。

3-5 階層を利用した設計書作成の流れ（土木工事など）

頂ではあらかじめ用意した画面を利用して、文字入力を最小限にして階層を作ることができます。

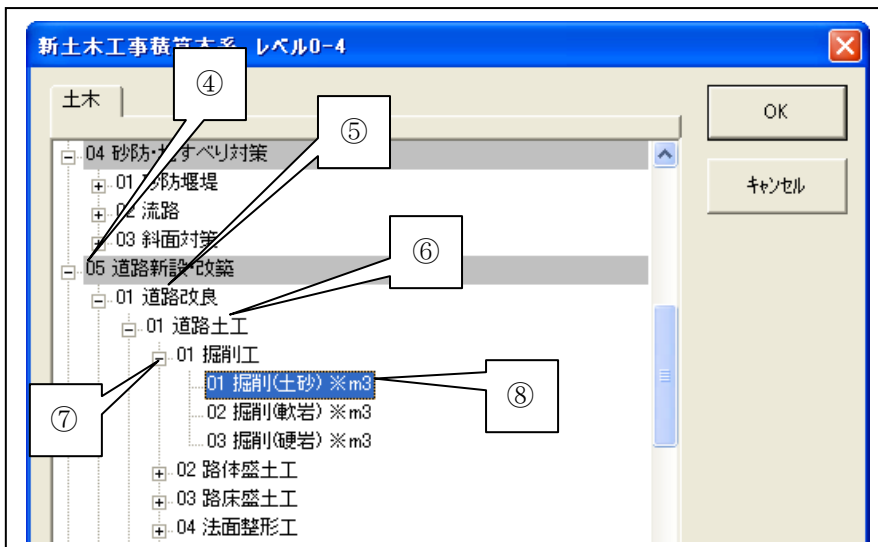
道路改良（レベル1）から掘削(土砂)（レベル4）までを作成してみます

- ① 直接工事費画面で階層を作成する行をクリック。
- ② ▼をクリックしてプルダウンメニューから「新土木積算大系」を選択。



開いた「新土木工事積算大系図」から該当するものを順次選択してOKをクリック。

- ④05 道路新設・改築→⑤01 道路改良→⑥01 道路土工→⑦01 掘削工→⑧掘削(土砂)とクリックして最後に【OK】をクリック。（項目名の前の+をクリックします）



⇒⇒設計書画面に戻って選択した第4階層までが一度に貼り付きます。

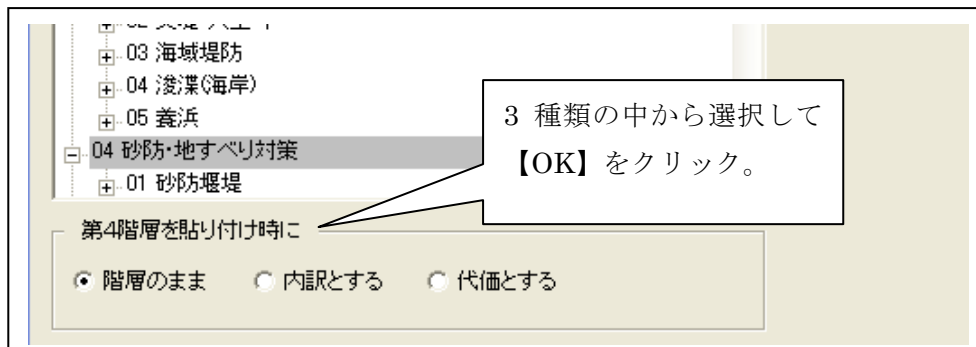
The screenshot shows a software window titled "vitie4 - 無題". The menu bar includes "ファイル(F)", "編集(E)", "表示(V)", "設定(O)", and "ヘルプ(H)". The toolbar contains various icons for file operations and editing. On the left, there is a sidebar with buttons for "表紙", "直接工事費", "諸経費", "単価一覧", and "下位表詳細". The main area displays a table titled "直接工事費 (¥0)".

名称	規格	単位	数量	単価
1 道路改良		式	1	
2 道路土工		式	1	
3 掘削工		式	1	
4 掘削(土砂)		m3	1	

補足説明

- (1) 引き続き道路土工の中の路体盛土を選択すると、第3階層として掘削工と同じレベルで道路土工の明細工種となり、第2階層以上の上位レベルは省略されて重複することはありません。
- (2) 設計書によって第4階層は内訳や代価になっている場合があります。その場合はダイアログ下の、「第4階層を貼り付け時に・・・」の該当するものにチェックをつけてから **OK** をクリックします。(下図参照)
- (3) 階層行は単位を選択することができます。
- (4) 階層行の数量欄は任意の数値を入力することができますが、金額はあくまでも下位層からの集計金額です。(単価はもてません)
- (5) 現在新土木積算大系は土木工事と下水工事が登録されています。

第4階層を内訳書や代価表として貼り付ける場合

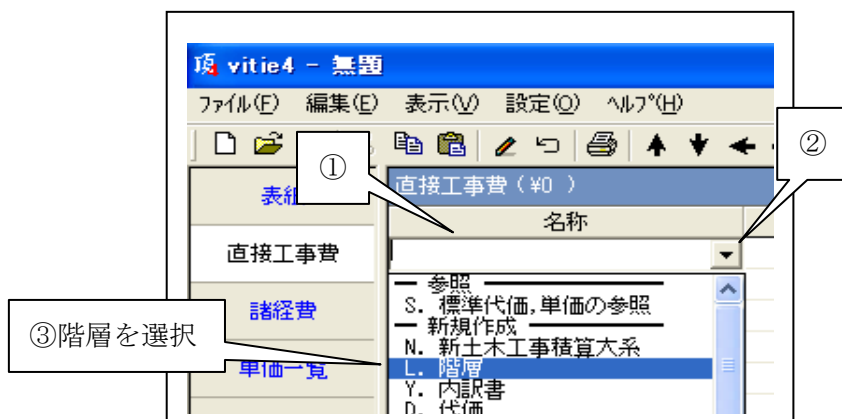


3-6 階層を自由に単独で作る

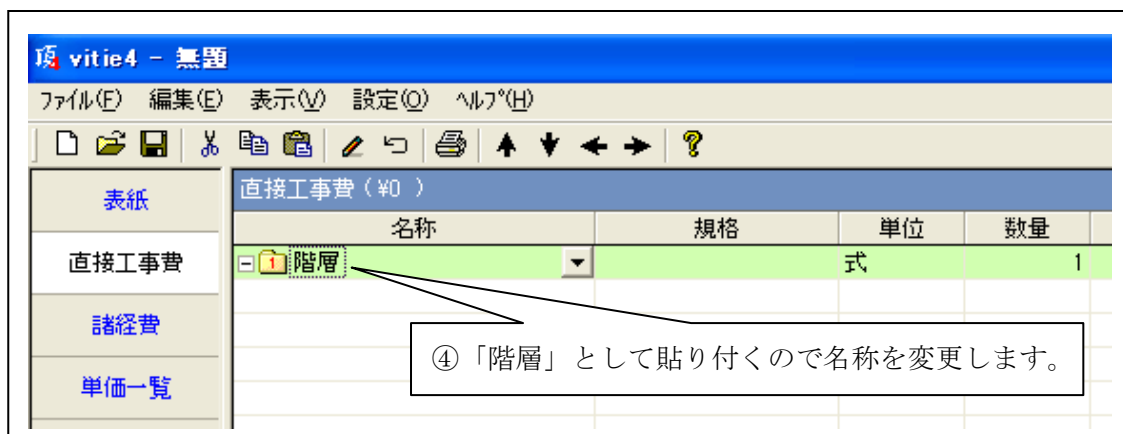
新土木積算大系図を利用しないで階層行を単独で作成することもできます。

「河床整地工」という新土木積算大系に無い階層を作ってみます。

- ① 階層行を作成したい行の名称欄をクリック。
- ② ▼をクリック。
- ③ プルダウンメニューから「階層」を選択。



⇒⇒直接工事画面に階層行が貼り付きます。



- ④ 名称を「河床整地工」に変更。

補足説明
(1) 貼り付けた階層のレベルは直前上位のレベルの直下になります。レベルを移動させるにはツールバーの左右向き矢印を使います。(→「[3-7 階層のレベルを変更する](#)」を参照してください)

3-7 階層のレベルを変更する

階層のレベル数は任意に変更することができます。



たとえばレベル3の残土処理工をレベル4に下げてみます。

- ① 移動させたい階層行をクリック。
 - ② ツールバーの【→】をクリック。
- ⇒⇒下図のように移動します。



もう一度今度は【←】をクリックすれば元に戻すこともできます。

しかし、階層構造に矛盾するような移動はできません。例えば前頁の例でレベル 2 の道路土工をレベル 3 にすることはできません。(レベル 2 が無いのにレベル 3 を作ることはできません)

またレベルを変更したことによりその工種が上下に移動してしまうことがあります。

直接工事費 (¥2,584,200.)			
名称	規格	単位	
1 道路改良		式	
2 道路土工		式	
3 掘削工		式	
掘削(土砂)		m3	
掘削(硬岩)		m3	
3 路体盛土工		m3	
路体(流用土)		式	
3 残土処理工		式	
残土処理		m3	

上図の例で 3 行目のレベル 3 掘削工をレベル 2 に移動してみます。

直接工事費 (¥2,584,200.)			
名称	規格	単位	
1 道路改良		式	
2 道路土工		式	
3 路体盛土工		m3	
路体(流用土)		式	
3 残土処理工		式	
残土処理		m3	
2 掘削工		式	
掘削(土砂)		m3	
掘削(硬岩)		m3	

このように他のレベル 3 の下に移動してしまいます。この理由はこの移動により、掘削工

は道路土工の下位から抜け出して道路土工と同じレベルになったため、従来の道路土工の下位である路体盛土工と残土処理工を残して独立したからです。

このように階層のレベル移動は上下の移動が伴う場合もあるので、行数が多い場合は移動した行が削除されたような錯覚を起こす場合もあります。このような場合は階層を折りたたんで作業すると間違いを防ぐことができます。(→「[3-8 階層を折りたたむ](#)」参照)

補足説明

- (1) 階層を移動させるとその行だけでなく、自分より下位の階層も一緒に移動します。
- (2) 矛盾が起きるような階層の移動はできません。移動させる階層の順序を変えらるゝできる場合もあります。
- (3) 階層方式の場合は設計書が長くなり、数ページにわたる場合があります。見にくい場合は階層を折りたたんで作業することができます。

3-8 階層を折りたたむ（指定したレベル以下を非表示にする）

階層方式の設計書でページ数が多くなり作業がやりにくい場合は、任意のレベルまで表示しそれ以下のレベルの項目を折りたたんで非表示にすることができます。

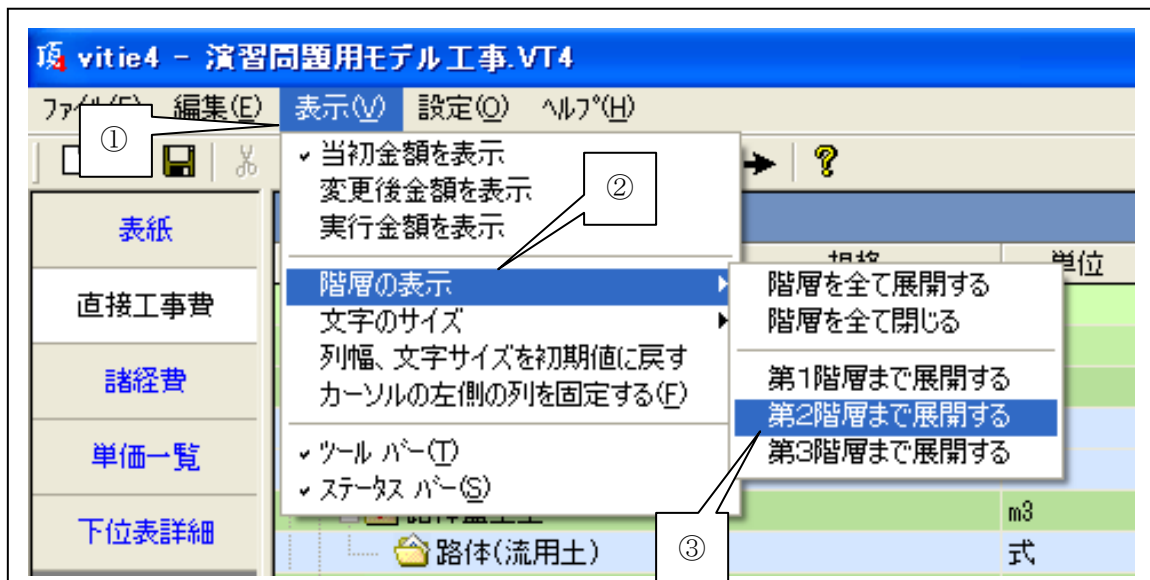
折りたたむ前の設計書画面

表紙	直接工事費 (¥16,587,104)							
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	記号	計算式
直接工事費	① 道路改良		式	1		16,587,104		
諸経費	② 道路土工		式	1		4,402,700		
単価一覧	③ 掘削工		式	1		1,919,000		
下位表詳細	掘削(土砂)		m3	4500	420	1,890,000		
	掘削(硬岩)		m3	50	580	29,000		
単価検索	③ 路床盛土工		m3	1000		127,000		
ユーザ単価	路床(流用土)		式	1	127,000	127,000		
WEBサービス	③ 路床盛土工		m3	3000		591,000		
再計算	路床(流用土)		式	1	591,000	591,000		
印刷	③ 法面整形工		式	1		1,227,500		
行の挿入	法面整形(切土部)		m2	1500	639	958,500		
切り取り	法面整形(盛土部)		m2	500	538	269,000		
コピー	③ 残土処理工		式	1		538,200		
貼り付け	残土処理		m3	50	10,764	538,200		
	② 擁壁工		式	1		3,448,904		
	③ 作業土工		式	1		87,590		
	④ 床掘り		m3	100		31,260		
	H ³ の床掘り 山...	砂・砂質土 4質土...	m3	60	275	16,500		
	H ³ の床掘り 山...	岩塊・玉石 障害なし	m3	40	369	14,760		
	④ 埋戻し		m3	30		36,330		
	埋戻しC	1m≦W1<4m	m3	30	1,211	36,330		
	③ 場所打擁壁工(構造...		式	1		3,381,314		
	④ 小型擁壁		m3	80		3,381,314		
	小型擁壁工(A...	0.5~1.0m	m3	50	41,390	2,069,500		
	重力式擁壁工	1m超2m未満	m3	30	31,270	938,100		
	鉄筋工	SD295A D19	t	2.4	109,310	262,344		
	鉄筋工	SD295A D16	t	1	111,370	111,370		
	② 舗装		式	1		8,500,500		
	③ 舗装準備工		式	1		129,000		
	不陸整正	補足材なし	m2	1500	86	129,000		
	③ アスファルト舗装工		式	1		8,371,500		
	下層路盤	RC-40 仕上り厚500mm	m2	1500	1,387	2,080,500		
	上層路盤	RM-40 仕上り厚300mm	m2	1500	290	435,000		
	上層路盤	再生湿害安定処理...	m2	1500	1,780	2,670,000		
	基層	再生粗粒度 舗装...	m2	1500	983	1,489,500		
	表層	密粒度 舗装厚50mm	m2	1500	1,131	1,696,500		
	② 区画線工		式	1		235,000		
	③ 区画線工		式	1		235,000		
	溶解式区画線		式	1	235,000	235,000		

上図はレベル1からレベル4の明細まで全て表示されています。

レベル2の明細まで表示して、レベル3以下の明細を折りたたんでみます。

- ① メニューバーの「表示」タグをクリック。
- ② 「階層の表示」を選択。
- ③ 「第2階層まで展開する」をクリック。



⇒⇒第4階層以下が非表示になりました。(第2階層の明細である第3階層まで表示しています)

The screenshot shows a detailed view of construction items. The table is as follows:

直接工事費 (¥16,587,104.)			
	名称	規格	単位
[-]	1 道路改良		式
[-]	2 道路土工		式
[+]	3 掘削工		式
[+]	3 路体盛土工		m3
[+]	3 路床盛土工		m3
[+]	3 法面整形工		式
[+]	3 残土処理工		式
[-]	2 擁壁工		式
[+]	3 作業土工		式
[+]	3 場所打擁壁工(構造...		式
[-]	2 舗装		式
[+]	3 舗装準備工		式
[+]	3 アスファルト舗装工		式
[-]	2 区画線工		式
[+]	3 区画線工		式

このうち特定の階層だけ明細を表示させるには、アイコンの前の「+」をクリックします。
レベル3の最初の「掘削工」の明細を開いてみます。

① 「掘削工」の前にある「+」をクリック。

①この+をクリック

直接工事費 (¥16,587,104)						
	名称	規格	単位	数量	単価	
直接工事費	1 道路改良		式	1		
	2 道路土工		式	1		
諸経費	3 掘削工		式	1		
単価一覧	掘削(土砂)		m3	4500	420	
	掘削(硬岩)		m3	50	580	
下位表詳細	+ 3 路体盛土工		m3	1000		
	+ 3 路床盛土工		m3	3000		
単価検索	+ 3 法面整形工		式	1		
	+ 3 残土処理工		式			
ユーザ単価	2 擁壁工		式			
WEBサービス	+ 3 作業土工		式			
	+ 3 場所打擁壁工(構造...)		式	1		
再計算	2 舗装		式	1		
	+ 3 舗装準備工		式	1		
	+ 3 アスファルト舗装工		式	1		
印刷	2 区画線工		式	1		
	+ 3 区画線工		式	1		

この項目だけ明細が表示されました

補足説明

(1) アイコンの前に「+」記号があるときは、その階層の下位に折りたたまれて非表示になっている行があることを示しています。

3-9 階層を内訳に（内訳を階層に）切り替える

頂では「階層」を「内訳」に変更することができます。またその逆も可能です。

The screenshot shows the 'vitie4' software interface with a menu open. The menu path is: 表示(B) > 階層⇄内訳の切り替え(K). A callout box ① points to the '小型擁壁' row in the table. Another callout box ② points to the '編集(E)' menu item. A third callout box ③ points to the '階層⇄内訳の切り替え(K)' menu item.

規格	単位	数量	単価
式		1	
式		1	
式		1	
m3		4500	420
m3		50	580
m3		1000	
式		1	127,000
m3		3000	
式		1	591,000
式		1	
m2		1500	639
m2		500	538
式		1	
m3		50	10,764
式		1	
式		1	
式		30	275
式		40	369
式		30	
m3		30	1,211
式		1	
m3		80	
m3	0.5~1.0m	50	41,390
m3	1m≧2m未満	30	31,270
t	SD295A D13	2.4	109,310
t	SD295A D16	1	111,370
式		1	
式		1	
m2	補足材なし	1500	86

上図のレベル4の「小型擁壁」を内訳に替えてみます。

- ① 当該行をクリック。（着目行にします）
- ② メニューバーの「編集」をクリック。
- ③ 「階層⇄内訳の切り替え」をクリック。

次ページに結果を示します。

vitie4 - 演習問題用モデル工事.VT4						
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 設定(O) ヘルプ(H)						
[Icons]						
表紙	直接工事費 (¥16,587,104.)					
	名称	規格	単位	数量	単価	
直接工事費	1 道路改良		式	1		
諸経費	2 道路土工		式	1		
単価一覧	3 掘削工		式	1		
下位表詳細	掘削(土砂)		m3	4500	420	
	掘削(硬岩)		m3	50	580	
単価検索	3 路体盛土工		m3	1000		
ユーザ単価	路体(流用土)		式	1	127,000	
WEBサービス	3 路床盛土工		m3	3000		
再計算	路床(流用土)		式	1	591,000	
印刷	3 法面整形工			1		
行の挿入	法面整形(切土部)			1500	639	
切り取り	法面整形(盛土部)		m2	500	538	
コピー	3 残土処理工		式	1		
貼り付け	残土処理		m3	50	10,764	
	2 擁壁工		式	1		
	3 作業土工		式	1		
	4 床掘り		m3	100		
	がっけの床掘り(山...)	砂・砂質土 け質土...	m3	60	275	
	がっけの掘り(山...)	岩塊・玉石 障害なし	m3	40	369	
	4 埋戻し		m3	30		
	埋戻しC	1m≦W1<4m	m3	30	1,211	
	3 場所打擁壁工(構造...)		式	1		
	小型擁壁		m3	80	3,381,314	
	2 舗装		式	1		
	3 舗装準備工		式	1		
	不陸修正	舗装材付	m2	1500	86	

内訳になりました

補足説明

(1) 階層から内訳に切り替えるとき、その階層が 1 以外の数量を持っていると、金額が合わなくなります。上の例だと、小型擁壁は階層のとき数量は 80m3 で単価は無く、金額は 3,381,314 円でした。内訳に切り替えると内訳の単価が 3,381,314 円になり金額は $80m3 \times 3,381,314 = 270,505,120$ 円になってしまいます。階層は集計行で単価を持ってませんが、内訳は単価を持てるのでこの現象がおきてしまいます。これを防ぐには階層の段階で数量を「1」にしておく必要があります。

(2) 内訳から階層に切り替えることもできます。

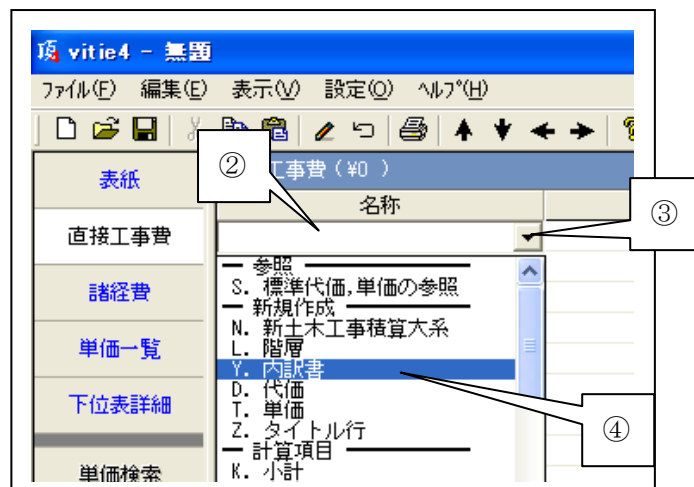
3-10 内訳方式での設計書作成の流れ（管工事など）

新土木積算大系の階層方式ではなく、内訳方式での設計書を作成してみます。

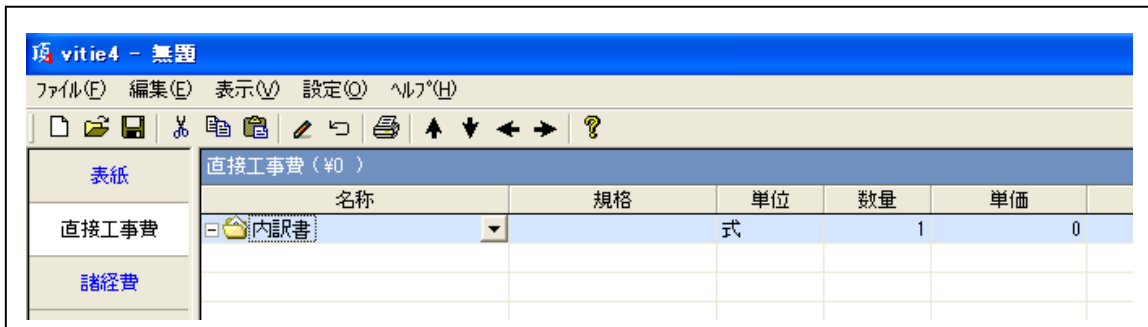
完成後のイメージ

本工事費内訳書							
費目	工種	施工名称	数量	単位	単価	金額	摘要
** 本工事費 **							
管布設工			1	式		3,231,121	
マンホール設置工			1	式		682,076	
樹及び取付管布設工			1	式		47,336	
付帯工			1	式		442,887	
【直接工事費計】						4,383,400	
【共通仮設費計】						652,350	
運搬費			1	式		102,571	4,383,400 ×0.0234
準備費			1	式		80,000	4,383 ×0.0165 率計算に+8千円,千円単位

- ① 直接工事費画面を開きます。
- ② 1行目の名称欄をクリック。（▼を表示させます）
- ③ ▼をクリック。
- ④ 「内訳書」をクリック。



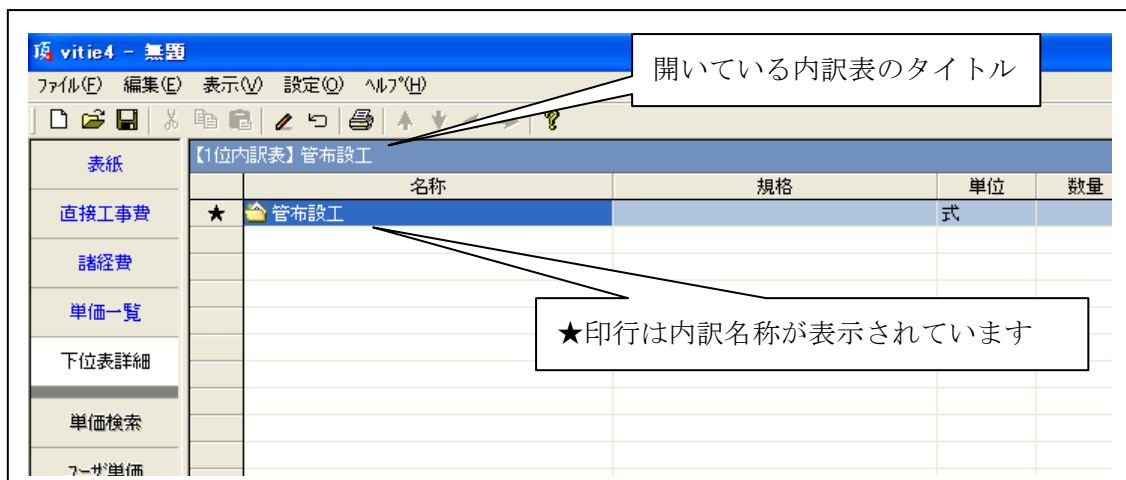
⇒⇒設計書に「内訳書」と貼り付きます。



- ⑤ 名称を管布設工と変更します。(文字の変更方法は→「[1-7 文字を修正する](#)」参照)
- ⑥ 同様に2行目以下「マンホール設置工」「柵及び取付管布設工」「付帯工」と作っていきます。

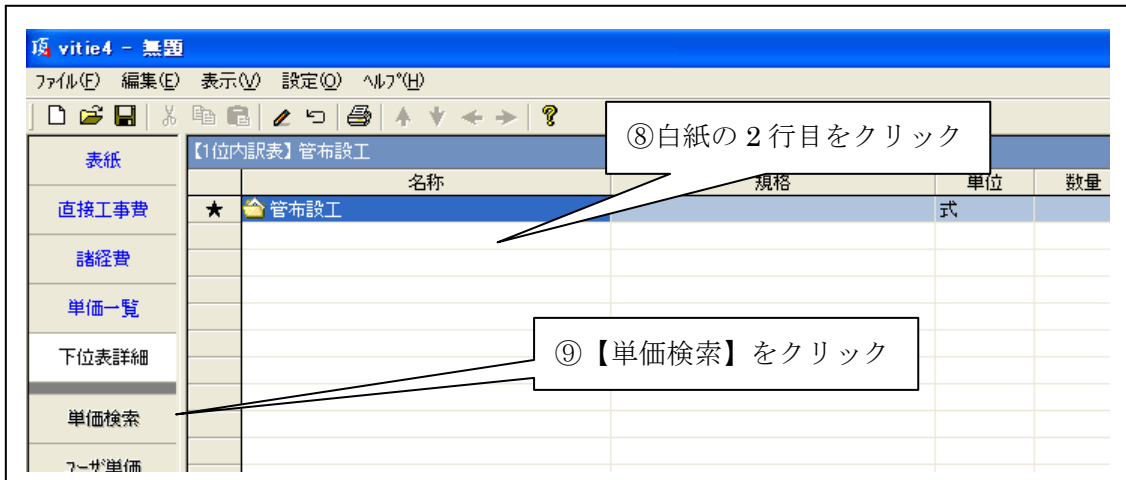


- ⑦ 次に管布設工の明細を作ります。1行目の管布設工をクリックして(着目行にして)下位表を開くために左側の【下位表詳細】をクリック。
- ⇒⇒下位表の「【1位内訳表】管布設工」が開きます。1行目の★はタイトル行です

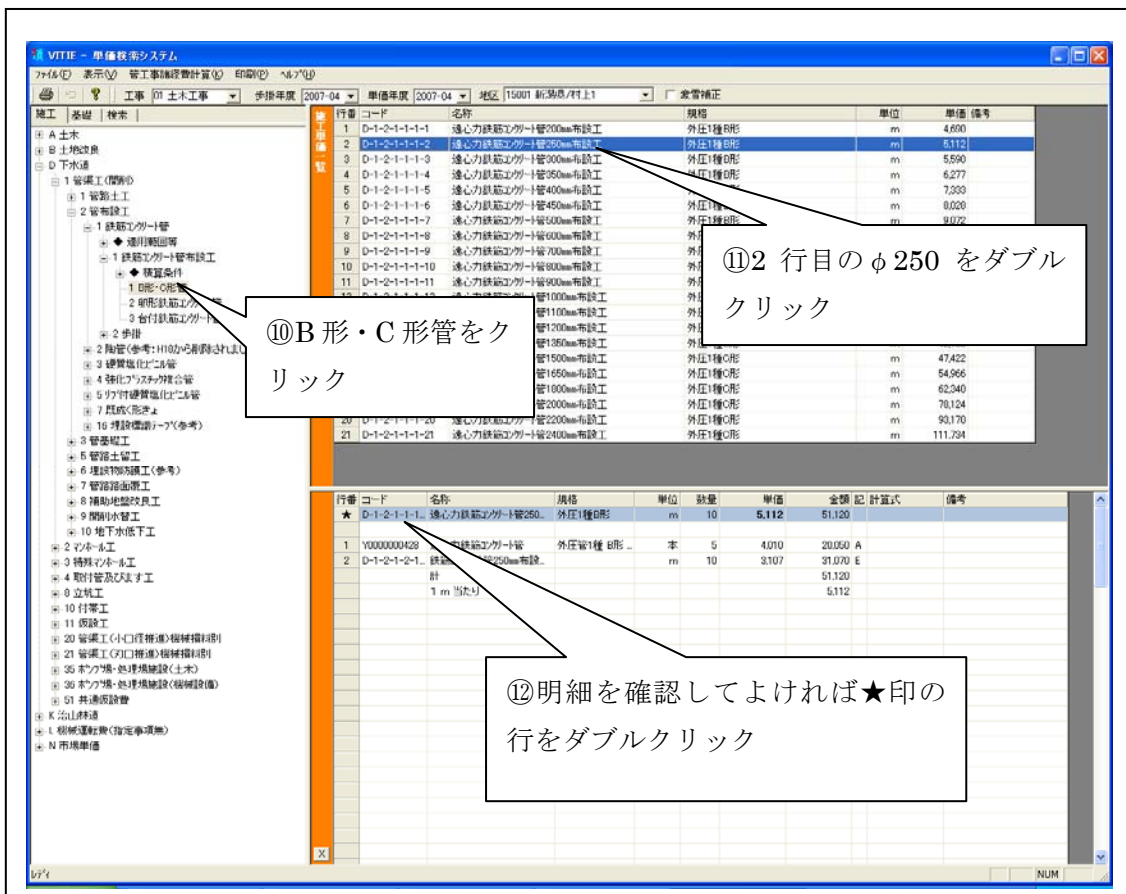


2行目から「管布設工」の明細を作っていきます。(明細は代価と仮定します)

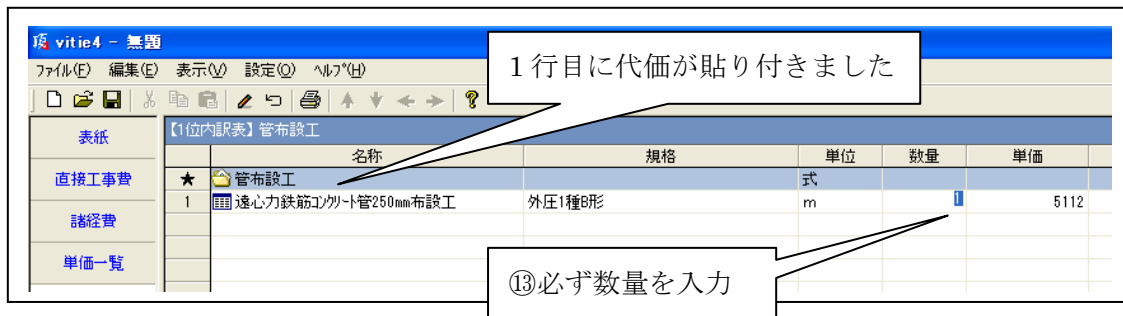
- ⑧ タイトル行のすぐ下の2行目をクリック。(着目行にします)
- ⑨ 【単価検索】をクリック。(▼をクリックしてプルダウンメニューから「標準代価,単価の参照」を選択しても同じです)



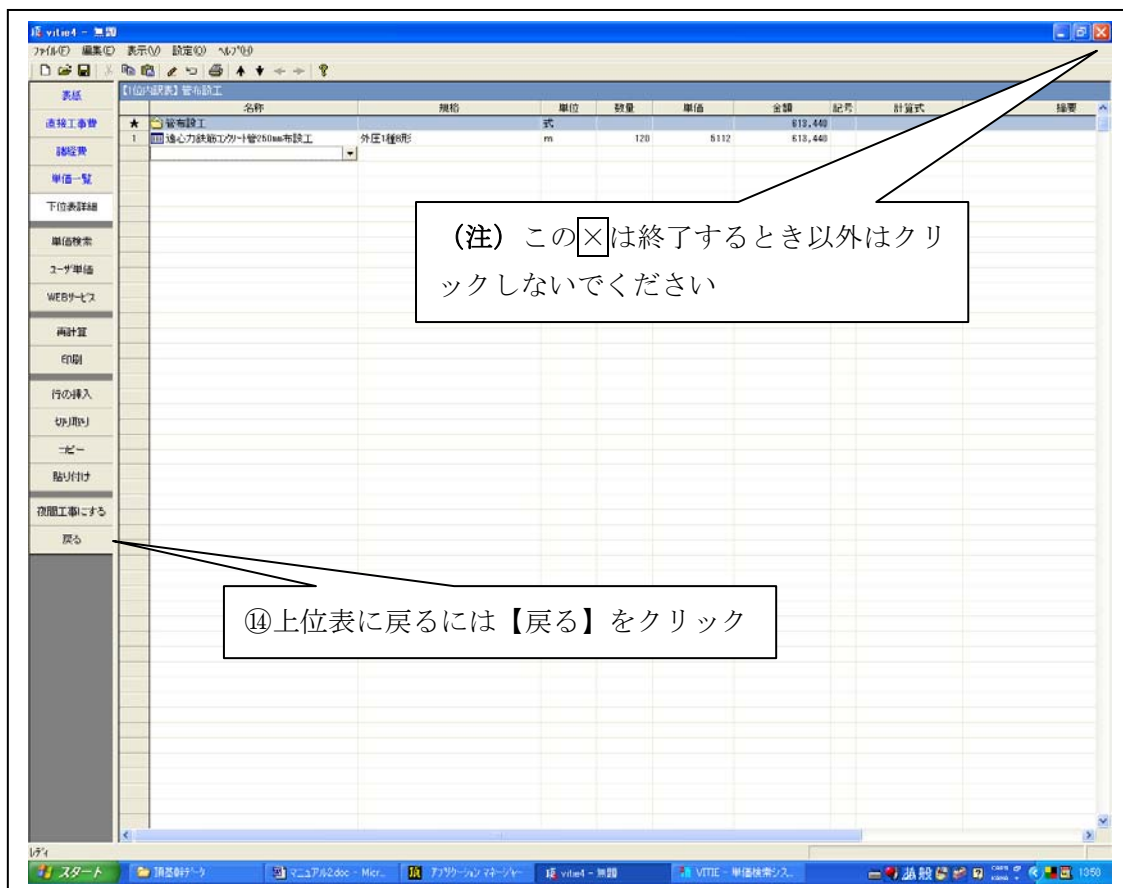
⇒⇒単価検索システム画面が開きます



- ⑩ ツリーの「+」を順次クリックしていき「B形・C形管」をクリック。
 - ⑪ リスト部に開いた代価一覧の中から2行目の250mmをダブルクリック。
 - ⑫ リスト部下部の明細を確認して★印の行をダブルクリック。
- ⇒⇒設計書画面に戻って「遠心力鉄筋コンクリート管」の代価が貼り付きます。



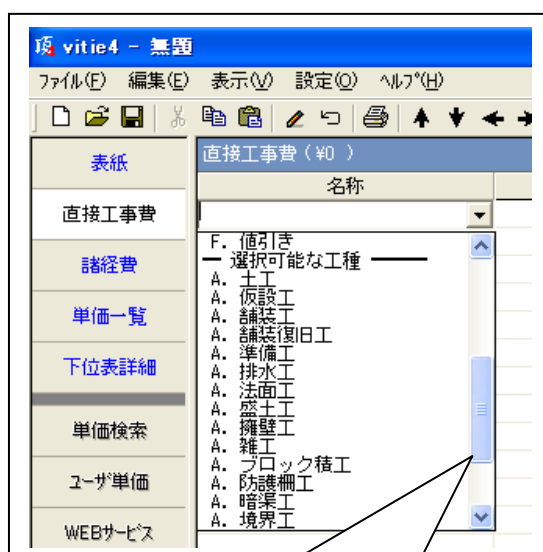
- ⑬ 数量を入力。(貼り付けたときは常に「1」になっています)
- 以上で「【1位内訳表】管布設工」の明細の1行目である代価表を貼り付けることができました。必要があれば2行目以降も同じように作成していきます。
- ⑭ 「【1位内訳表】管布設工」の明細が終了して、上位表である直接工事費画面に戻するには左側ボタン部の一番下にある【戻る】ボタンをクリックします。



- ⑮ 直接工事費画面に戻ったら【諸経費】ボタンをクリックして諸経費の編集へ進みます。

補足説明

- (1) プルダウンメニューの下方に下図のように「選択可能な工種」があります。
(スクロールバーにカーソルを当てて下方へドラッグすると表示されます) 新しい内訳書を作るとき、内訳名がこのリスト内であれば該当するものを選択すればそのまま貼り付けることができるので、文字入力の手間を省略することができます。(ここで選択した場合はすべて内訳になります)



このスクロールバーを下方へドラッグします

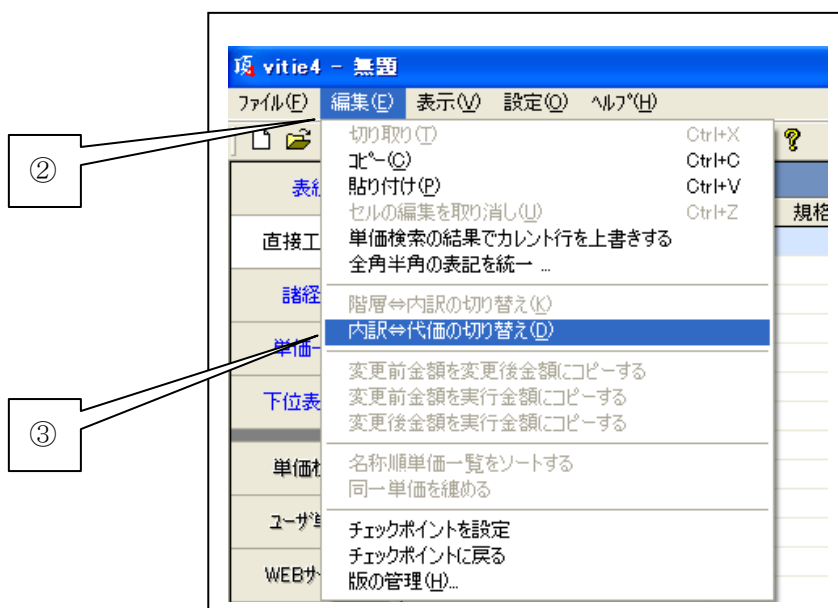
3-1 1 内訳を代価に変更する

内訳として作成したものを代価に変更することができます。



内訳である「管布設工」を代価に変更してみます。

- ① 変更したい行をクリック。(着目行にします)
- ② 「編集」タブをクリック。
- ③ プルダウンメニューから「内訳⇔代価の切り替え」をクリック。



⇒⇒内訳から代価に変更されました。(背景色が無くなりアイコンも変わりました)



●代価を内訳に変更することも可能ですが注意が必要です。

当該代価に基礎数量がある場合、内訳にした場合の単価が数量倍になってしまいます。例えば、10m当りで計算した代価で単価が5,288円の時、内訳にすると単価は $10 \times 5,288 = 52,880$ と元の代価の10倍になります。したがって単価を戻すにはその内訳の中身を編集する必要があります。

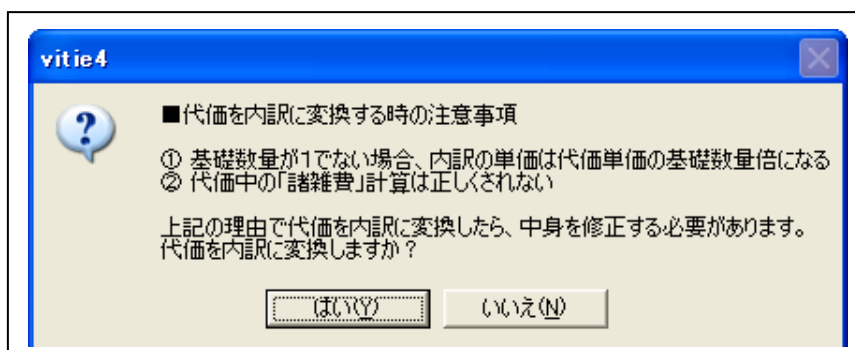
下図の基礎数量10m単価5,288円の代価を内訳に切り替えてみます。

行番	コード	名称	規格	単位	数量	単価	金額	記	計算式	備
★	A-2-13-1-1...	ヒューム管(B型管) 据付工	φ250	m	10	5,288	52,880			
1	Y0000001643	土木一般世話役		人	0.2	17,000	3,400	B		
2	Y0000001624	特殊作業員		人	0.1	15,000	1,500	B		
3	Y0000001625	普通作業員		人	0.4	12,700	5,080	B		
4	Y0000000428	遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管1種 B形...	本	5	4,010	20,050	A		
5	L-1-2-2-15	パンプの運転費(レーン機能...	山積0.45m3[平0...	hr	2.4	6,129	14,709	E		
6	Y0000002248	諸雑費		式	1	8,141	8,141	D	(B+E)*0.33*V4	
		計					52,880			
		1 m 当たり					5,288			

切り替えた結果を下図に示します。

名称	規格	単位	数量	単価	金額	記号
★ ヒューム管(B型管) 据付工	φ250	m	10	52,880	52,880	
1 土木一般世話役		人	0.2	17000	3,400	B
2 特殊作業員		人	0.1	15000	1,500	B
3 普通作業員		人	0.4	12700	5,080	B
4 遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管1種 B形 250×2000	本	5	4010	20,050	A
5 パンプの運転費(レーン機能付)	山積0.45m3[平0.35]2.9t吊[加→型...	hr	2.4	6129	14,709	E
6 諸雑費		式	1	8141.37	8,141	D (B+

代価の場合とほとんど同じですが、★印のタイトル行の単価がありません。内訳なので数量「10」で割り戻して単価を作る機能がありません。そのため上位表に戻ると金額欄の数値がそのまま単価になります。上の例では元の単価の10倍の52,880円が単価になります。そのため下図のような警告メッセージが表示されます。



補足説明

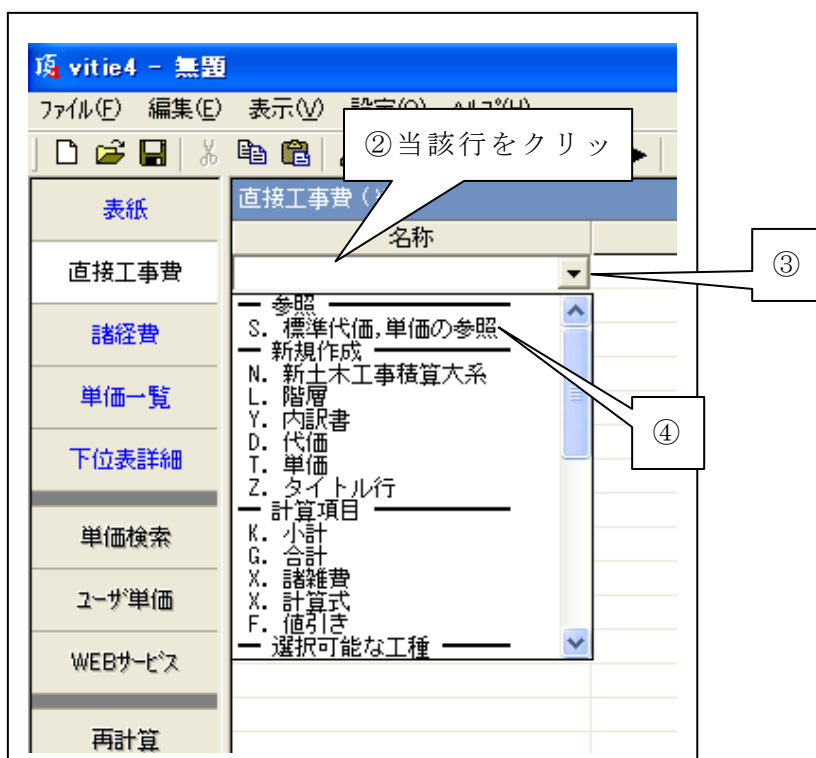
- (1) 内訳の下位に別の内訳がある場合は、その内訳は代価に切り替えできません。下位の内訳から順番に内訳にしていく必要があります。(代価の下位に内訳を作ることはできません。)
- (2) 代価を内訳にすると上の説明のように単価が変わる可能性があるため、独自代価を作成した直後で基礎数量が1の場合以外はお勧めできません。

3-1 2 標準代価（単価）を設計書に貼り付ける

頂の最も基本的な操作である標準代価(単価)を設計書に貼り付ける方法を説明します。

参考例として「バックホウ掘削積込 山積 0.8m3 粘性土 障害なし」の代価を貼り付けてみます。

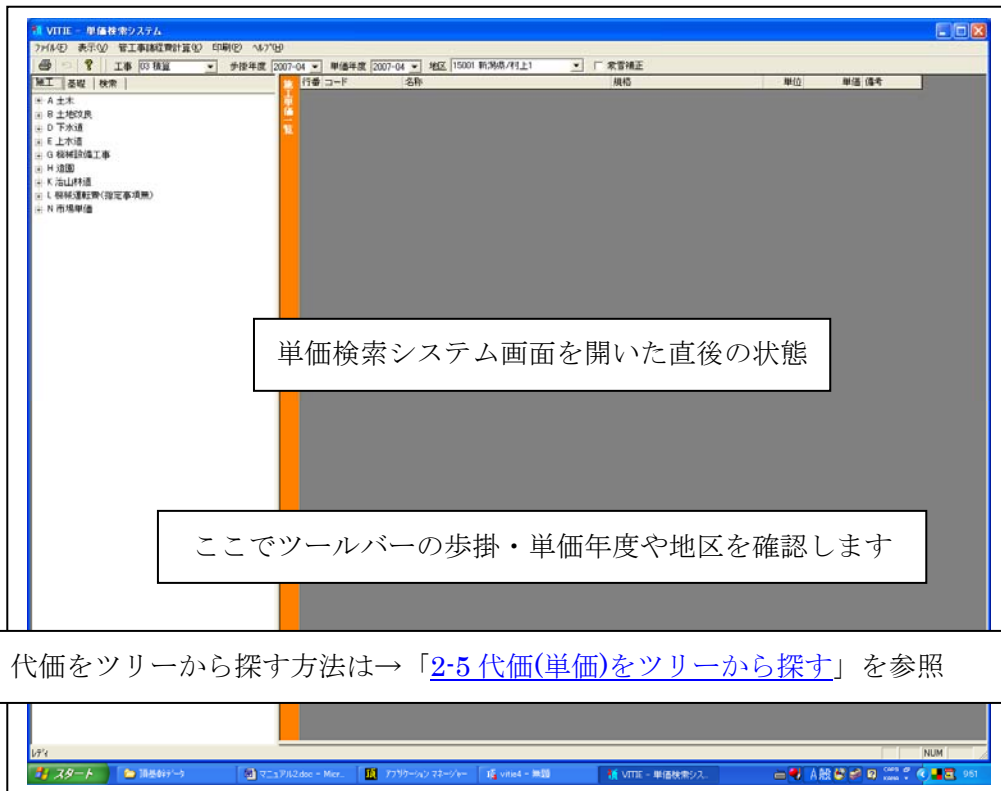
- ① 直接工事費画面を開く。
- ② 貼り付けたい行をクリック。(着目行にします)
- ③ ▼をクリック。
- ④ プルダウンメニューから「標準代価, 単価の参照」をクリック。



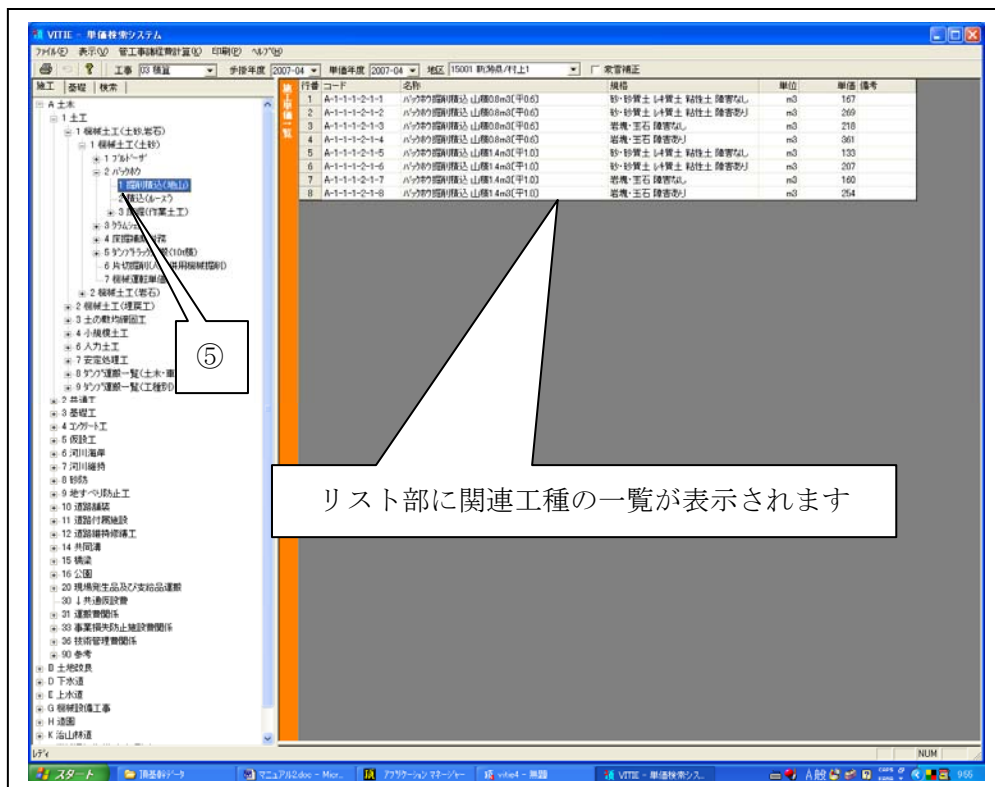
⇒⇒単価検索システム画面が開きます

補足説明

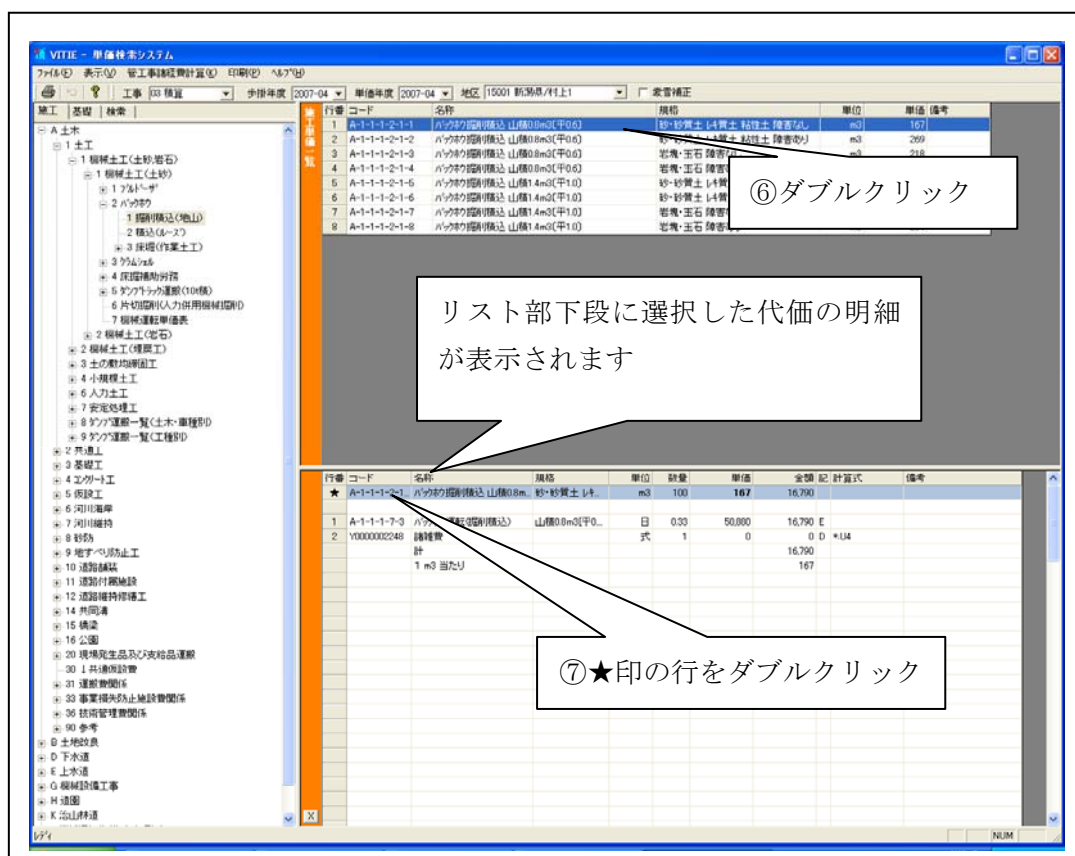
- (1) プルダウンメニューの「標準代価, 単価の参照」のかわりに、左側ボタン部の【単価検索】をクリックしても単価検索システム画面を開くことができます。



- ⑤ ツリー部で順次 \oplus をクリックして最終選択枝の「掘削積込」をクリック。

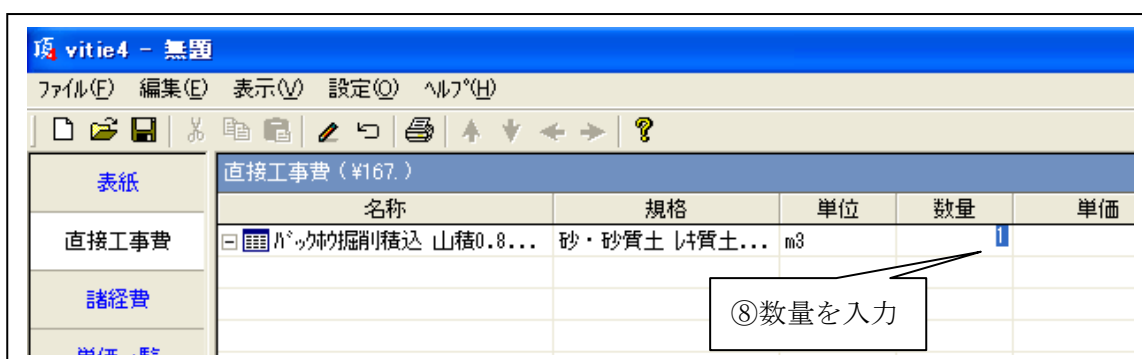


- ⑥ リスト部から「砂・砂質土 ㇿ質土 粘性土 障害なし」を選択してダブルクリック。



- ⑦ 明細を確認し1行目の★印の行をダブルクリック。

⇒⇒設計書に戻って選択した代価が貼り付きます。



- ⑧ 数量を入力。(貼り付けた直後は全て「1」になっています)

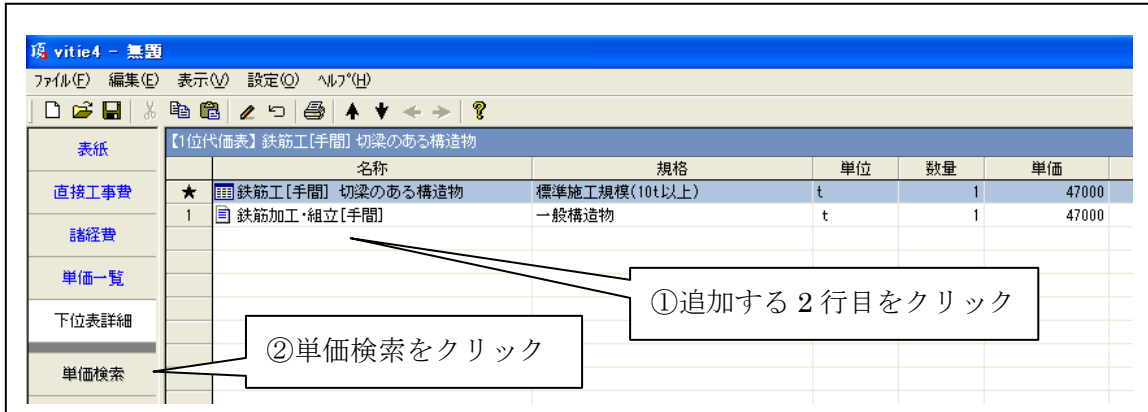
- ⑨ 必要があれば下位表に降りて名称や明細の内容を編集します。

- ⑩ 続けて他の代価を貼り付ける場合は②に戻って繰り返します。

(検索機能を使って代価を探す場合は→「[2-6 代価\(単価\)を検索機能を使って探す](#)」を参照してください)

3-13 貼り付けた標準代価を変更する

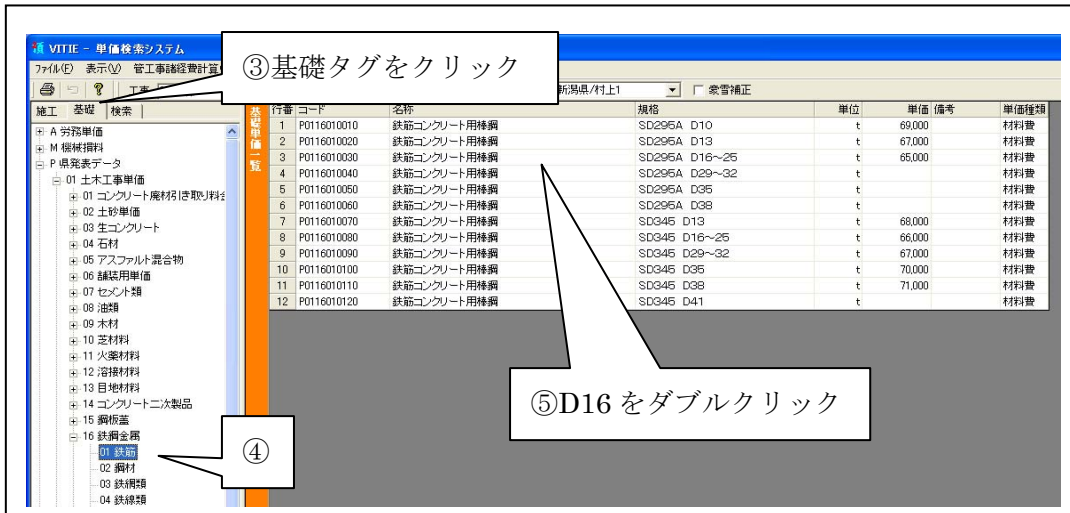
ここでは標準代価から設計書に貼り付けた代価表の明細を変更する手順を説明します。



上図は市場単価の鉄筋工を設計書に貼り付けた後、その下位表を開いた状態です。鉄筋工の手間だけで材料費がありません。

市場単価の鉄筋工に D16 の材料費を追加し、規格欄に D16 と書き込んでみます。

- ① 白紙の 2 行目をクリック。(着目行にします)
 - ② ボタン部の【単価検索】をクリック。
- ⇒⇒単価検索システム画面が開きます。



- ③ ツリー部の「基礎」タグをクリック。
 - ④ ツリー部の「P 県発表データ」から棒鋼を探してクリック。
 - ⑤ リスト部から該当する規格を探してダブルクリック。
- ⇒⇒設計書に戻って選択した単価が貼り付きます。

名称	規格	単位	数量	単価
★ 鉄筋工[手間] 切梁のある構造物	標準施工規模(10t以上)	t	1	113950
1 鉄筋加工・組立[手間]	一般構造物	t	1	47000
2 鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295A D16~25	t	1.03	65000

- ⑥ 数量を「1.03」と入力します。(鉄筋の材料は3%の補正係数があります)
- ⑦ キーボードの【Enter】を押す。

補足説明

(1) 下図は名称「棒鋼」、検索対象「基礎単価」で検索したときの新潟県の例です。

行番	コード	名称	規格	単位	単価	備考
1	P0116010010	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295A D10	t	69,000	
2	P0116010020	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295A D13	t	67,000	
3	P0116010030	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295A D16~25	t	65,000	
4	P0116010040	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295A D29~32	t		
5	P0116010050	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295A D35	t		
6	P0116010060	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295A D38	t		
7	P0116010070	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD345 D13	t	68,000	
8	P0116010080	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD345 D16~25	t	66,000	
9	P0116010090	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD345 D29~32	t	67,000	
10	P0116010100	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD345 D35	t	70,000	
11	P0116010110	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD345 D38	t	71,000	
12	P0116010120	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD345 D41	t		
13	P0301140010	異形棒鋼(SD345)	D10mmJISG3112	t	68,000	
14	S-10-20-S0004-	異径棒鋼 Iボキ樹脂塗装費 加工エキストラ	D10	t		
15	S-10-20-S0004-	異径棒鋼 Iボキ樹脂塗装費 加工エキストラ	D13	t		
16	S-10-20-S0004-	異径棒鋼 Iボキ樹脂塗装費 加工エキストラ	D16	t		
17	S-10-20-S0004-	異径棒鋼 Iボキ樹脂塗装費 加工エキストラ	D19 D25	t		
18	S-10-20-S0004-	異径棒鋼 Iボキ樹脂塗装費 加工エキストラ	D29 D38	t		
19	S-10-20-S0004-	異径棒鋼 Iボキ樹脂塗装費 加工エキストラ	D41 D51	t		
20	S-10-20-S0035-	異形棒鋼	SD295A D10mm 0.56kg/m	kg	69	
21	S-10-20-S0035-	異形棒鋼	SD295A D13mm 0.996kg/m	kg	67	

1~13行目までは「コード」が「P0116～」とPから始まっています。14行目以降は「S-10-20～」とSで始まっています。Pは県のデータ、Sは積算資料のデータであることを示しています。このように両方のデータがある場合には、Pコードの県発表データを優先してください。

なお、単価欄が空欄になっている場合は単価を発表していない項目です。

(2) 材料費を1行目にしたい場合は

- ① 2行目の材料の行をクリック。
- ② ツールバーの上向き矢印【↑】を1回クリック。⇒完了です。

次にタイトル行の編集をします。

⑧ 修正したい箇所をクリック。(着目行にします)

⑨ キーボードの【F2】ボタンをクリック。

⇒⇒下図のように背景色が濃いブルーに変わります。これでカーソルを中に入れることができます。

⑧修正したい箇所をクリック

【1位代価表】鉄筋工[手間] 切梁のある構造物				
	名称	規格		
★	鉄筋工[手間] 切梁のある構造物	標準施工規模(10t以上)	t	
1	鉄筋加工・組立[手間]	一般構造物	t	
2	鉄筋コンクリート用棒鋼	S D 2 9 5 A D 1 6 ~ 2 5	t	

⑩ 行の先頭にカーソルを入れてクリック。⇒⇒カーソルが中に入り点滅します。

⑩カーソルが点滅したら D16 と先頭に入力

【1位代価表】鉄筋工[手間] 切梁のある構造物				
	名称	規格		単
★	鉄筋工[手間] 切梁のある構造物	D16 標準施工規模(10t以上)	t	
1	鉄筋加工・組立[手間]	一般構造物	t	
2	鉄筋コンクリート用棒鋼	S D 2 9 5 A D 1 6 ~ 2 5	t	

⑪ 「D16」と入力。

⑫ 同様に名称欄の[手間]の文字も削除します。

⑬ 【戻る】ボタンで上位表に戻ります。

直接工事費 (¥47,167.)				
	名称	規格	単位	数量
	バックホウ掘削積込 山積0.8...	砂・砂質土 4質土...	m3	1
	鉄筋工 切梁のある構造物	D16 標準施工規模(...	t	1

名称欄の[手間]の文字が無くなり、規格欄に「D16」が入りました。

3-1 4 新しい代価表を作る

標準代価に無い特殊な代価を新しく作る方法を説明します。例題として「仮管布設工」を作ってみます。

仮管布設工 10m当り数量は下記の通りとします。

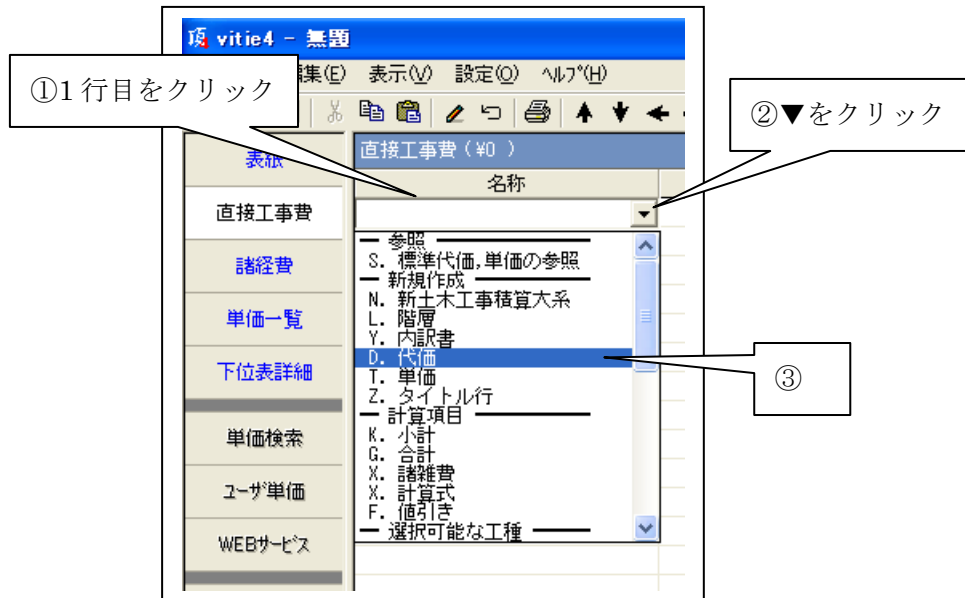
ヒューム管（外圧1種）B形φ250 5本

世話役 0.2人

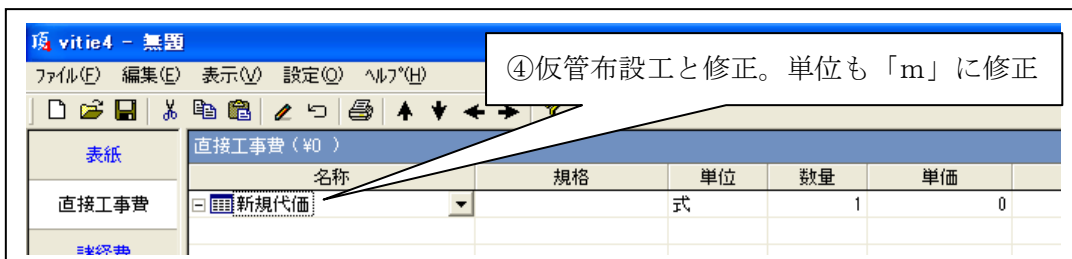
普通作業員 2人

諸雑費（端数調整）

- ① 代価を作成する行をクリック。（着目行にします）
- ② ▼をクリック。



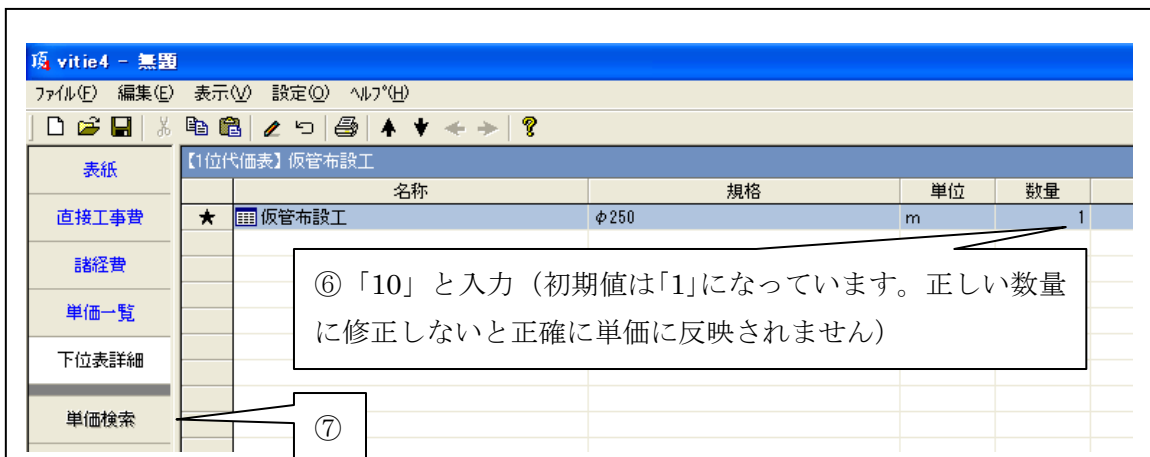
- ③ プルダウンメニューから「代価」を選択してクリック。⇒⇒設計書が開いて1行目に「新規代価」が貼り付きます。



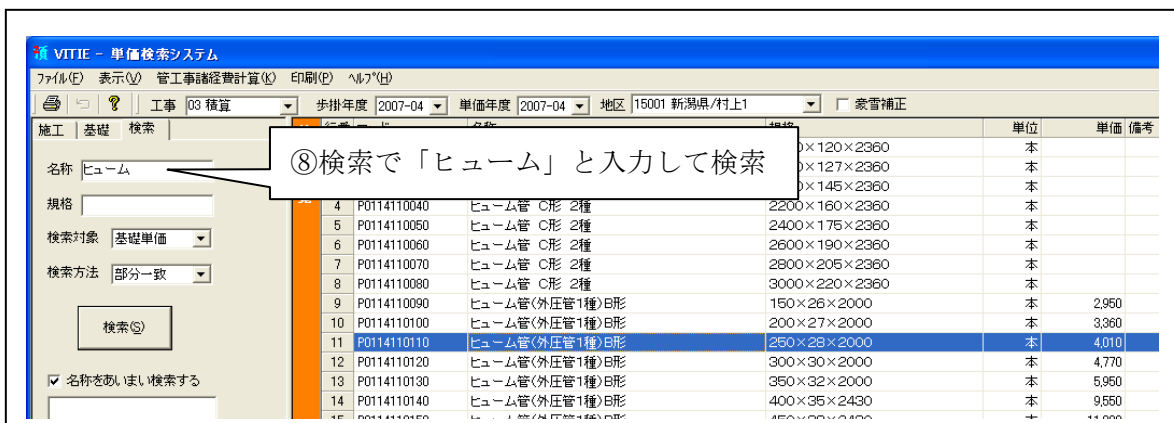
- ④ 名称と単位を修正します。（文字等の修正方法は→「[1:7 文字を修正する](#)」を参照）



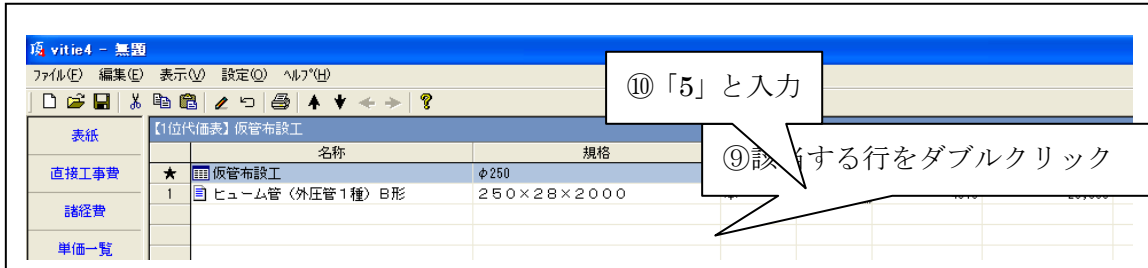
- ⑤ 「仮管布設工」が着目行になっていることを確認して【下位表詳細】をクリック。
⇒⇒【1位代価表】仮管布設工の明細が開きます。



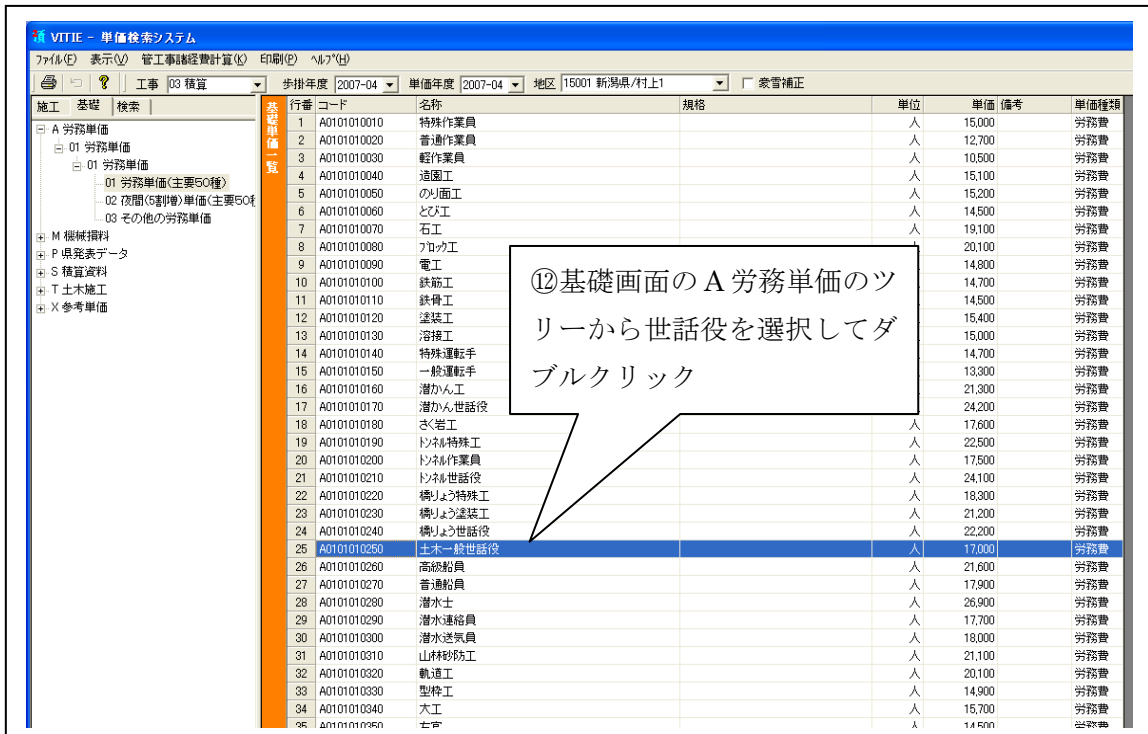
- ⑥ 基礎数量「10」を入力。（初期値は「1」になっています）
⑦ 【単価検索】をクリック。⇒⇒単価検索システム画面を開きます。
⑧ ツリー部の「検索」タブでヒューム管を検索。



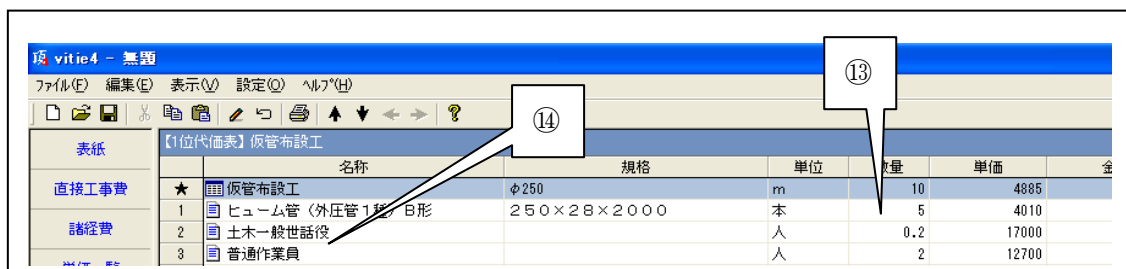
- ⑨ 11行目をダブルクリック。⇒⇒設計書に貼り付きます。



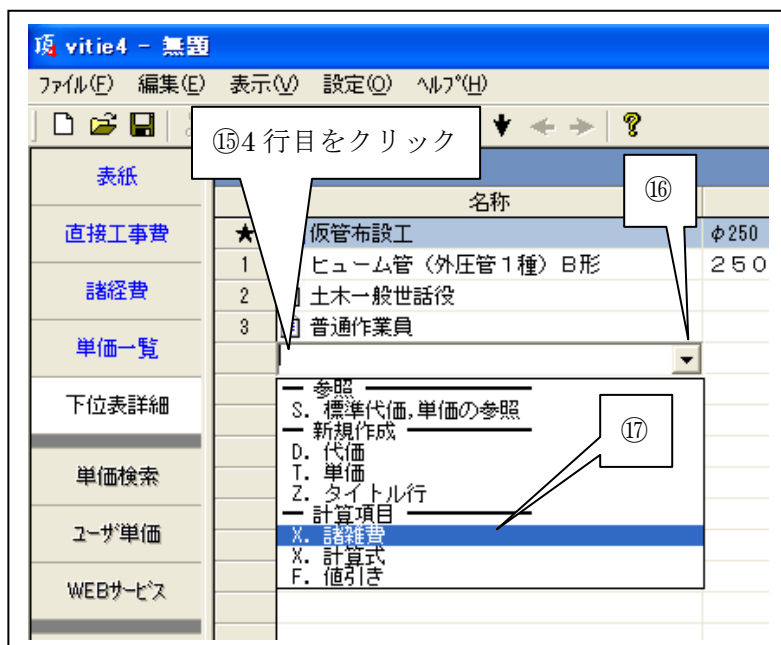
- ⑩ 数量を「5」と入力し【Enter】を押す。(貼り付けたときは「1」になっています)
 ⑪ 【単価検索】をクリック。
 ⑫ ツリー部の「基礎」タブでA 労務単価の中から土木一般世話役をダブルクリック。



- ⑬ 数量を「0.2」と入力。
 ⑭ 同様に普通作業員も貼り付けて数量「2」を入力。



- ⑮ 4行目の名称欄をクリック。
- ⑯ ▼をクリック。
- ⑰ プルダウンメニューから「諸雑費」を選択してクリック。



⇒⇒設計書に戻ります。(これで完成です)

The screenshot shows a detailed table of costs. The table has columns for '名称' (Name), '規格' (Specification), '単位' (Unit), '数量' (Quantity), '単価' (Unit Price), '金額' (Amount), '記号' (Symbol), and '計' (Total). The 4th row is highlighted, showing '諸雑費' with a unit price of 0 and a total amount of 25,400, with a note '*:U4'.

名称	規格	単位	数量	単価	金額	記号	計
仮管布設工	φ250	m	10	4885	48,850		
1 ヒューム管 (外圧管1種) B形	250×28×2000	本	5	4010	20,050		
2 土木一般世話役		人	0.2	17000	3,400		
3 普通作業員		人	2	12700	25,400		
4 諸雑費		式	1	0			*:U4

- ⑱ 【戻る】ボタンで上位表へ戻ります。

補足説明

- (1) 代価表を作成するときは、基礎数量（計算数量ともいいます）が非常に重要です。「1」以外のときは必ず修正しないと上位表に戻ったときに、正しい単価になりません。
- (2) 諸雑費の計算式「*:U4」は有効数字4桁で丸めるという意味です。
- (3) 丸め以外の諸雑費については→「[3-16 代価表の諸雑費の率を設定する](#)」を参照してください。

3-15 新しい単価を作る

設計書の中で独自の単価を作って入力する方法を説明します。基本的には前項の代価を作る場合と同じです。

処分費 m3 1500 円 を作ってみます

- ① 設計書の単価を作る行をクリック。(着目行にします)
- ② ▼をクリック。
- ③ プルダウンメニューから「単価」をクリック。⇒⇒設計書に貼り付きます。

直接工事費 (¥4,885)				
名称	規格	単位	数量	
仮管布設工	φ250	m	1	
新規単価		式	1	

- ④ 名称と単位を直します。(文字の修正方法は→「[1-7 文字を修正する](#)」を参照)
- ⑤ 引き続き数量と単価を入力します。

直接工事費 (¥154,885)						
名称	規格	単位	数量	単価	金額	記号
仮管布設工	φ250	m	1	4,885	4,885	
処分費		m3	100	1,500	150,000	

これで完成です。

補足説明

- (1) 下位表のない単価の入力はプルダウンメニューで「単価」を選択しなくても、① 単位②数量③単価④名称の順で入力すると単価を設定することができます。
- (2) 新しく作成した単価の費目は初期設定では「材料費」になります。「処分費」などに変更するには「[4-6 処分費を経費計算に反映させる](#)」の補足説明 (3) を参照してください。

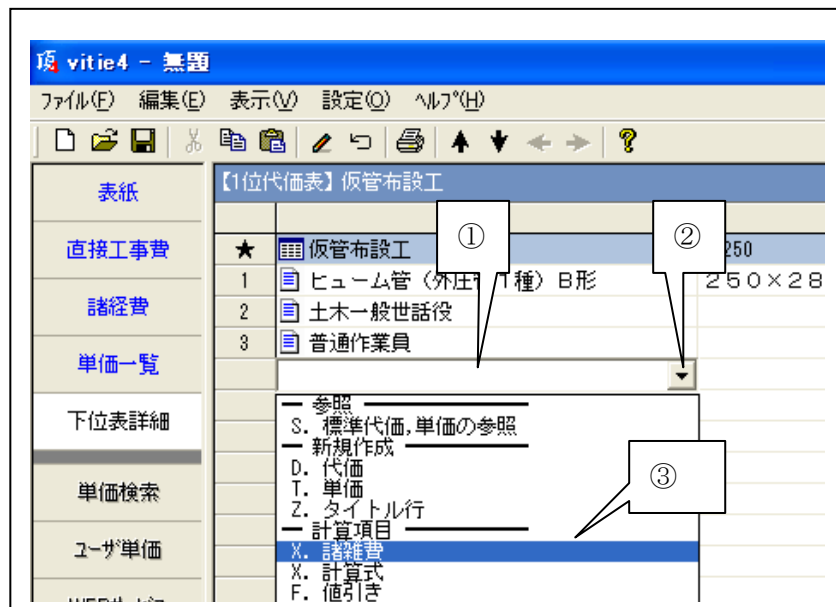
3-16 代価の諸雑費の率を設定する

代価表の諸雑費について説明します。諸雑費には以下のようなケースが考えられます。

- (1) 端数調整（丸め）とする。（有効数字 4 桁とします）
- (2) ある数字のパーセントを計上する。（単位を一式とする）
- (3) ある数字のパーセントを計上する。（単位を%とする）

3-14 で作成した代価表「仮管布設工」を例に説明します。

- (1) 端数調整（丸め）の場合



- ① 諸雑費を計上する行をクリック。（着目行にします）
- ② ▼をクリック。
- ③ プルダウンメニューの「諸雑費」をクリック。⇒⇒設計書に戻ります。

	名称	規格	単位	数量	単価	金額	記号	計算
★	仮管布設工	φ250	m	10	5042	50,420		
1	ヒューム管（外圧管1種）B形	250×28×2000	本	5	4010	20,050		
2	土木一般世話役		人	0.21	17000	3,570	イ	
3	普通作業員		人	2.11	12700	26,797	イ	
4	諸雑費		式	1	3			*:U4

単位が「式」、数量「1」、単価「3」と表示されて、計算式欄に「* : U4」と式が入りました。端数調整の場合はプルダウンメニューから「諸雑費」を選択すれば自動的に設定します。この計算式の「U4」は有効数字 4 桁でかつ切り上げて丸めるという意味を表しています。

(2) ある数字のパーセントを計上（単位は一式）する場合

労務費の3%を諸雑費として計上する場合を作成します。

先ほどの①②と同様の手順で③プルダウンメニューから「計算式」を選択します。

名称	単位	数量	単価	金額	記号
仮管布設工	m	10	5041	50,417	
1 ヒューム管(外圧管1種)B形	本	5	4010	20,050	
2 土木一般世話役	人	0.21	17000	3,570	イ
3 普通作業員	人	2.11	12700	26,797	イ
4 計算式	式	1	0		

- ① 率の対象になる世話役の記号欄にカーソルを入れてクリック。⇒⇒「イ」の文字が入ります。
- ② 同様に普通作業員の記号欄もクリック。⇒⇒ここにも「イ」の文字が入ります。

単位	数量	単価	金額	記号	計算式
m	10	5132	51,328		
本	5	4010	20,050		
人	0.21	17000	3,570	イ	
人	2.11	12700	26,797	イ	
式	1	911.01	911		イ*0.03

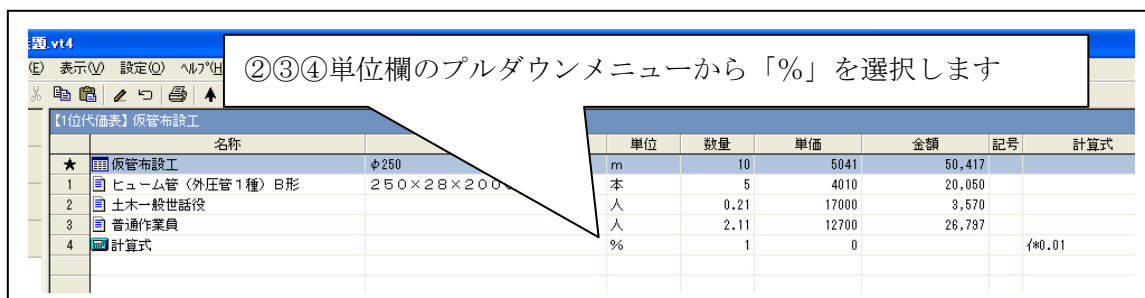
- ③ 計算式欄に「イ*0.03」と入力し【Enter】を押す。
- ④ 有効数字4桁にするには「イ*0.03 : V4」とします。

補足説明

- (1) : V4は有効数字4桁に切り下げて丸めるという意味です。上の例では金額が51,320円になるので、諸雑費は911-8=903円になります。
- (2) 記号や文字数字は全て半角文字です。
- (3) 記号欄の文字はアルファベットでもかまいませんが、計算式と合わせる必要があります。(頂の標準代価では材料費はA、労務費はBとしています)
- (4) 記号欄の記号や計算式は画面では表示されますが印刷はされません。

(3) ある数字のパーセントを計上（単位は%）する場合

- ① プルダウンメニューから計算式をクリック。
- ② 計算式の行の単位欄をクリック。（貼り付けたときは「式」になっています）
- ③ ▼をクリック。
- ④ プルダウンメニューから「%」をクリック。



⇒⇒単位を「%」に変えると自動的に「イ*0.01」と計算式が入力されます。これは記号欄が「イ」の金額の「0.01」すなわち1%を単価にするという意味です。

- ⑤ 世役と普通作業員の記号欄を1回ずつクリック。

⇒⇒記号欄にそれぞれ「イ」が入ります。

- ⑥ 数量欄に「3」を入力。（3%なので）

- ⑦ 【Enter】を押す。

単位	数量	単価	金額	記号	計算式
m	10	5132	51,328		
本	5	4010	20,050		
人	0.21	17000	3,570	イ	
人	2.11	12700	26,787	イ	
%	3	303.67	911		イ*0.01

補足説明

- (1) 単位を%にした場合は有効数字4桁にするための計算式にある「:V4」は機能しません。有効数字4桁にする場合はもう1行追加して調整してください。
- (2) 記号欄で1回クリックすると「イ」、2回クリックすると「ロ」と順次変わっていきます。

3-17 行を挿入（削除）コピーする

設計書での行の挿入・削除・コピーについて説明します。

- ① 挿入（削除）・コピーしたい行をクリック。（着目行にします）
- ② 左側の【行の挿入】（【切り取り】）【コピー】ボタンをクリック。
- ③ コピーの場合はさらに貼り付けたい空白行をクリック。
- ④ 左側の【貼り付け】ボタンをクリック。

vitie4 - 演習問題用モデル工事TEST.VT4

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 設定(O) ヘルプ(H)

直接工事費 (¥16,587,104.)

名称	規格	単位	数
1 道路改良		式	
2 道路土工		式	
3 掘削工		式	
掘削(土砂)		m ³	
掘削(硬岩)		m ³	
3 路体盛土工		m ³	
路体(流用土)			
3 路床盛土工			
路床(流用土)			
3 法面整形工			
法面整形(切土部)		m ²	
法面整形(盛土部)		m ²	
3 残土処理工		式	
残土処理		m ³	
2 擁壁工		式	
3 作業土		式	
埋戻し		m ³	
埋戻し		m ³	
埋戻しC	1m ≤ W1 < 4m	m ³	
3 場所打擁壁工(構造物単位)		式	
4 小型擁壁		m ³	
小型擁壁工(A) (人力打設)	0.5~1.0m	m ³	
重力式擁壁工	1m超2m未満	m ³	
鉄筋工	SD295A D13	t	
鉄筋工	SD295A D16	t	
2 舗装		式	

行の挿入・切り取り・コピー・貼り付けはこのボタンで行います。

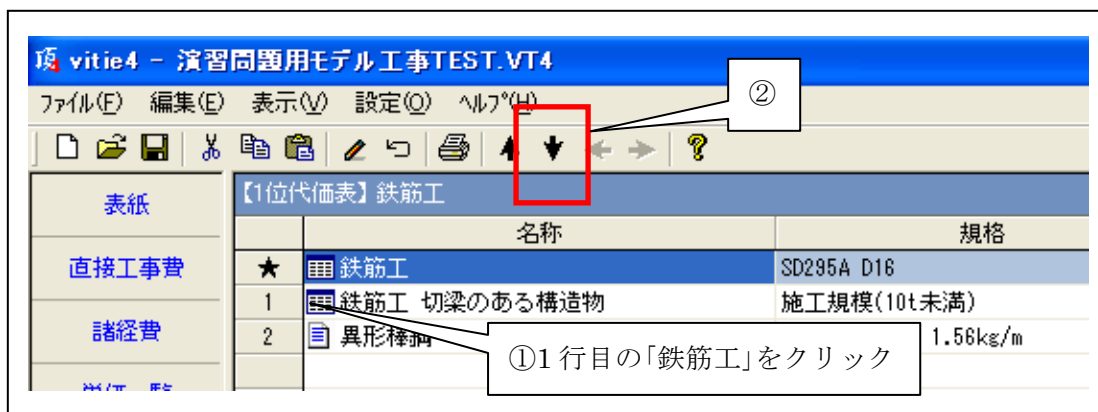
補足説明

- (1) 挿入・削除・コピーとも一行ごとの操作が必要です。複数行を一括して作業することはできません。
- (2) 階層行を操作するときはそのレベル直下の階層も当該階層の一部として一緒に移動します。
- (3) ボタンをクリックする前に必ず当該行をクリックして着目行にしてください。

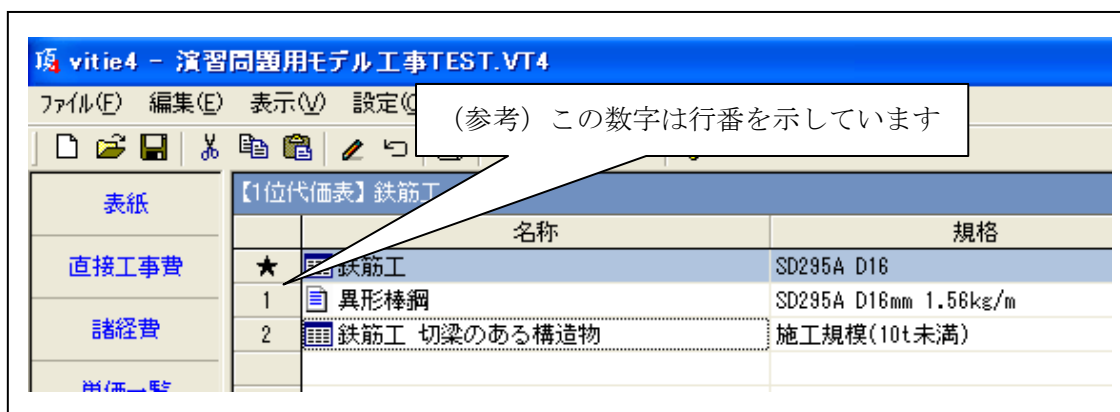
3-1 8 行の順番を入れ替える

内訳書や代価表を作成中に行を上下に移動させることができます。下図の 1 行目「鉄筋工」と 2 行目「異形棒鋼」を入れ替えてみます。

- ① 1 行目の「鉄筋工」をクリック。(着目行にします)
- ② ツールバーの【↓】をクリック。



⇒⇒その結果下図のように入れ替わりました。



先に 2 行目をクリックして【↑】をクリックしても同様です。

補足説明

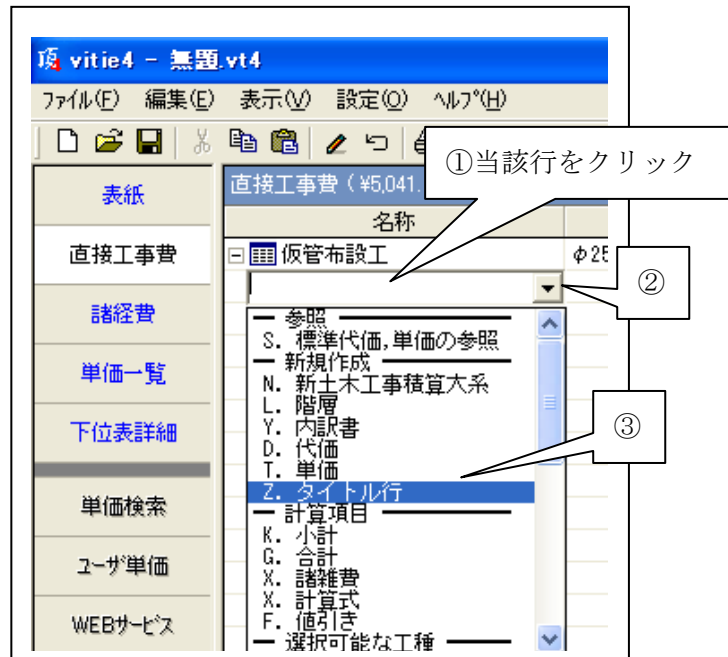
- (1) 内訳行や階層行でも移動は可能です。
- (2) 階層行の場合は、指定した 1 行だけではなくその階層に集計される下位表も全て一緒に移動します。
- (3) 左右の矢印は階層行のレベルを変えるときに使います。(→「[3-7 階層のレベルを変更する](#)」参照)

3-19 タイトル行を作る

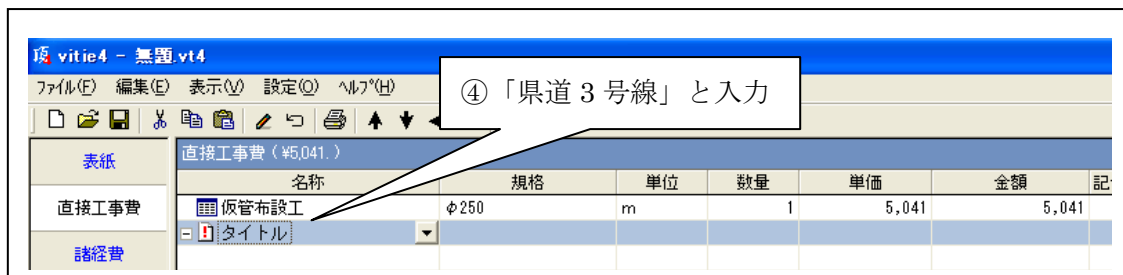
設計書の中に数量や単位・単価を持たずにタイトル行を設けることができます。

2行目にタイトルとして「県道3号線」と入力してみます。

- ① 当該行をクリック。(着目行にします)
- ② ▼をクリック。
- ③ プルダウンメニューから「タイトル行」を選択してクリック。



⇒⇒設計書に戻ります。(タイトル行が張り付きました)



- ④ 名称欄に「県道3号線」と入力します。

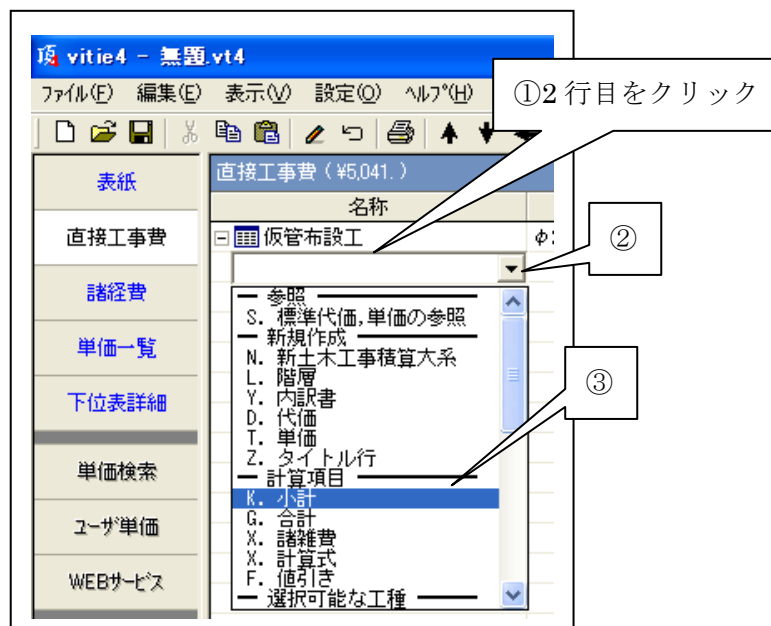
❗ (感嘆符) はタイトル行のアイコンです。タイトル行は数量や単価はもてません。

3-20 小計・中計などの集計行を作る

設計書の途中に「小計・中計・計」などの集計行を設けることができます。

直接工事の途中（2行目）に小計行を作る。

- ① 当該行をクリック。（着目行にします）
- ② ▼をクリック。
- ③ プルダウンメニューから「小計」を選択してクリック。



⇒⇒設計書に戻ります。計算式欄に「* : S」と入力されています。

名称	規格	単位	数量	単価	金額	記号	計算式
仮管布設工	φ250	m	1	5,041	5,041	5,041	
小計					5,041		*:S

- ④ 必要があれば「小計」の文字を「計」などに変更します。

補足説明

- (1) プルダウンメニューから「合計」を選択すると計算式は「* : G」となり、上位行の [* : S] も含めて合計します。
- (2) 小計・合計などの名称は変更できますが、集計できる階層は2階層までです。

3-2 1 共通仮設費を積上げる

共通仮設費の積上方法について説明します。共通仮設費の積上げは「諸経費画面」から行います。

安全費 交通誘導員 A 10人
事業損失防止施設費 騒音調査工 (2回/日) 10日

参考例として以上の項目を積上げてみます。

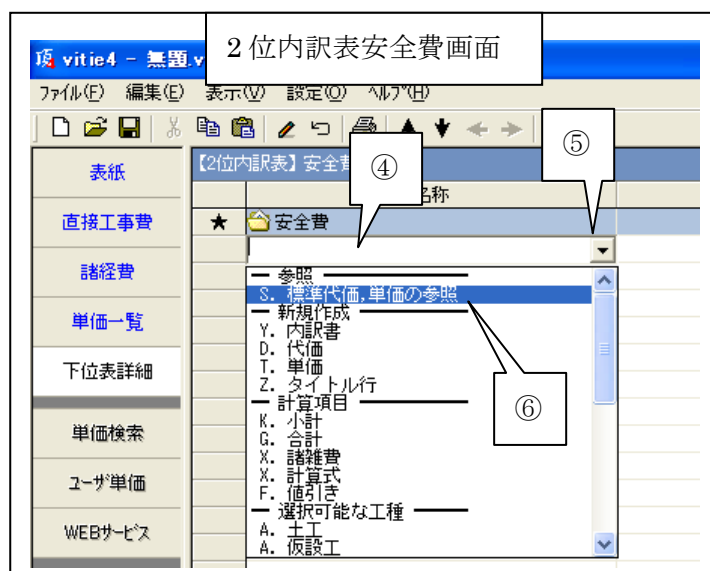
- ① 【諸経費】 ボタンをクリックして諸経費画面を開きます。
- ② 「内訳・共通仮設費積上額」をダブルクリック。(または【下位表詳細】をクリック)

表紙	名称	金額	選択内容	率	対象額	備考
直接工事費	経費年度		2007_04			
諸経費	工事種類		土木工事			
	工事区分		河川工事			
単価一覧	支給品額					
下位表詳細	無償貸付機械等評価額					
	事業損失防止施設費		自動計算			
	PC桁等購入費					
再計算	鋼桁、門扉等の工場原価					
	直工に含まれる処分費					
印刷	準備費に含まれる処分費					
	その他諸経費計算除外金額					
逆算						
自動計算に戻す	共通仮設費補正					
	イメージアップ経費補正					
	現場管理費補正(工事場所)					
	現場管理費補正(工事期間)					
	現場管理費補正(冬期)					
	一般管理費補正(前払金支出割合)					
	一般管理費補正(契約保証)					
	直接工事費	16,041	自動計算			
	共通仮設費	2,000				
	共通仮設費率額	2,000	自動計算	0.1251	18,041	
	イメージアップ経費率額		計算しない			
内訳	共通仮設費積上額	18,041				
	税金等費					
	現場管理費	6,000	自動計算	0.3678	18,041	

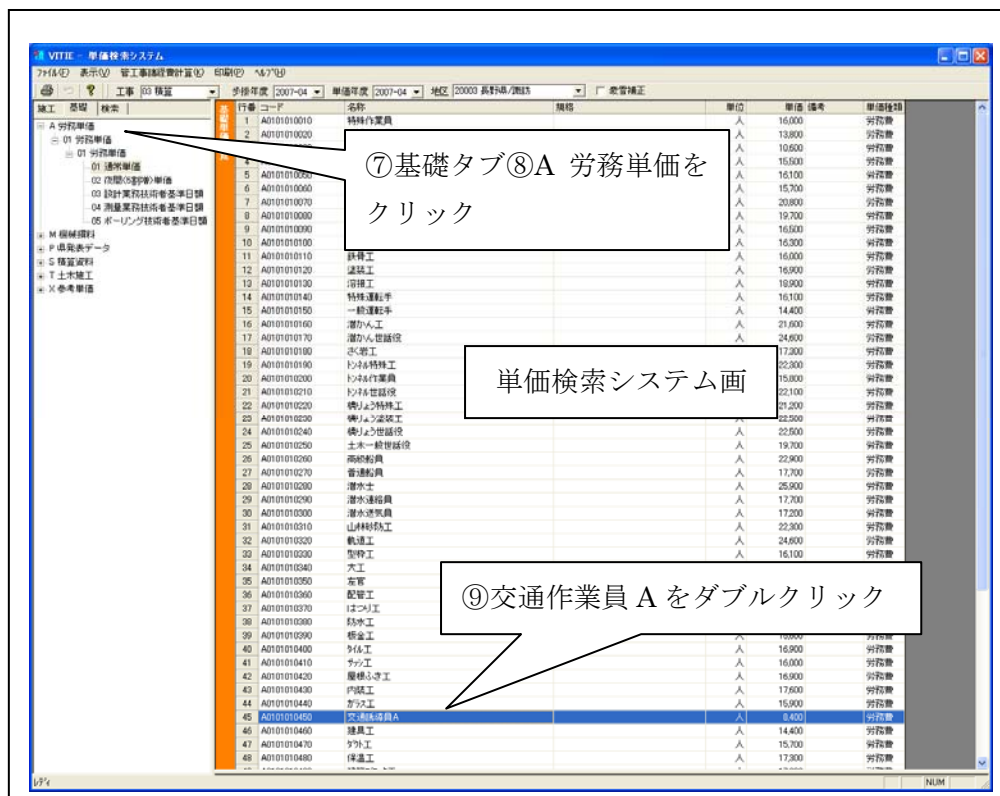
⇒⇒ 【1位内訳表】 共通仮設費積上額画面が開きます。

表紙	名称	規格	単位	数量	単価
直接工事費	★ 共通仮設費積上額		式		
諸経費	1 運搬費		式	1	0
	2 準備費		式	1	0
	3 仮設費		式	1	0
	4 事業損失防止施設費		式	1	0
下位表詳細	5 安全費		式	1	0
	6 役務費		式	1	0
	7 技術者				0
単価検索	8 宮備損料				0
ユーザ単価	9 労務者輸送費				0
	10 環境対策費				0
WEBサービス	11 イメージアップ積上額				0

- ③ 5行目の安全費をクリックして（着目行にして）【下位表詳細】をクリック。
⇒⇒【2位内訳表】安全費が開きます
- ④ ★「安全費」行のすぐ下1行目をクリック。（着目行にします）
- ⑤ ▼印をクリック。（【単価検索】ボタンでも）
- ⑥ 「標準代価,単価の参照」をクリック。



⇒⇒「単価検索システム画面」が開きます。



- ⑦ ツリー部の「基礎」タブをクリック。
 - ⑧ 「A 労務単価」をクリック。
 - ⑨ リスト部から「交通誘導員 A」を選択してダブルクリック。
- ⇒⇒設計書に戻ります。
- ⑩ 数量に「10」を」入力し【Enter】を押す。

表紙	名称	規格	単位	数量	単価	金額
★	安全費		式			84,000
1	交通誘導員A		人	10	8400	84,000

- ⑪ 【戻る】ボタンをクリック。(これで安全費は終了です)
- ⇒⇒【1位内訳表】共通仮設費積上額画面に戻ります。
- ⑫ 4行目の「事業損失防止施設費」をクリックして【下位表詳細】ボタンをクリック。
 - ⑬ ④以降の手順で「単価検索システム画面」を開きます。
 - ⑭ 「施工」タブをクリックしてツリー部から「A-3-3-1-1 騒音調査工」をクリック。
 - ⑮ リスト部から「A-33-1-1-3」を選択してダブルクリック。
 - ⑯ リスト部下段の明細を確認して、よければ★印行をダブルクリック。

行番	コード	名称	規格	単位	単価	備考
1	A-33-1-1-1	騒音調査工(1日当り調査費)		日	51,700	
2	A-33-1-1-2	騒音調査工	1日当り1回調査の場合	日	26,850	
3	A-33-1-1-3	騒音調査工	1日当り2回調査の場合	日	51,700	
4	A-33-1-1-4	騒音調査工	1日当り8回調査の場合	日	58,170	

行番	コード	名称	規格	単位	数量	単価	金額	記	計算式	備考
★	A-33-1-1-3	騒音調査工	1日当り2回調査...	日	1	51,700	51,700			
1	Y0000001643	土木一般世話役		人	1	19,700	19,700	B		外業0.75内業0.25
2	Y0000001624	特殊作業員		人	2	16,000	32,000	B		外業1.50内業0.50
3	Y0000002248	諸雑費		式	1	0	0	D	*U4	
		計					51,700			

⇒⇒再び設計書画面に戻って騒音調査工が貼り付きます。

⑰ 「10」と入力

【戻る】ボタンで上位表へ戻ります

名称	規格	単位	数量	単価	金額	記
★ 事業損失防止施設費		式			517,000	
1 騒音調査工	1日当り2回調査の場合	日	10	51700	517,000	

⑰ 数量を「10」と入力し【Enter】を押す。

⑱ 【戻る】ボタンで「【2位内訳表】事業損失防止施設費」に戻ります。

それぞれの項目に金額が計上されています

名称	単価	金額	記
★ 共通仮設費積上額		601,000	
1 運搬費	0		
2 準備費	0		
3 仮設費	0		
4 事業損失防止施設費	517000	517,000	
5 安全費	84000	84,000	
6 役務費	0		
7 技術管理費	0		
8 宮緒損料	0		
9 労務者輸送費	0		
10 環境対策費	0		
11 イメージアップ積上額	0		

⑲ もう一度【戻る】ボタンで「【1位内訳表】共通仮設費積上額」に戻ります。

⇒⇒4行目の事業損失防止施設費と5行目の安全費に積上げた金額が計上されました。

⑳ もう一度【戻る】ボタンで「諸経費」画面に戻ります。

3-2 2 夜間単価に変更する

作成した代価内の労務単価を昼間の単価から夜間単価に変更することができます。

路盤工（歩道）RC-40 厚 3 cmを夜間単価に変更します。(A-10-1-4-5-1)

- ① 夜間単価に変える代価行をクリック。(着目行にします)
- ② 【下位表詳細】をクリックして下位表を開く。

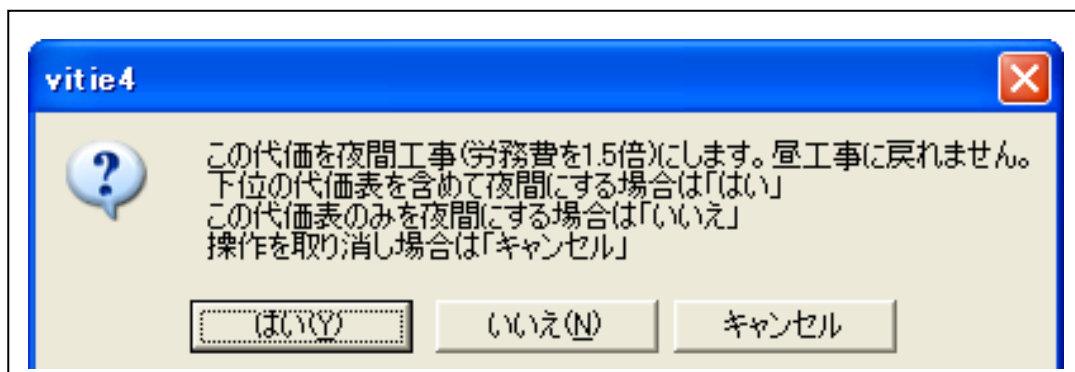
表題が【1位代価表】路盤工になっています

	名称	規格	単位	数量	単価	金額	記号
★	路盤工(歩道) RC-40	路盤厚 3cm (一層)	m ²	100	801	80,110	
1	特殊作業員		人	0.56	16000	8,960 B	
2	普通作業員		人	1.77	13800	24,426 B	
3	再生クマツヤク	RC40-0	m ³	3.81	2700	10,287 A	
4	振動加力運転	3~4 t (塔乗式・コパノイ型・排吐...	日	0.56	26770	14,991 E	
5	諸雑費		式	1	1446.31	1,446 D	(B+E)*0

②まで終了して路盤工の下位表（明細）を開いた状態

③【夜間工事にする】をクリック

- ③ 【夜間工事にする】ボタンをクリック。
⇒⇒二次代価選択ダイアログが開きます。



- ④ 【はい】をクリック。

⇒⇒設計書に戻り労務費の項目の名称欄に（夜間）と変更されました。単価も 1.5 倍になっています。

（夜間）の文字が追加されました

単価も 1.5 倍になっています

名称	規格	単位	数量	単価
★ 舗装工(歩道) RC-40 (夜間)	路盤厚 3cm (一層)	m ²	100	819
1 特殊作業員 (夜間)		人	0.56	24000
2 普通作業員 (夜間)		人	1.77	20700
3 再生ケツツラ	RC40-0	m ³	3.81	2700
4 振動ローラ運転 (夜間)	3~4 t [搭乗式・コバイト型・排出カ...	日	0.56	34820
5 諸雑費		式	1	2085.34

4 行目の「振動ローラ運転」も代価なので【下位表詳細】で 2 位代価表を開いてみます。

振動ローラ運転の 2 位代価表

名称	規格	単位	数量	単価
★ 振動ローラ運転 (夜間)	3~4 t [搭乗式・コバイト型・排出カ...	日	1	34820
1 特殊運転手 (夜間)		人	1	24150
2 軽油		kg	11	105
3 振動ローラ [搭乗式・コバイト型・排出カ...	質量3~4t	供用日	1.52	6260
4 諸雑費		式	1	0

同様に労務費の特殊運転手が夜間単価に変わっています。

⑤ 【戻る】ボタンをクリック。

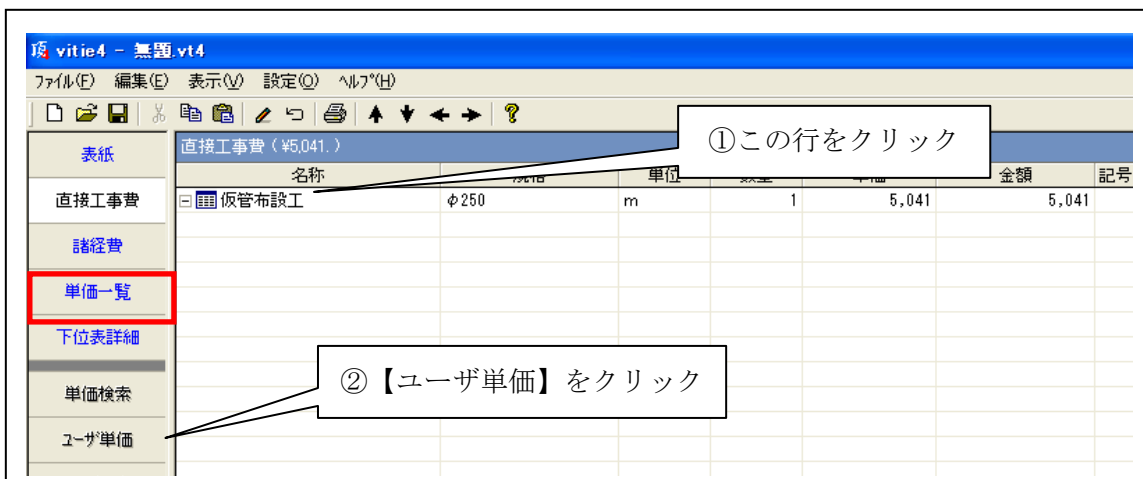
補足説明

- (1) 二次代価選択ダイアログで【いいえ】を選択すると、二次代価は夜間単価になりません。
- (2) 最初から夜間単価とわかっている場合でも、昼間単価で作成して上記の手順で変更することをお勧めします。
- (3) ここでいう労務費の夜間単価とは昼間単価の 1.5 倍を言います。

3-23 ユーザー単価に登録する

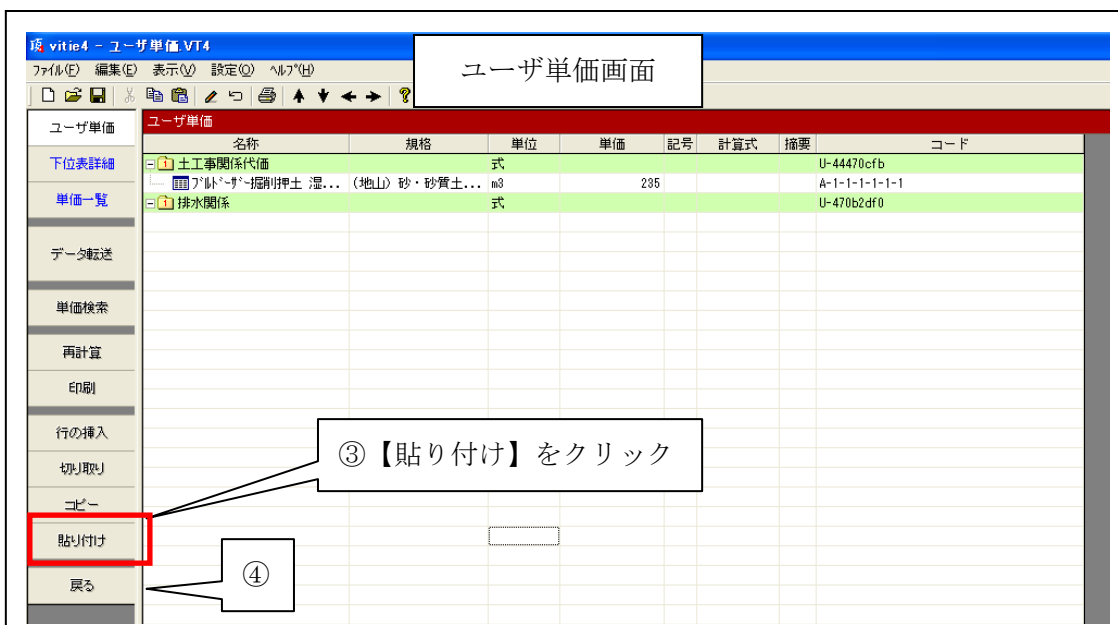
ユーザーが独自に作成した代価や単価を「ユーザー単価」として登録しておくことができます。

「仮管布設工」をユーザー単価に登録する。



① 「仮管布設工」の行をクリック。(着目行にします)

② 【ユーザ単価】をクリック。⇒⇒「ユーザ単価」画面が開きます。



③ 【貼り付け】ボタンをクリック。

ユーザ単価							
名称	規格	単位	単価	記号	計算式	摘要	
土工事関係代価		式				U-44470cfb	
掘削押土 湿... (地山) 砂・砂質土...		m3	235			A-1-1-1-1-1	
排水関係		式				U-470b2df0	
仮管布設工	φ250	m	5,041			U-470acb89	

貼り付きました。

⇒⇒4 行目に「仮管布設工」が貼り付きました。

④ 【戻る】 ボタンで元の画面に戻ります。

補足説明

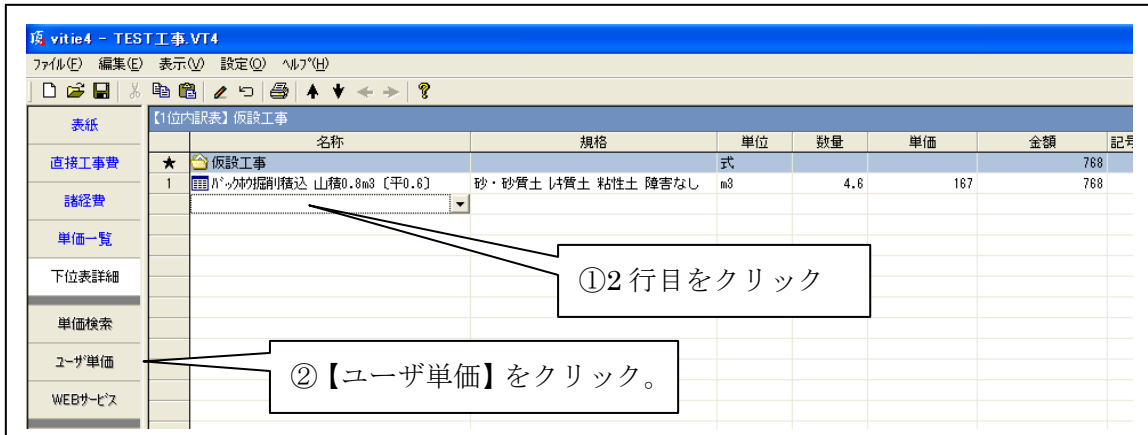
- (1) ユーザー単価にも内訳や階層を作ることができます。分類しやすいようにあらかじめどちらかを作っておくと便利です。
- (2) 【行の挿入】 ボタンを使えば行の途中に貼り付けることもできます。その場合は【貼り付け】 ボタンをクリックする前に、挿入した行をクリックして着目行にしてください。
- (3) 自分のパソコンで作成したユーザー単価と他のパソコンで作成したものを合体させることはできません。
- (4) ユーザー単価に登録した過去年度の労務単価などを新年度単価に自動更新することはできません。更新するにはユーザー単価画面を開いて、各項目の新しい単価を直接入力してください。

3-2 4 ユーザー単価を利用する

ここではユーザー単価に登録した代価や単価を設計書に再利用する方法を説明します。

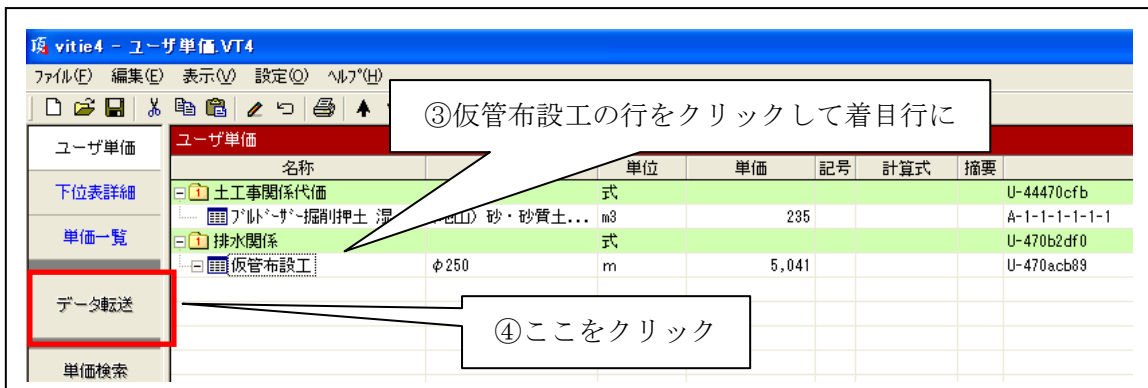
設計書の 2 行目に「仮管布設工」を貼り付けて数量を 10m とする。

直接工事費画面



- ① 設計書のユーザー単価を貼り付けたい行をクリック。(着目行にします)
- ② 【ユーザー単価】ボタンをクリック。⇒⇒ユーザー単価画面が開きます。

ユーザー単価画面



- ③ ユーザー単価画面から設計書に貼り付ける（転送する）「仮管布設工」の行をクリック。
(着目行にします)
- ④ 【データ転送】をクリック。
⇒⇒設計書に戻ります。

設計書画面

	名称	規格	単位	数量	単価
★	仮設工事		式		
1	パッカー掘削積込 山積0.8m ³ [平0.6]	砂・砂質土 粘質土 障害なし	m ³	4.6	167
2	仮管布設工	φ250	m	10	5041

- ⑤ 数量を入力。(貼り付けたときは「1」になっています)
- ⑥ キーボードの【Enter】ボタンを押す。

注意

ユーザー単価に登録した代価や単価を年度を越えて利用するには注意が必要です。今年設計書に去年などの過去のデータを貼り付けた場合、年度にかかわらず最初に貼り付けた単価が優先されます。例えば普通作業員が平成19年では15,000円で平成18年は16,000円だった場合、同じ設計書ですでにH19年の単価で普通作業員が使われている場合は平成18年に登録した単価(16,000円)を貼り付けても15,000円に変わります。逆に、H18年の16,000円を最初に貼り付けたときは、後から貼り付けたH19年の単価(15,000円)も16,000円に変わってしまいます。

3-2 5 積算物件の同一単価を一度に変更する（単価一覧）

当該積算物件内の特定の単価を一度に変更することができます。通常は単価を変更したい代価の明細を開いてそれぞれ単価を変更しますが、軽油などのようにまったく同じ単価でたくさんの代価に使われているような場合には、「単価一覧」画面で一括して変更することができます。

軽油（コード Y0000000277）の単価を 95 円から 100 円に一括変更する

- ① 直接工事費画面で【単価一覧】をクリック。

直接工事費画面



⇒⇒単価一覧画面が開きます。（軽油の単価は 95 円になっています）

単価一覧画面（材料費部分）

交通誘導員		人	30.00	8700	261,000	労務費
材料費					8,205,060	
軽油		㍓	7,526.67	95	715,033	材料費
異形棒鋼	SD295A D13	t	2.47	57000	140,790	材料費

- ② 材料費 軽油の単価欄にカーソルを入れてクリック。

- ③ 「100」と入力しキーボードの【Enter】を押す。

交通誘導員		人	30.00	8700	261,000	労務費
材料費					8,205,060	
軽油		㍓	7,526.67	100	715,033	材料費
異形棒鋼	SD295A D13	t	2.47	57000	140,790	材料費

- ④ 【直接工事費】ボタンで直接工事費画面に戻る。

⇒⇒これで当該積算物件の軽油の単価がすべて 100 円に変更されました。

直接工事の代価を開いて確認してみます。

直接工事費 2 位代価表画面

【2位代価表】バックホウ運転(掘削積込)							
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	
★	バックホウ運転(掘削積込)	山積0.8m3[平0.8][加型・排ガス対...	日	1	51200		
1	特殊運転手		人	1	14700		
2	軽油		器	108	100		
3	バックホウ[加型・排ガス対策型]	山積0.8m3(平積0.8m3)	供用日	1.46	17600		
4	諸雑費		式	1	4		

補足説明

- (1) 頂は代価や単価ごとにコードを持っています。例えば軽油は歩掛のなかで「Y0000000277」というコードを持っています。このコードは一つの単価に一つです。
- (2) 単価一括変更で単価を変更するとコードは変わりません。したがって「Y0000000277」のコードを持つ全ての軽油の単価を（例えば 95 円を 100 円に）変更することができます。
- (3) それに対してある特定の単価だけを変更する場合は、その単価を含む代価の明細を開いて直接当該単価を変更します。するとそのコードだけが強制的に変わり、他のものには影響しません。
- (4) コードの考え方は単価だけでなく、名称欄や規格欄を変更することも同じです。
- (5) 単価一覧で変更した単価を元に戻すには、同じ手順で元の単価を再入力します。
- (6) 単価一覧画面では費目別に一覧表示しますので、各項目の総数量がわかります。例えば生コンなどの材料や、普通作業員の総人数などを知ることができます。

3-2 6 積算後に工事価格を目標金額に合わせる（単価一括変更）

積算終了後に工事価格を調整して目標金額にあわせるには、大きく分けて (A) (B) 二つの方法があります。以下にそれぞれについて説明します。

- (A) 単価を一定の率又は金額で増減して、目標金額に近づける。
- (B) 目標工事価格を指定して、自動的に再計算させる。(シミュレート)

(A) 材料費の単価を全て 90%にする。

① 一通り積算終了後、【単価一括変更】ボタンをクリック。

The screenshot shows the 'vitie4' software interface. A callout box points to the '単価一括変更' (Change Unit Price) button in the left sidebar, with the text '①ここをクリック' (Click here). Another callout box points to the '直接工事費' (Direct Construction Cost) value of 16,624,404 in the main table. A third callout box points to the '工事価格' (Construction Price) value of 29,990,000 at the bottom of the table. A central callout box says '諸経費画面 一通り積算が終了しています' (General Expenses Screen. One-way calculation is complete).

名称	金額	計算	率	金額	備考
直接工事費	16,624,404	自動計算			
共通仮設費	2,308,098				
共通仮設費率額	1,741,000	自動計算	0.1029	16,924,404	
イメージアップ経費率額		計算しない			
内訳					
純工事費	18,932,500				
現場管理費	7,612,000	自動計算	0.4021	18,932,500	
工事原価	26,544,500				
一般管理費等	3,445,500	自動計算	0.1301	26,544,500	調整額 = 7,839
処分費		固定金額			
契約保証費		固定金額			
工事価格	29,990,000	自動計算			
消費税	1,499,500		0.05	29,990,000	
総工事価格	31,489,500	自動計算			

⇒⇒ウインドウが開きます

材料費だけを 10%減（現行の 90%）にします。

- ② 「単価増減方法」の「単価倍率」ボックスに「90」と入力。(逆に10%増にするときは「110」と入力します)
- ③ 「計算元の金額」の「現行金額」にチェック。(初期設定では現行金額になっています)
- ④ 「増減対象費用」で「材料費」にチェック。(単価を増減させたい費目にチェックを入れます。全ての項目を選択することも可能です)
- ⑤ 【実行】ボタンをクリック。
⇒⇒諸経費画面に戻ります。

設定	一般管理費補正(契約保証)	しない	
直接工事費	15,790,463	自動計算	
共通仮設費	2,237,096	自動計算	
共通仮設費率額	1,670,000	自動計算	
イメージアップ経費率額		計算しない	
内訳 共通仮設費積上額	567,096		
純工事費	18,027,559		
現場管理費	7,295,000	自動計算	
工事原価	25,322,559		
一般管理費等	3,297,441	自動計算	0.1306
処分費		固定金額	
契約保証費		固定金額	
工事価格	28,620,000	自動計算	
消費税	1,431,000		0.05
総工事価格	30,051,000	自動計算	

直接工事費をはじめ、諸経費や工事価格も変わりました

直接工事費が「16,624,404」から「15,730,463」になり、それにつれて各経費も自動計算されて最終的に工事価格が「28,620,000」になりました。

元へ戻すには

⑥ 再び【単価一括変更】 ボタンをクリック。⇒⇒ウインドウが開きます。

⑦ 【初期金額に戻る】 ボタンをクリック。

⇒⇒「単価倍率」に自動的に「100」が入ります。

⇒⇒「増減対象費用」全項目にチェックが入ります。

⑧ 「計算元の金額」の「初期金額」にチェック。(初期設定はチェックが付いています)

⑨ 【実行】 ボタンをクリック。

⇒⇒諸経費画面に戻ります。

補足説明

- (1) 積上げた単価が変更されて直接工事の明細にも反映されています。
- (2) 変更した単価は「単価一覧」で確認することができます。
- (3) 金額の増減を指定するときは「単価金額」欄に 100 円増のときは「+100」 500 円減のときは「-500」と入力します。
- (4) 最終的に工事価格を目標額に合わせるには、最後の微調整を一般管理費などの間接費で行ってください。

(B) 工事価格を 28,000,000 円に指定して、自動的に再計算させる。(シミュレート)

設定	一般管理費補正(前払金支出割合)		前払金支出割...	1.04
設定	一般管理費補正(契約保証)		しない	
	直接工事費	18,624,404	自動計算	
	共通仮設費	2,308,096		
	共通仮設費率額	1,741,000	自動計算	0.1029
	イメージアップ経費率額		計算しない	
内訳	共通仮設費積上額	567,096		
	純工事費	18,932,500		
	現場管理費	7,612,000	自動計算	0.4021
	工事原価	26,544,500		
	一般管理費等	3,445,500	自動計算	0.1301
	処分費		固定金額	
	契約保証費		固定金額	
	工事価格	29,990,000	自動計算	
	消費税	1,499,500		0.05
	総工事価格	31,489,500	自動計算	

28,000,000 に変更します

上の画面の工事価格 29,990,000 を材料費と労務費の単価だけを変更して 28,000,000 にしてみます。

- ① 一通り積算を終了して諸経費画面の【単価一括変更】ボタンをクリック。
⇒⇒単価一括変更ウインドウが開きます。

全ての単価を変更します

単価増減方法

単価倍率 ②

単価金額

計算元の金額

現行金額 初期金額

増減対象費用

材料費 労務費 処分費

損料・賃料 市場単価他

③

④

⑤

夜間工事にする

初期金額に戻る

工事価格シミュレート

工事価格 円

諸経費のみ変動、直接工事費を据え置き

実行

キャンセル

- ② 「計算元の金額」の「現行金額」にチェック。(すでにチェックが付いている場合もあります)
 - ③ 「増減対象費用」の「材料費」と「労務費」にチェックを入れます。
 - ④ 「工事価格シミュレート」の「工事価格」に「28,000,000」と入力。
 - ⑤ 【実行】ボタンをクリック。
- ⇒⇒諸経費画面に戻ります。

設定	一般管理費補正(契約保証)		しない	
	直接工事費	15,426,810	自動計算	
	共通仮設費	2,181,816		
	共通仮設費率額	1,638,000	自動計算	0.1
	イメージアップ経費率額		計算しない	
内訳	共通仮設費積上額	543,816		
	純工事費	17,608,626		
	現場管理費	7,146,000	自動計算	0.4
	工事原価	24,754,626		
	一般管理費	3,245,374	自動計算	0.1
	処分費		固定金額	
	契約保証費		固定金額	
	工事価格	28,000,000	シミュレート	
	消費税	1,400,000		0
	総工事価格	29,400,000	自動計算	

工事価格が指定した 28,000,000 になり、その右側の「自動計算」の文字が「シミュレート」に変わりました。直接工事費や諸経費も変わっています。

元へ戻すにはもう一度【単価一括変更】をクリックしてウインドウを開き

- ① 【初期金額に戻る】をクリック。
- ② 【実行】をクリック。

補足説明

- (1) 単価一覧画面で変わった単価を確認することができます。
- (2) 変更する単価に一律にある率を掛けるので、変更後の単価には端数が付きます。例えば労務費を選択した場合、変更前は 100 円単位ですが変更後は 1 円単位になることもあります。
- (3) 直接工事費は変更せずに、間接費だけで自動調整することもできます。下図のように工事価格を入力した後、そのすぐ下の「諸経費のみ変動、直接工事を据え置き」にチェックを入れて【実行】をクリックします。

この場合、元に戻すには諸経費画面で【自動計算に戻す】をクリックします。

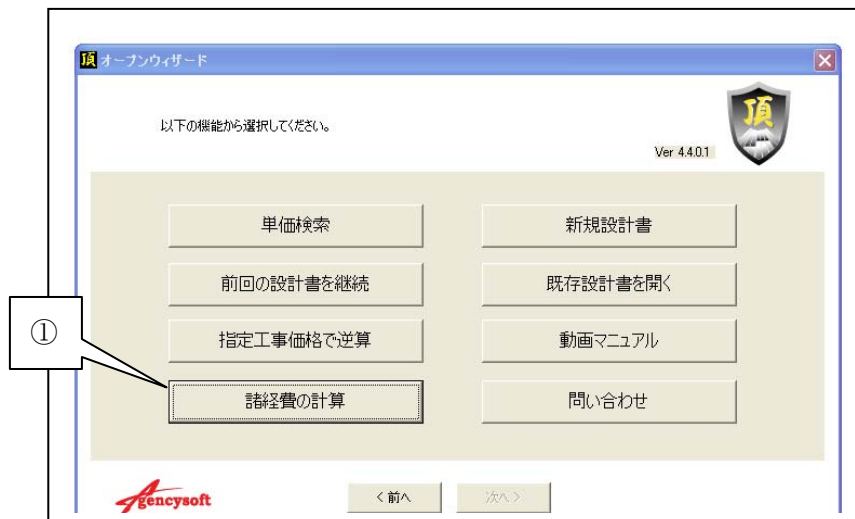
- (4) シミュレートは積算終了後に行うのに対して、逆算は積算前に行います。この点がシミュレートと逆算の違う点です。逆算は→「[3-28 工事価格から直接工事費を逆算する](#)」を参照してください。

3-27 直接工事費から諸経費を計算する

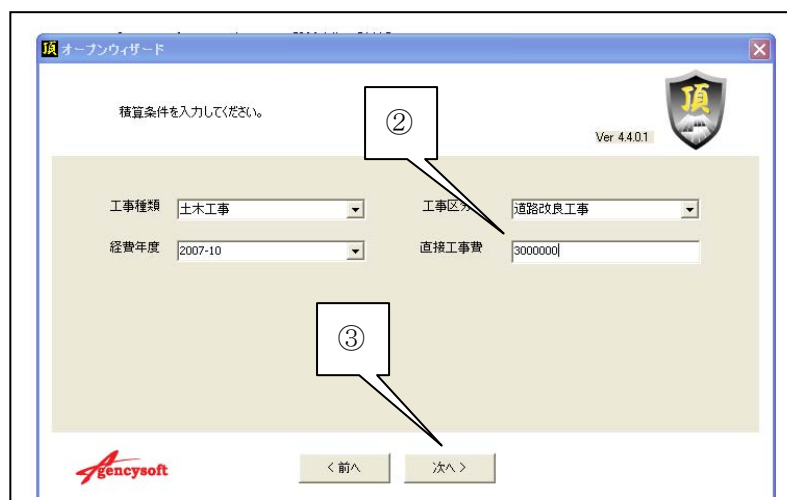
任意の直接工事金額で諸経費を試算することができます。下記の条件で試算してみます。

工事種類：土木工事
工事区分：道路改良工事
直接工事費：3,000,000 円
処分費：なし
共通仮設費積上額：交通誘導員 10人×8,500=85,000 円
地方部：交通の影響あり

① オープンウィザードで【諸経費の計算】をクリック。



② ▼印をクリックして工事種類など条件を選択し、直接工事費に「3000000」と入力。



③ 【次へ】をクリック。⇒⇒諸経画面が開きます。

諸経費画面

表紙	諸経費 (当初)						
	名称	金額	選択内容	率	対象額	備考	
直接工事費	設定 経費年度		2007_10				
諸経費	設定 工事種類		土木工事				
	設定 工事区分		道路改良工事				
代値一覧	設定 支給品額						
単値一覧	設定 無償貸付機械等評価額	⑥					
下位表詳細	設定 事業損失防止対策費		自動計算				
	設定 PC稼働料						
	設定 備付、門扉等の工場原価						
再計算	設定 直工に含まれる処分費						
	設定 準備費に含まれる処分費						
印刷	設定 その他諸経費計算除外金額						
自動計算に戻す	設定 共通仮設費補正		しない				
	設定 イメージアップ経費補正		しない				
	設定 現場管理費補正(工事場所)		しない				
	設定 現場管理費補正(工事期間)						
	設定 現場管理費補正(冬期)						
	設定 一般管理費補正(前払金支出割合)						
	設定 一般管理費補正(契約保証)						
	直接工事費	2,000	固定金額				
	共通仮設費	382,000					
	共通仮設費率額	382,000	自動計算	0.1276	3,000,000		
	イメージアップ経費率額		計算しない				
内訳	共通仮設費積上額						
	純工事費	3,382,000					
	現場管理費	369,000	自動計算	0.2867	3,382,000		
	工事原価	4,351,000					
	一般管理費等	619,000	自動計算	0.1438	4,351,000	調整額 = 6,673	
	処分費		固定金額				
	契約保証費		固定金額				
	工事価格	4,970,000	自動計算				
	消費税	248,500		0.05	4,970,000		
	総工事価格	5,218,500	自動計算				

この時点で、設定した条件と金額で諸経費が計算され、工事価格 4,970,000 円と表示されています。

ここに他の条件を追加します。

- ④ 共通仮設費補正を「地方部：一般交通への影響あり」を選択。(→「[4-8 共通仮設費補正で工事場所区分を設定する](#)」を参照してください)
- ⑤ 共通仮設費積上額に交通誘導員 10 人を計上します。(→「[3-21 共通仮設費を積上げる](#)」を参照してください)
- ⑥ 【再計算】をクリック。(赤く変色しています)

補足説明

- (1) 初期設定では共通仮設費率額と現場管理費は千円丸め（千円未満切捨て）、工事価格は万円止め（万円未満切捨て）になっています。丸めの単位を変更するには→「[4-18 丸めの単位を変更する](#)」を参照してください。

設定条件を全て反映した諸経費画面

vitie4 - 経費計算モード						
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 設定(O) ヘルプ(H)						
[アイコン] [アイコン] [アイコン] [アイコン] [アイコン] [アイコン] [アイコン]						
表紙	諸経費(当初)					
	名称	金額	選択内容	率	対象額	備考
直接工事費	設定 経費年度		2007_10			
諸経費	設定 工事種類		土木工事			
	設定 工事区分		道路改良工事			
代価一覧	設定 支給品額					
単価一覧	設定 無償貸付機械等評価額					
	設定 事業損失防止施設費		自動計算			
下位表詳細	設定 P・O桁等購入費					
	設定 鋼桁、門扉等の工場原価					
再計算	設定 直工に含まれる処分費					
	設定 準備費に含まれる処分費					
印刷	設定 その他諸経費計算除外金額					
自動計算に戻す	設定 共通仮設費補正		地方部一般...	0.015		
	設定 イメージアップ経費補正		しない			
単価一括変更	設定 現場管理費補正(工事場所)		地方部一般...	0.01		
	設定 現場管理費補正(工事期間)		しない			
	設定 現場管理費補正(冬期)		しない			
	設定 一般管理費補正(前払金支出割合)		しない			
	設定 一般管理費補正(契約保証)		しない			
	直接工事費	3,000,000	固定金額			
	共通仮設費	512,000				
	共通仮設費率額	427,000	自動計算	0.1428	3,000,000	
	イメージアップ経費率額		計算しない			
内訳	共通仮設費積上額	85,000				
	純工事費	3,512,000				
	現場管理費	1,042,000	自動計算	0.2967	3,512,000	
	工事原価	4,554,000				
	一般管理費等	646,000	自動計算	0.1438	4,554,000	調整額 = 8,865
	処分費		固定金額			
	契約保証費		固定金額			
	工事価格	5,200,000	自動計算			
	消費税	260,000		0.05	5,200,000	
	総工事価格	5,460,000	自動計算			

固定金額になっています

共通仮設費補正と現場管理費に「地方部：一般交通への影響あり」が設定され、共通仮設費積上額に 85,000 円が計上されています。

最終的に工事価格は 5,200,000 円になりました。

直接工事費の 3,000,000 円は積上げた数値ではないので、「固定金額」になっています。設計書で積上げた場合には「自動計算」と表示されます。

3-2 8 工事価格から直接工事費を逆算する

積算前に工事価格から所定の間接費率に基づいて直接工事費などを逆算することができます。

以下の条件で直接工事と諸経費を逆算してみます。

工事種類 土木工事

工事区分 河川工事

工事価格 5,000,000 円

直接工事に含まれる処分費 300,000 円

共通仮設費積上げ額 安全費 交通誘導員 A 10人×8,500=85,000 円

共通仮設費・現場管理費補正 地方部・一般交通等の影響あり

イメージアップ経費 計上しない

前払い金支出割合 25%を超え 35%以下

契約保証 金銭的保証

オープンウィザード画面を開きます。

オープンウィザード画面



① 【指定工事価格で逆算】をクリック。

⇒⇒条件入力画面が開きます。

条件入力画面

- ② 工事種類：「土木工事」、工事区分：「河川工事」、経費年度：「2007-10」と選択。
- ③ 工事価格：「5000000」と入力。
- ④ 【次へ】をクリック。

諸経費画面（オープンウィザード画面で設定した条件だけが反映された状態）

表紙	諸経費 (当初)	名称	金額	選択内容	率	対象額	備考
直接工事費	設定	経費年度		2007_10			
諸経費	設定	工事種類		土木工事			
	設定	工事区分		河川工事			
代価一覧	設定	支給品額					
	設定	無償貸付機械等評価額					
単価一覧	設定	事業損失防止施設費		自動計算			
下位表詳細	設定	PC桁等購入費					
	設定	綱布、門扉等の工場原価					
再計算	設定	直工に含まれる処分費					
	設定	準備費に含まれる処分費					
印刷	設定	その他諸経費計算除外金額					
自動計算に戻す	設定	共通仮設費補正					
	設定	イメージアップ経費補正					
単価一括変更	設定	現場管理費補正(工事場所)					
	設定	現場管理費補正(工事期間)					
	設定	現場管理費補正(冬期)		しない			
	設定	一般管理費補正(前払金支出割合)		しない			
	設定	一般管理費補正(契約保証)		しない			
		直接工事費	2,841,796	固定金額			
		共通仮設費	355,000				
		共通仮設費半額	355,000	自動計算	0.1251	2,841,796	
		イメージアップ経費半額		計算しない			
内訳		共通仮設費積上額					
		総工事費	3,196,796				
		現場管理費	1,175,000	自動計算			
		工事原価	4,371,796				
		一般管理費等	628,204	自動計算			
		処分費		固定金額			
		契約保証費		固定金額			
		工事価格	5,000,000	自動計算			
		消費税	250,000		0.05	5,000,460	
		総工事価格	5,250,000	固定金額			

この時点ではオープンウィザード画面で設定した条件だけが反映された状態です。続いてその他の条件を入力します。

- ⑤ 「直工に含まれる処分費」に「300000」と入力し【Enter】を押す。
- ⑥ 「共通仮設費補正」の選択内容欄の「しない」をクリック、表示された▼印をクリックしてプルダウンメニューから「地方部・一般交通等の影響あり」を選択してクリック。
- ⑦ 同様にして「一般管理費補正（前払金支出割合）」から「支出金割合 25%を超え 35%以下」を選択してクリック。
- ⑧ 同じく「一般管理費補正（契約保証）」から「金銭的保証」を選択してクリック。
- ⑨ 共通仮設費積上額の安全費に交通誘導員 A を 10 人積上げ。（積上げ方法は→「[3-21 共通仮設費を積上げる](#)」を参照）
- ⑩ 【再計算】ボタンをクリック。（赤く変色しています）

⇒⇒これらの条件で再計算が実行されます。

工事価格の 5,000,000 円は変わりませんが、直接工事費や諸経費は変わっています。

諸経費画面（全ての条件を反映した状態）

表紙	諸経費 (当初)	名称	金額	選択内容	率	対象額	備考
直接工事費	設定	経費年度		2007_10			
諸経費	設定	工事種類		土木工事			
	設定	工事区分		河川工事			
代価一覧	設定	支給品額					
単価一覧	設定	無償貸付機械等評価額					
	設定	事業損失防止施設費		自動計算			
下位表詳細	設定	PC桁等購入費					
	設定	鋼桁、門扉等の工場原価					
再計算	設定	直工に含まれる処分費	300,000				
	設定	準備費に含まれる処分費					
	設定	その他諸経費計算除外金額					
印刷	設定	共通仮設費補正		地方部一般...	0.015		
自動計算に戻す	設定	イメージアップ経費補正		しない			
単価一括変更	設定	現場管理費補正(工事場所)		地方部一般...	0.01		
	設定	現場管理費補正(工事期間)		しない			
	設定	現場管理費補正(冬期)		しない			
	設定	一般管理費補正(前払金支出割合)		前払金支出割...	1.01		
	設定	一般管理費補正(契約保証)		金銭的保証...	0.0004		
		直接工事費	2,802,734	固定金額			
		共通仮設費	447,000				
		共通仮設費率額	362,000	自動計算	0.1401	2,586,816	
		イメージアップ経費率額		計算しない			
内訳		共通仮設費積上額	85,000				
		純工事費	3,249,734				
		現場管理費	1,146,000	自動計算	0.3778	3,033,816	
		工事原価	4,395,734				
		一般管理費等	604,266	自動計算	0.1456	4,179,816	調整額 = -4,315
		処分費		固定金額			
		契約保証費		固定金額			
		工事価格	5,000,000	自動計算			
		消費税	250,000		0.05	5,004,315	
		総工事価格	5,250,000	固定金額			

補足説明

- (1) 逆算の場合は「総工事価格」と「直接工事費」が「固定金額」と表示されます。
- (2) この画面も「ファイル」⇒「名前を付けて保存」で保存することができます。
- (3) 他の金額で試す場合には、オープンウィザード画面に戻らなくてもこの諸経費画面で「工事価格」に新しい金額を入力して【再計算】ボタンをクリックします。
- (4) 逆算は積算前に行う操作で、積算後に行うシミュレートとは違います。シミュレートは→「[3-26 積算後に工事価格を目標金額に合わせる](#)」を参照してください。

4 諸経費の設定

4-1 諸経費画面の説明（土木工事）

諸経費画面（土木工事）

名称	内容	率	対象額	備考
経費年度	2007_10			
工事種類	土木工事			
工事区分	河川工事			
支給品類				
無償貸付機械等評価額				
事業損失防止施設費	自動計算			
PC桁等購入費				
鋼桁、門扉等の工場原価				
直工に含まれる処分費				
準備費に含まれる処分費				
その他諸経費計算除外金額				
共通仮設費補正	しない			
イメージアップ経費補正	しない			
現場管理費補正(工事場所)	しない			
現場管理費補正(工事期間)	しない			
現場管理費補正(冬期)	しない			
一般管理費補正(前払金支出割合)	しない			
一般管理費補正(契約保証)	しない			
直接工事費	297	自動計算		
共通仮設費		自動計算		
共通仮設費率額		0.1251		
イメージアップ経費率額		計算しない		
内訳	共通仮設費積上額			
純工事費	297			
現場管理費		自動計算		
工事原価	297	0.9678	297	
一般管理費等	-297	0.1498	297	調整額 = 271
処分費		固定金額		
契約保証費		固定金額		
工事価格		自動計算		
消費税		0.05		
総工事価格		自動計算		

ボタン部

ボタン部は他の画面とほとんど共通しています。それぞれ表示されている画面を開くときに使います。【自動計算に戻す】【単価一括変更】の二つは、諸経費画面にしかありません。

自動計算に戻す：間接費などを直接入力すると金額欄の右の「自動計算」が「固定金額」に変わります。それらを元の自動計算された金額に戻すときにこのボタンを使います。また、【単価一括変更】でシミュレートした場合もこのボタンで元に戻します。

単価一括変更：積算終了後に工事価格の調整をするときに使います。（→「[3-26 積算後に工事価格を目標金額に合わせる](#)」を参照）

第1グループ

諸経費率を算定する根拠となる「経費年度」「工事種類」「工事区分」を表示しています。「選

「選択内容」欄に表紙で設定した条件が表示されています。この条件を変更したい場合は選択内容欄をクリックすると▼印が現れ、さらにこの▼印をクリックしてプルダウンメニューを表示させてそこから新しい条件を選択します。

第2グループ

間接費の率計算の対象額に関する各種金額を入力します。

- 支給品額：一般材料費で支給品がある場合支給品 当額をここに入力します。その結果、共通仮設費と現場管理費の対象額にこの金額が加算されます。
- 無 付機械等 価額：無 機械等がある場合その 価額をここに入力します。その結果、共通仮設費と現場管理費の対象額にこの金額が加算されます。
- 事業損失防止施設費：共通仮設費の事業損失防止施設費に手順通りに積上げると、その金額が自動的にここに表示されます。ただし、選択内容欄が「自動計算」になっていることが必要です。この金額は共通仮設費率分の対象額に算入されます。
(共通仮設費の積上げ方法は→「[3-21 共通仮設費を積上げる](#)」参照)
- PC 桁等購入費：桁等購入費が直接工事費に計上されている場合にその 当額を入力します。この金額は共通仮設費率分と一般管理費の対象額から 除されます。
- 鋼桁, 等の工場 価：該当する金額を入力します。この金額は共通仮設費率分と現場管理費の対象額から 除されます。
- 直工に含まれる処分費：直工に計上した処分費（高 道路利用料金も含みます）をここに入力します。処分費の合計額が「直接工事費+準備費に含まれる処分費」の3%を超える場合または処分費が3千万円を超える場合に、超えた分は間接費率分の対象額から 除されます。処分費の金額を入力すれば、これらの計算は頂が自動的に計算します。
- 準備費に含まれる処分費：共通仮設費積上げ計算で準備費に計上した処分費を入力します。
- その他諸経費計算除外金額：各自治体のルールなどで、直接工事費には計上するが諸経費の率分の対象額から 除する金額がある場合にはここに入力します。

各項目と間接費対象額との関係は下表の通りです。

間接工事費項目別対象表（抜 ）

	共通仮設費	現場管理費	一般管理費
支給品額（一般材料費）	○	○	×
無 付機械 価額	○	○	×
PC 桁等購入費	×	○	○
鋼桁, 等の工場 価	×	×	○
3%超の処分費	×	×	×
その他諸経費計算除外金額	×	×	×

第3グループ

このグループは間接費の率を補正する項目です。下記の2項目以外は率が決まっているので、選択内容欄をクリックして該当するものを選択します。下記の2項目は数値を直接入力します。

- 現場管理費補正（工事期間）：緊急工事の場合冬期補正とあわせて最大+2%まで補正することができます。（→「[4-10 緊急工事の経费率補正をする](#)」参照）
- 現場管理費補正（冬期）：特定の地域で工期が冬期にかかる場合に補正します。（→「[4-11 現場管理費の冬期補正をする](#)」参照）

金額表示部

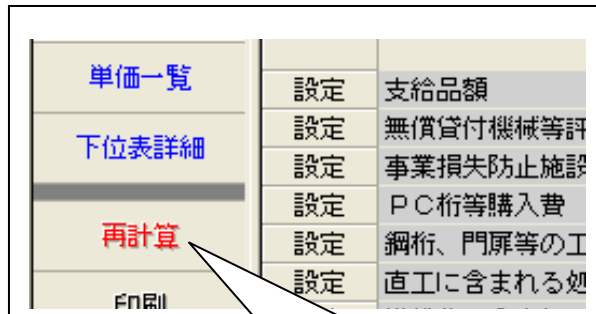
設定	一般管理費補正(契約保証)		しない			
	直接工事費	10,000,000	自動計算			
	共通仮設費	1,043,000				
	共通仮設费率額	1,043,000	自動計算	0.1153	9,000,000	
	イメージアップ経费率額		計算しない			
内訳	共通仮設費積上額					
	純工事費	11,043,000				
	現場管理費	3,439,000	自動計算	0.3425	10,043,000	
	工事原価	14,482,000				
	一般管理費等	1,908,000	自動計算	0.1319	14,482,000	調整額 = 2,175
	処分費		固定金額			
	契約保証費		固定金額			
	工事価格	16,390,000	自動計算			
	消費税	819,500		0.05	16,390,000	
	総工事価格	17,209,500	自動計算			

- 直接工事費：積上げた直接工事費が表示されます。ただし、「自動計算」になっていることが必要です。直接任意の金額を入力することもできますが、その場合「自動計算」が「固定金額」に変わります。
- 共通仮設費：「共通仮設费率額」「イメージアップ経费率額」「共通仮設費積上額」の合計額を表示します。
- 共通仮設费率額：自動計算された率額を表示しています。計算に使用した率（0.1153）と対象額（9,000,000）も表示しています。初期値は千円丸めになっていますが、「選択内容」をクリックして丸めの単位を変更することもできます。
- イメージアップ経费率額：計算する場合は「選択内容」をクリックして「自動計算」を選択します。
- 共通仮設費積上額：積上げ計上はここから行います。（→「[3-21 共通仮設費を積上げる](#)」参照）

- 現場管理費：自動計算された率額を千円丸めで表示しています。共通仮設費率額と同様に率と対象額も表示し、丸めの単位も変更できます。
- 一般管理費等：自動計算された率額を表示しています。工事価格が万円止めになるようにここで端数調整しています。右端の備考欄に切り捨てた額を調整額 (2,175) として表示しています。
- 処分費：処分費をその額にかかわらず一切間接費の対象額にしない場合は、直接工事費内には計上しないでここに処分費を計上します。
- 契約保証費：保証費を一般管理費の率補正ではなく、金額を直接計上する場合にここに計上します。その場合には一般管理費補正は「しない」にします。
- 工事価格：初期値は万円止めになっていますが、選択内容欄をクリックして丸めの単位を選択することもできます。その場合は他の率額の丸目と矛盾しないようにすることが必要です。

補足説明

- (1) 諸経費画面で設定を変更すると、【再計算】ボタンが赤く変色します。このボタンをクリックすると、変更した設定内容が反映された計算結果を表示します。同時に赤色が 色に戻ります。



設定を変更すると文字が赤く変色します

4-2 諸経費画面の説明（管工事）

諸経費画面（管工事）

名称	金額	選択内容	率	対象額	備考
経費年度		2007_10			
工事種類		管工事			
工事区分		本管工事			
支給品額					
特殊製品合計額		自動計算			
重機運搬費		自動計算			
現場管理費補正(冬期)		しない			
現場管理費区分(本管工事)		トンネル工事...			
共通運搬費区分		開削工事等			
安全費の区分		交通量のあま...			
環境対策費補正		しない			
直接工事費	237	自動計算			
共通仮設費	10,110				
共通仮設費率額	10,110	自動計算			
運搬費率額	5	自動計算	0.0234	237	
準備費率額	9,000	自動計算		0	率計算に+9千円、千円単位
技術管理費率額	2	自動計算	0.01	237	
宮積積料率額	231	自動計算	0.025	9,244	
労務者輸送率額	847	自動計算	0.07	9,244	
安全費率額	225	自動計算	0.0244	9,244	
環境対策費率額		計算しない			
共通仮設費積上額					
純工事費	10,347				
現場管理費	1,500	自動計算	0.145	10,347	
工事原価	11,847				
一般管理費等	1,858	自動計算	0.14	11,847	
処分費		固定金額			
契約保証費		固定金額			
工事価格	13,505	自動計算			
消費税	675		0.05	13,505	
総工事価格	14,180	自動計算			

ボタン部

ボタン部は他の画面とほとんど共通しています。それぞれ表示されている画面を開くときに使います。【自動計算に戻す】【単価一括変更】の二つは、諸経費画面にしかありません。

自動計算に戻す：間接費などを直接入力すると金額欄の右の「自動計算」が「固定金額」に変わります。それらを元の自動計算された金額に戻すときにこのボタンを使います。また、【単価一括変更】でシミュレートした場合もこのボタンで元に戻します。

単価一括変更：積算終了後に工事価格の調整をするときに使います。（→「[3-26 積算後に工事価格を目標金額に合わせる](#)」を参照）

第1グループ

諸経費率を算定する根拠となる「経費年度」「工事種類」「工事区分」を表示しています。「選択内容」欄に表紙で設定した条件が表示されています。この条件を変更したい場合は選択内

容欄をクリックすると▼印が現れ、さらにこの▼印をクリックしてプルダウンメニューを表示させてそこから新しい条件を選択します。

工事種類を「管工事」にすると、工事区分は「本管工事」「新 機械設備工事」と「 機械設備工事」の 3 種類が表示されます。

第 2 グループ

間接費の率計算の対象額に関する各種金額を入力します。

- 支給品額：支給品がある場合支給品 当額をここに入力します。その結果、現場管理費の対象額にこの金額が加算されます。
- 特殊製品合計額：当該金額をこの欄に計上すると、その合計額の 1/2 が現場管理費の対象額から工事されます。直接工事費の中で決められた方法で計上すると自動的にこの画面に金額が表示されます。(→「[4-14 管工事で材料費\(特殊製品費\)を経費に反映する](#)」参照)
- 重機運搬費：当該金額をこの欄に計上すると共通仮設費の 損料以下の率額の対象額に加算されます。共通仮設費積上げ計上に決められた方法で計上すると自動的にこの画面に金額が表示されます。(→「[3-21 共通仮設費を積上げる](#)」参照)

第 3 グループ

間接費率を補正するグループです。

- 現場管理費区分(本管工事)：「トンネル工事以外」と「トンネル工事」から選択します。
- 共通仮設費区分：「開削工事等」と推進工事などがあり、やはり該当するものを選択します。
- 安全費区分：安全費率 A・B のどちらかを選択します。
 - A：国道及び交通量の多い県道及び市道における管路工事(開削)
 - B：交通量のあまり多くない県道及び市道 びに 村道における管路工事(開削)
- 対 費補正：市 地の場合は「市 地」を選択します。その結果率が 0.5%加算されます。

金額表示部

第 3 グループまでで設定した条件により自動計算した結果を表示します。管工事では共通仮設費が細分 されているのが特 です。

4-3 諸経費画面の説明（民間工事）

諸経費画面（民間工事）

項 vitie4 - 無題						
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 設定(O) ヘルプ(H)						
表紙	諸経費 (当初)					
	名称	金額	選択内容	率	対象額	備考
直接工事費	設定 経費年度		2007_10			
	設定 工事種類		民間工事			
諸経費	設定 工事区分		民間工事			
代値一覧	値引前直接工事費	237				
単値一覧	設定 材料費の値引					
	設定 その他の値引					
下位表詳細	直接工事費	237	自動計算			
	諸経費	24	自動計算	0.1	237	
	端数切捨					
再計算	値引前工事価格	260				
印刷	設定 工事価格の値引		固定金額			
	工事価格	260	自動計算			
	消費税	13		0.05	260	
自動計算に戻す	総工事価格	273	自動計算			
単値一括変更						

民間工事の特 は間接費が「諸経費」の1項目にまとめられて、共通仮設費・現場管理費・一般管理費と分かれていません。

諸経費は初期値では「0.1」すなわち10%となっています。率を指定することも金額を指定することも可能です。

値引き欄など金額欄が空欄の場合には、その行は印刷されません。

4-4 支給品額・桁等購入費その他を設定する

支給品額や桁等購入費など諸経費の率計算に係る金額は、諸経費画面の第2グループで設定します。

諸経費画面（第2グループ）

設定	支給品額			
設定	無償貸付機械等評価額			
設定	事業損失防止施設費		自動計算	
設定	PC桁等購入費			
設定	鋼桁、門扉等の工場原価			
設定	直工に含まれる処分費			
設定	準備費に含まれる処分費			
設定	その他諸経費計算除外金額			

該当金額がある場合、「事業損失防止施設費」以外はここに金額を直接入力します。

- 支給品額：一般材料費で支給品がある場合支給品 当額をここに直接入力します。その結果、共通仮設費と現場管理費の対象額にこの金額が加算されます。
- 無 付機械等 価額：無 機械等がある場合その 価額をここに直接入力します。その結果、共通仮設費と現場管理費の対象額にこの金額が加算されます。
- 事業損失防止施設費：自動的に金額が表示されます。→「[4-5 事業用損失防止施設費を経費計算に反映させる](#)」参照
- PC 桁等購入費：桁等購入費が直接工事費に計上されている場合にその 当額を入力します。この金額は共通仮設費率分と一般管理費の対象額から 除されます。
- 鋼桁、 等の工場 価：該当する金額を入力します。この金額は共通仮設費率分と現場管理費の対象額から 除されます。
- 処分費：→「[4-6 処分費を経費計算に反映させる](#)」参照
- その他諸経費計算除外項目：→「[4-7 直接工事費に諸経費除外項目がある場合](#)」参照

間接工事費項目別対象表（抜 ）

	共通仮設費	現場管理費	一般管理費
支給品額（一般材料費）	○	○	×
無 付機械 価額	○	○	×
PC 桁等購入費	×	○	○
鋼桁、 等の工場 価	×	×	○
3%超の処分費	×	×	×
その他諸経費計算除外金額	×	×	×

4-5 事業用損失防止施設費を経費計算に反映させる

事業損失防止施設費は共通仮設の項目ですが、共通仮設費率額の対象額に算入されます。共通仮設費に正しく計上することで、この処理を自動計算で行います。

諸経費画面（第2グループ）

設定	支給品額			
設定	無償貸付機械等評価額			
設定	事業損失防止施設費	150,000	自動計算	
設定	PC桁等購入費			
設定	綱桁、門扉等の工場原価			
設定	直工に含まれる処分費			
設定	準備費に含まれる処分費			
設定	その他諸経費計旨除外金額			

自動的に表示されます

事業損失防止施設費がある場合には、諸経費画面の共通仮設積上額に計上してください。その結果諸経費画面の第2グループの該当箇所に自動的に金額が計上されます。入力する必要はありません。ただし上図のように「自動計算」になっていることが必要です。

諸経費画面（金額表示部）

設定	一般管理費補正(契約保証)		しない	
	直接工事費	16,624,404	自動計算	
	共通仮設費	2,146,096		
	共通仮設費率額	1,729,000	自動計算	0.1031
	イメージアップ経費率額		計算しない	
内訳	共通仮設費積上額	417,096		
	純工事費	18,770,500		
	現場管理費	7,557,000	自動計算	0.4026
	工事原価	26,327,500		
	一般管理費等	3,422,500	自動計算	0.1302
			固定金額	
			固定金額	
	工事価格	29,750,000	自動計算	
	消費税	1,487,500		0.05
	総工事価格	31,237,500	自動計算	

ここに積上げます

共通仮設費の積上げ方法は→「[3-21 共通仮設費を積み上げる](#)」を参照してください。

4-6 処分費を経費計算に反映させる

処分費がある場合、金額によって（算で直工金額の3%以内）は間接費の対象額から除されます。処分費は直接工事に計上されるものと、共通仮設の準備費に計上されるものがあります。それぞれ扱いが違いますので、別々に入力します。

諸経費画面（第2グループ）

設定	支給品額			
設定	無償貸付機械等評価額			
設定	事業損失防止施設費	150,000	自動計算	
設定	PC桁等購入費			
設定	綱桁、門扉等の工場原価			
設定	直工に含まれる処分費			
設定	準備費に含まれる処分費			
設定	その他諸経費計算除外全額			

処分費は事業損失防止施設費のように自動的に表示はされませんので、該当する金額を直接自入力します。

入力する処分費の額は「単価一覧」画面から求めます。

① 諸経費画面から【単価一覧】ボタンをクリック。

⇒⇒単価一覧画面が開きます

単価一覧画面

次期加工	次期加工・福祉 一般借入物	1	5.31	990000	172,040	1110半田他
	家屋調査費	棟	1.00	150000	150,000	市場単価他
	処分費				500,000	
	処分費	m3	50.00	10000	500,000	処分費
	支給品額（合計に含まれない）					
	その他（上記に含まれない費用）	諸雑費、切捨て、値引などによる差...				468,267
	合計					

② 単価一覧画面に「処分費」という項目があります。この合計金額（500,000）をメモします。

③ 単価一覧画面の【諸経費】ボタンをクリック。

⇒⇒諸経費画面に戻ります。

④ 処分費の欄にメモした金額（500000）を入力し【Enter】ボタンを押す。

⇒⇒【再計算】ボタンが赤く変色します。

⑤ ボタン部の【再計算】ボタンをクリック。

⇒⇒間接費の率計算が再計算されます。

諸経費画面（第2グループ）

単価一覧	設定	支給品額			
下位表詳細	設定	無償貸付機械等評価額			
	設定	事業損失防止施設費		自動計算	
再計算	設定	PC桁等購入費			
	設定	鋼桁、門扉等の工場原価			
	設定	直工に含まれる処分費		500,000	
	設定	準備費に含まれる処分費			
印刷	設定	その他諸経費計算除外金額			

補足説明

(1) 「処分費等」の取扱いは下記の通りです。

「直接工事と準備費の処分費の合計額が、共通仮設費対象額と準備費に含まれる処分費の合計額の3%を超える場合、または処分費が3千万円を超える場合は超える金額は率計算の対象額にしない」というものです。

(2) 「処分費等」には有料道路使用料や上下水道料金も含まれます。

(3) 標準単価から貼り付けた処分費は費目が「処分費」になっていますが、ユーザーが新規単価で作成した処分費は、費目が「材料費」になっています。（新規に作成した単価は全て「材料費」になります）したがって、処分費を作成した場合は正しい合計金額を表示するには費目を「処分費」に変更する必要があります。

0,000	市場単価他
172,040	市場単価他
150,000	市場単価他
500,000	
500,000	処分費
488,287	労務費 材料費 損料・賃料 市場単価他 処分費

単価一覧の費目欄をクリックして、プルダウンメニューから「処分費」を選択します。

(4) 直接工事と準備費と両方に処分費がある場合は、単価一覧の金額をそれぞれに分類して、入力する必要があります。自動的に分類することはできません。（名称や単価が違えば別々に表示されます）

4-7 直接工事費に経費除外項目がある場合

「直接工事に計上したが、間接費の率計算には一切反映させない」という項目がある場合には第2グループの「その他諸経費計算除外金額」に該当金額を直接自入力します。

直接工事費 16,624,404 円のなかに諸経費計算除外金額が 300,000 円含まれている場合

- ① 諸経費画面を開きます。
 - ② 「その他諸経費計算除外金額」に「300000」を直接入力。
 - ③ キーボードの【Enter】ボタンを押す。
- ⇒⇒ 【再計算】ボタンが赤く変色します。

諸経費画面

再計算	設定	事業損失防止施設費	150,000	自動計算		
	設定	PC等購入費				
印刷	設定	綱桁、門扉等の工場原価				
	設定	直工に含まれる処分費	500,000			
	設定	準備費に含まれる処分費				
	設定	その他諸経費計算除外金額	300,000			
自	設定	現場管理費補正				
	設定	イメージアップ経費補正				
単価一括変更	設定	現場管理費補正(工事場所)				
	設定	現場管理費補正(工事期間)				
	設定	現場管理費補正(冬期)				
	設定	一般管理費補正(前払金支出割合)				
	設定	一般管理費補正(契約保証)				
		直接工事費	16,624,404	自動計算		
		共通仮設費	2,146,096			
		共通仮設費率額	1,729,000	自動計算	0.1031	16,774,404
		イメージアップ経費率額		計算しない		
内訳		共通仮設費種上額	417,096			

②金額を入力

【再計算】をクリックすれば対象額が $16,774,404 - 300,000 = 16,474,404$ になります

- ④ 【再計算】ボタンをクリック。
- ⇒⇒対象額が変わり率計算部分が再計算されます。

補足説明

- (1) 共通仮設費率額行の右側に「対象額」欄があります。直接工事費の金額から今入力した除外金額が正しく 除されているかはこの対象額欄で確認することができます。
- (2) 対象額は共通仮設費だけでなく、率で計算される現場管理費や一般管理費などの行にも表示されています。

4-8 共通仮設費補正で工事場所区分を設定する

間接費の率の補正は諸経費画面の第3グループで行います。

諸経費画面（第3グループ）

再計算 ⑤ 自動計算に戻す 単価一括変更	設定	事業損失防止施設費	150,000	自動計算		
	設定	PC桁等購入費				
	設定	鋼桁、門扉等の工場原価				
	設定	直工に含まれる処分費	500,000			
	設定	準備費に含まれる処分費				
	設定	その他諸経費計算除外金額	300,000			
	設定	共通仮設費補正			市街地	0.0200
	設定	イメージアップ経費補正			しない	
	設定	現場管理費補正(工事場所)			市街地	
	設定	現場管理費補正(工事期間)			山間僻地及び離島	
	設定	現場管理費補正(冬期)			地方部-一般交通等の影響あり	
	設定	一般管理費補正(前払金支出割合)			地方部-一般交通等の影響なし	
	設定	一般管理費補正(契約保証)			前払金支出割...	1.04
	設定	一般管理費補正(契約保証)			しない	
			直接工事費	18,624,404	自動計算	
		共通仮設費	2,146,096			
		共通仮設費率額	1,729,000	自動計算	0.1031	18,774,404
		イメージアップ経費率額		計算しない		
内訳		共通仮設費積上額	417,096			
		純工事費	18,770,500			
		現場管理費	7,557,000	自動計算	0.4026	18,770,500
		工事原価	26,327,500			
		一般管理費等	3,422,500	自動計算	0.1302	26,327,500
		処分費		固定金額		
		契約保証費		固定金額		
		工事価格	29,750,000	自動計算		
		消費税	1,487,500		0.05	29,750,000
		総工事価格	31,237,500	自動計算		

共通仮設費補正で工事場所を「市 地」にしてみます。

- ① 諸経費画面を開きます。
- ② 第3グループの「共通仮設費補正」の「選択内容」欄をクリック。(初期値では選択内容欄は「しない」になっています)
- ③ ▼をクリック。
- ④ プルダウンメニューから「市 地」を選択。
- ⑤ 【再計算】をクリック。(赤く変色しています)

⇒⇒共通仮設費率額の行にある「率」欄に「0.0200」と入ります。すなわち+2%という意味です。

補足説明

- (1) 共通仮設で「市 地」を選択すると、自動的に現場管理費も市 地になります。
- (2) 共通仮設費率額や現場管理費の行の率欄にも、それぞれの率が加算されます。

4-9 イメージアップ経費を計上する

イメージアップ経費を計上する方法を説明します。

- ① 諸経費画面を開きます
- ② 「イメージアップ経费率額」の選択内容欄をクリック。
- ③ ▼をクリック
- ④ プルダウンメニューから「自動計算」をクリック。

諸経費画面

逆算	設定	市街地	0.02
自動計算に戻す	設定	イメージアップ経費補正	しない
単価一括変更	設定	現場管理費補正(工事場所)	市街地 0.015
	設定	現場管理費補正(工事期間)	しない
	設定	現場管理費補正(冬期)	しない
	設定	一般管理費補正(前払金支出)	前払金支出 0.04
	設定	一般管理費補正(契約保証)	しない
		直接工事費	18,624,404 自動計算
		共通仮設費	2,627,096
		共通仮設费率額	自動計算
		イメージアップ経费率額	自動計算
内訳		共通仮設費積上額	417,096 自動計算
		純工事費	19,251,500
		現場管理費	6,005,000
		工事原価	25,256,500
		一般管理費等	3,263,500 自動計算

- ⑤ 「再計算」をクリック。(赤く変色しています)

⇒⇒その結果金額が自動計算され、率と対象額も表示されます。

一般管理費補正(契約保証)	しない		
直接工事費	18,624,404	自動計算	
共通仮設費	2,627,096		
共通仮設费率額	2,022,000	自動計算	0.1224 18,468,836
イメージアップ経费率額	178,000	自動計算	0.0111 16,124,404
共通仮設費積上額	417,096		

地方部の場合はこれで終了ですが、イメージアップ経費を市 地補正する場合はさらに次の操作を行います。

- ⑥ 諸経費画面第3グループの「イメージアップ経費補正」の選択内容欄をクリック。
- ⑦ ▼をクリック。
- ⑧ プルダウンメニューから「市 地」を選択。(初期値は「しない」になっています)
⇒⇒率欄に0.0150 (+1.5%)と表示されます。
- ⑨ 「再計算」をクリック。(赤く変色しています) ⇒⇒金額表示部に反映されます。

4-10 緊急工事の経費率補正をする

緊急工事の場合は現場管理費を最大+2.0%補正することができます。

現場管理費を 2%補正してみます

諸経費画面（第3グループ部分）

単価一覧	設定	支給品額			
下位表詳細	設定	無償貸付機械等評価額			
	設定	事業損失防止施設費	150,000	自動計算	
再計算	設定	PC桁等購入費			
	設定	鋼桁、門扉等の工場原価			
印刷	設定	直工に含まれる処分費	500,000		
	設定	準備費に含まれる処分費			
自動計算に戻す	設定	その他諸経費計算除外金額	300,000		
	設定	共通仮設費補正		市街地	0.02
単価一括変更	設定	イメージアップ経費補正		市街地	0.015
	設定	現場管理費補正(工事場所)		市街地	0.015
	設定	現場管理費補正(工事期間)		固定率	0.02
	設定	現場管理費補正(冬期)		固定率	0.0004
	設定	一般管理費補正(前払金支出割合)		前払金支出割...	1.04
	設定	一般管理費補正(契約保証)		しない	

① 諸経費画面を開きます。

② 「現場管理費補正（工事期間）」の率欄に数値「0.02」を入力。

③ キーボードの【Enter】を押す。

⇒⇒選択内容欄の「しない」が「固定率」に変わり、【再計算】ボタンが赤く変色します。

④ 【再計算】ボタンをクリック。

⇒⇒金額表示部の現場管理費に率と金額が反映されます。

補足説明

(1) 2%の場合は率欄の入力は「2」ではなく「0.02」となります。

(2) 現場管理費の緊急工事による補正は2.0%ですが、冬期補正と重複する場合でも最高で2%です。冬期補正で仮に0.4%の補正がある場合は、緊急工事による補正は最大でも $2.0 - 0.4 = 1.6\%$ となります。

4-1-1 現場管理費の冬期補正をする

補正率は次の式で求めます。

$$\text{補正率 (\%)} = \text{冬期率} \times \text{補正係数}$$

3 地の現場で冬期率 60%の場合

参考例として以上の条件を設定してみます。

補正係数

積雪	地域の区分	補正係数
	1 地	1.80
	2 地	1.60
	3 地	1.40
	4 地	1.20

補正率は小数点以下 3 位を 捨 入して小数点以下 2 位止め

したがって補正係数は $0.60 \times 1.40 = 0.84$ (%)

この数字を諸経費画面の「現場管理費補正(冬期)」に入力します。

再計算 印刷 ③ 自動計算に戻す 単価一括変更	設定	PC桁等購入費				
	設定	鋼桁、門扉等の工場原価				
	設定	直工に含まれる処分費	500,000			
	設定	準備費に含まれる処分費				
	設定	その他諸経費計算除外金額	300,000			②
	設定	共通仮設費補正		市街地		0.02
	設定	イメージアップ経費補正		市街地		0.015
	設定	現場管理費補正(工事場所)		市街地		0.015
	設定	現場管理費補正(工事期間)		しない		
	設定	現場管理費補正(冬期)		固定率		0.0084
設定	一般管理費補正(前払金支出割合)		前払金支出割...		1.04	
設定	一般管理費補正(契約保証)		しない			

① 諸経費画面を開きます。

② 「現場管理費補正(冬期)」行の「率」欄に「0.0084」と入力し、【Enter】を押す。

⇒⇒同時に選択内容欄の「しない」が「固定率」に変わります。

③ 【再計算】ボタンをクリック。(赤く変色しています)

⇒⇒金額表示部の現場管理費に率と金額が反映されます。

補足説明

(1) 0.84%は「0.0084」と入力します。

(2) 冬期率=12月1日(11月1日)～3月31日までの工事期間 工期

4-12 一般管理費の前払い補正をする

前払い金の支出割合により、一般管理費の補正があります。

前払金支出割合が 5%を超え 15%以下の場合の操作をしてみます

諸経費画面（第3グループ部分）

再計算	設定	PC桁等購入費				
	設定	鋼桁、門扉等の工場原価				
印刷	設定	直工に含まれる処分費	500,000			
	設定	準備費に含まれる処分費				
	設定	その他諸経費計算除外金額	300,000			
自動計算	設定	共通仮設費補正		市街地	0.02	
	設定	イメージアップ経費補正		市街地	0.015	
単価一括変更	設定	現場管理費補正(工事場所)		市街地	0.015	
	設定	現場管理費補正(工事期間)		固定率	0.02	
	設定	現場管理費補正(冬期)		固定率	0.0084	
	設定	一般管理費補正(前払金支出割合)		前払金支出割合	1.0400	
	設定	一般管理費補正(契約保証)		しない		
				前払金支出割合0%から5%以下		
				前払金支出割合5%を超え15%以下		
				前払金支出割合15%を超え25%以下		
				前払金支出割合25%を超え35%以下		
				前払金支出割合35%を超え(補正しない)		
				自動計算	0.1234	
		直接工事費	16,624,404			
		共通仮設費	2,869,096			
		共通仮設費率額	2,032,000			16,468,636

- ① 諸経費画面を開きます。
- ② 「一般管理費補正（前払金支出割合）」の選択内容欄をクリック。
- ③ ▼をクリック。
- ④ プルダウンメニューから「前払金支出割合 5%を超え 15%以下」をクリック。
⇒⇒率欄に「1.0400」と率が表示されます。
- ⑤ 【再計算】をクリック。（赤く変色しています）
⇒⇒金額表示部の一般管理費に率と金額が反映されます。

4-13 一般管理費の契約保証による補正をする

契約保証には金銭的保証と役務的保証などがあり、契約保証がある場合には一般管理費を補正します。

金銭的保証が必要な場合

諸経費画面（第3グループ部分）

再計算	設定	PC桁等購入費				
E印刷	設定	鋼桁、門扉等の工場原価				
	設定	直工に含まれる処分費	500,000			
	設定	準備費に含まれる処分費				
	設定	その他諸経費計算除外金額	300,000			
自動計算						
単価一括変更	設定	共通仮設費補正		市街地	0.02	
	設定	イメージアップ経費補正		市街地	0.015	
	設定	現場管理費補正(工事場所)		市街地	0.015	
	設定	現場管理費補正(工事期間)		固定率	0.02	
	設定	現場管理費補正(冬期)		固定率	0.0084	
	設定	一般管理費補正(前払金支出割合)		前払金支出割...	1.0400	
	設定	一般管理費補正(契約保証)		金銭的保証を	0.0004	
				しない		
		直接工事費	16,624,404			
		共通仮設費	2,869,096			
		共通仮設費率額	2,032,000	自動計算	0.1234	16.

- ① 諸経費画面を開きます。
- ② 「一般管理費補正（契約保証）」の選択内容欄をクリック。
- ③ ▼をクリック。
- ④ プルダウンメニューから「金銭的保証を必要」をクリック。
⇒⇒率欄に「0.0004」（0.04％）と率が表示されます。
- ⑤ 【再計算】ボタンをクリック。（赤く変色しています）
⇒⇒金額表示部の一般管理費に率と金額が反映されます。

補足説明

- (1) 任意の率を入力することもできます。
- (2) 金銭的保証は 0.04％、役務的保証は 0.09％と設定してありますが、できれば発注者に確認してください。
- (3) 契約保証の金額を一般管理費の補正としてではなく、該当する金額を工事価格に加算する場合は→「[4-16 処分費や契約保証費を間接費率分に反映させない](#)」を参照してください

4-1 4 管工事で材料費（特殊製品費）を経費に反映させる

管工事では特殊製品費の 1/2 を現場管理費の対象額から 除する決まりがあります。直接工事の中で次のような手順で「内訳書」として計上すると、諸経費画面に自動的に 当額が表示され現場管理費に反映されます。

特殊製品額（管材料費）を 500,000 円計上する

直接工事費画面

名称	規格	単位	数量	単価	金額	記号
土木工事		式	1	770,000	770,000	
布設工事			1	493,600	493,600	

- ① 直接工事費画面で特殊製品費を計上する行の名称欄をクリック。(上図では 3 行目)
- ② ▼をクリック。
- ③ プルダウンメニューのスクロールバーにカーソルを当てて下へ下げる。(「選択可能な工種」が下に れているのでこの部分を表示させます)
⇒⇒プルダウンメニューの下部が表示されます。

- ④ スクロールバーを一番下まで下げて、下から 2 行目の「管材料」を選択してクリック。

⇒⇒設計書の当該行に「管材料」が背景色ブルーの「内訳書」として貼り付きます。

直接工事費 (¥1,263,600)							
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	記号
直接工事費	土工事		式	1	770,000	770,000	
	布設工事		式	1	493,600	493,600	
	管材料		式	1	0		

注意

- (1) プルダウンメニューから選択しないで直接名称を入力することもできますが、その場合は必ず「内訳書」にして名称は「管材料」または「管材料費」としてください。
- (2) 名称欄に上記以外の名称や文字（例えば「管材料 1 工区」など）を入力したり、「代価表」や「単価」として計上すると、諸経費画面に反映されません。
- (3) 文字を追加したい場合は名称欄ではなく、規格欄に入力してください。

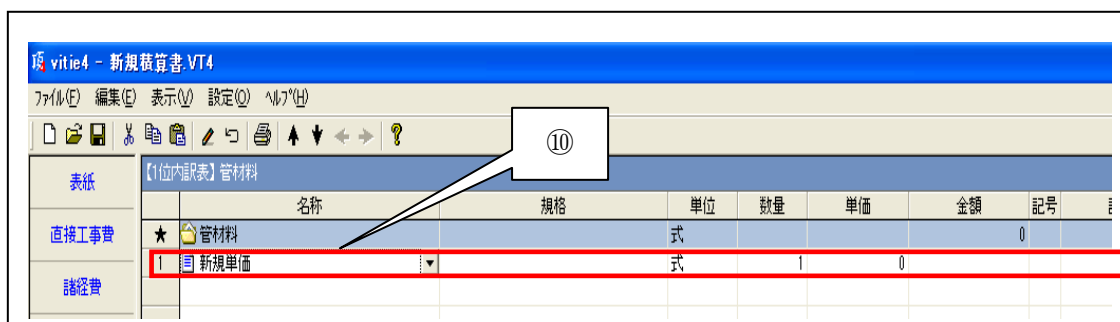
⑤ 今作成した「管材料」の行をクリック。（着目行にします）

⑥ 【下位表詳細】をクリック。（作成したのは内訳書なので直接単価を入力することはできません）

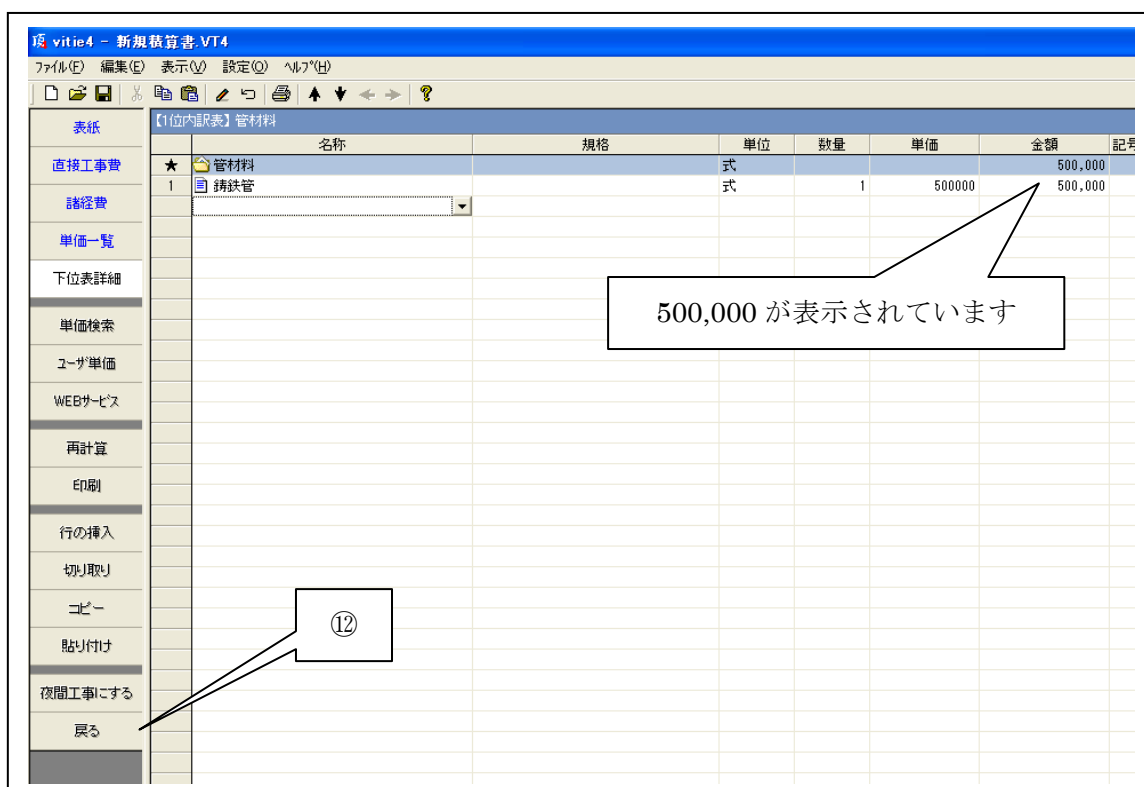
⇒⇒下位表である【1位内訳表】管材料 が開きます。

【1位内訳表】管材料	
	名称
★	管材料

- ⑦ 空白行の一行目の名称欄をクリック。
 - ⑧ ▼をクリック。
 - ⑨ プルダウンメニューから「単価」を選択してクリック。
- ⇒⇒「新規単価」として貼り付きます。



- ⑩ 名称・規格・単位・単価を入力します。(ここでは 鉄管としてみます)
 - ⑪ キーボードの【Enter】ボタンを押します。
- ⇒⇒金額が計算されて金額欄に表示されます。



- ⑫ 【戻る】ボタンをクリック。
- ⇒⇒直接工事費画面に戻ります。

直接工事費画面

vitie4 - 新規積算書.VT4						
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 設定(O) ヘルプ(H)						
表紙	直接工事費 (¥1,763,600)					
	名称	規格	単位	数量	単価	金額
直接工事費	土工事		式	1	770,000	770,000
	布設工事		式	1	493,600	493,600
諸経費	管材料		式	1	500,000	500,000

内訳「管材料」に「500,000」が表示されました。【諸経費】ボタンをクリックして諸経費画面を表示してみます。

諸経費画面

vitie4 - 新規積算書.VT4						
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 設定(O) ヘルプ(H)						
表紙	諸経費 (当初)					
	名称	金額	選択内容	率	対象額	
直接工事費	設定 経費年度		2007_04			
	設定 工事種類		管工事			
諸経費	設定 工事区分		本管工事			
単価一覧	設定 支給品類					
下位表詳細	設定 特殊製品合計額	500,000	自動計算			
	設定 重機運搬費		自動計算			
再計算	設定 現場管理費補正(冬期)		しない			

正しく計上されています。計上されていない場合は上から2行目の工事種類が「管工事」になっているかもう一度確認してください。また、選択内容欄が「自動計算」でなく「固定金額」になっていても計上されません。

補足説明

- 上の例では「【1位内訳表】管材料」の明細部分に500,000円を一つの単価として入力しましたが、「単価検索」画面から必要な材料を貼り付けていくこともできます。
- 特殊製品に含まれるのは次のようなものです。
コンクリートブロック、コンクリート製 及び鋼製 、矢 、管及び 類、ポンプ、モーター、発 機、コンプレッサー、発 盤、変圧 、その他（完成品として設置するもの）

4-15 間接費を諸経費として一つにまとめる（民間工事など）

共通仮設費や現場管理費及び一般管理費などの間接費を「諸経費」として一つにまとめることができます。民間工事で見積書として作成するときに便利です。

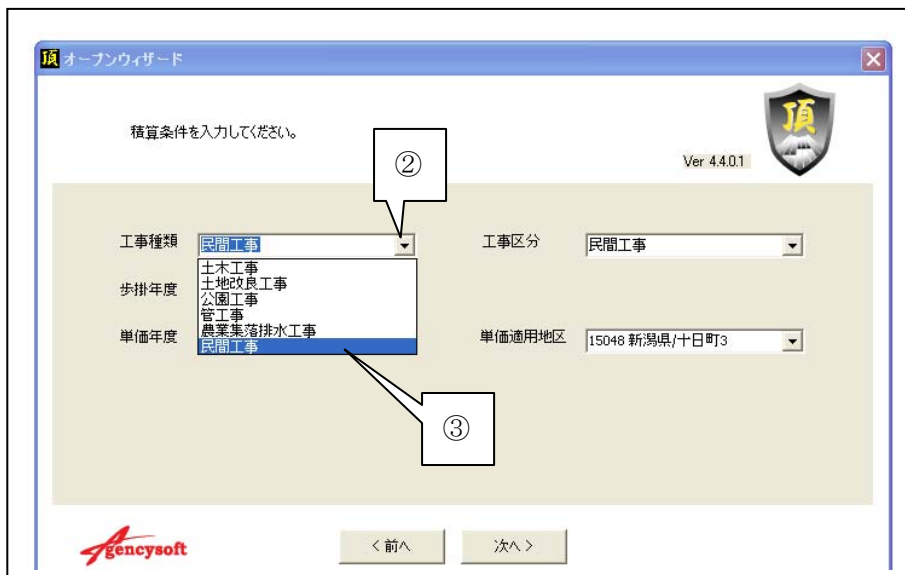
経費を諸経費一つにして直接工事の 20%を計上する

● オープンウィザード画面で工事種類を「民間工事」に設定する

- ① オープンウィザード画面を開きます
- ② 「工事種類」の▼印をクリック。（初期設定では「土木工事」になっています）
- ③ プルダウンメニューから「民間工事」を選択してクリック。

⇒⇒工事種類と工事区分が「民間工事」になります。

オープンウィザード画面



★ オープンウィザード画面でこの設定をすると、諸経費画面も同様の設定になります。

諸経費画面 部分

頂 vitie4 - 無題				
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 設定(O) ヘルプ(H)				
[Icons]				
表紙	諸経費 (当初)			
直接工事費	設定	経費年度		2007_04
諸経費	設定	工事種類		民間工事
	設定	工事区分		民間工事
単価一覧		値引前直接工事費		

● 諸経費画面で「民間工事」に設定する

オープンウィザードで設定しなかった場合は、④からの手順で行います。

④ 【諸経費】 ボタンで諸経費画面を開きます。

⑤ 「工事種類」が「民間工事」に設定します。

★もし民間工事になっていない場合は選択内容欄をクリックして▼印をさらにクリックし、プルダウンメニューから「民間工事」を選択します。

諸経費画面

表紙	諸経費 (当初)				対象額
直接工事費	設定	経費年度	金額	選択内容	
	設定	2007_04		民間工事	
諸経費	設定	工事種類		民間工事	
	設定	工事区分		民間工事	
単価一覧		値引前直接工事費	1,763,600		
下位表詳細	設定	材料費の値引			
	設定	その他の値引			
		直接工事費	1,763,600	自動計算	
		諸経費	176,360	固定率	0.2
		端数切捨			
		値引前工事価格	1,939,960		
	設定	工事価格の値引		固定金額	
		工事価格	1,939,960	自動計算	
		消費税	96,998		0.05
		総工事価格	2,036,958	自動計算	1,939,960
自動計算に戻す					
単価一括変更					

⑥ 諸経費行の率欄に「0.2」と入力し【再計算】ボタンを押します。(初期値は「自動計算」になっています)

⇒⇒「自動計算」が「固定率」に変わって【再計算】ボタンが赤く変色します。

⑦ 【再計算】ボタンをクリック。

⇒⇒金額表示部に再計算された金額が表示されます。

補足説明

(1) 民間工事の選択はオープンウィザード画面だけでなく表紙画面や諸経費画面でも可能です。積上げ積算終了後はもちろん、いつでも諸経費画面で民間工事を選択することができます。

4-16 処分費や契約保証費を間接費率分に反映させない

処分費や契約保証費をその額にかかわらず、全て間接費の対象額に算入しない場合は諸経費画面で対応します。

直接工事費の処分費 200,000 円を間接費対象額に含めない。

諸経費画面（土木工事）

工事原価	2,712,600			
一般管理費等	387,400	自動計算	0.1438	2,712,600 調整
処分費		固定金額		
契約保証費		固定金額		
工事価格	3,100,000	自動計算		
消費税	155,000		0.05	3,100,000
総工事価格	3,255,000	自動計算		

上図のように一般管理費行の下に「処分費」と「契約保証費」の 2 行があります。該当する金額をここに直接入力します。

- ① 諸経費画面を開きます。
- ② 金額表示部の処分費行の金額欄に「200000」と入力。
- ③ キーボードの【Enter】を押す。⇒⇒【再計算】ボタンが赤く変色。
- ④ 【再計算】ボタンをクリック。⇒⇒金額が再計算されます。

内訳	共通仮設費積上額	②「200000」を入力		
	純工事費	983,600		
	現場管理費	729,000	自動計算	
	工事原価	2,712,600		
	一般管理費等	387,400	自動計算	
	処分費	200,000	固定金額	
	契約保証費		固定金額	
	工事価格	3,100,000	自動計算	
	消費税	155,000		
	総工事価格	3,255,000	自動計算	

補足説明

- (1) この場合の処分費は直接工事には計上しません。直接工事にも計上すると二重計上になります。
- (2) 契約保証費もすべて同様の手順です。

4-17 自動計算された金額を変更する

諸経費画面(土木工事)

頂 vitie4 - 汚水枝線工事.VT4					
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 設定(O) ヘルプ(H)					
表紙	諸経費 (当初)				
	設定	名称	金額	選択内容	対象額
直接工事費	設定	経費年度		2007_04	
諸経費	設定	工事種類		土木工事	
	設定	工事区分		道路維持工事	
代価一覧	設定	③			
単価一覧	設定	機械等評価額			
下位表詳細	設定	事業損失防止施設費		自動計算	
	設定	PC桁等購入費			
	設定	鋼桁、門扉等の工場原価			
	設定	直工に含まれる処分費			
再計算	設定	準備費に含まれる処分費			
印刷	設定	その他諸経費計算除外金額			
自動計算に戻す	設定	共通仮設費補正		しない	
	設定	イメージアップ経費補正		しない	
単価一括変更	設定	現場管理費補正(工事場所)		しない	
	設定	現場管理費補正(工事期間)		しない	
	設定	現場管理費補正(冬期)		しない	
	設定	一般管理費補正(前払金支出割合)		しない	
	設定	一般管理費補正(契約保証)		しない	
		直接工事費	4,383,400	自動計算	
		共通仮設費	728,000		
		共通仮設費率額	728,000	自動計算	0.1661 4,383,400
		イメージアップ経費率額		計算しない	
内訳		共通仮設費積上額			
		純工事費	5,111,400		
		現場管理費	1,382,000	自動計算	0.3879 5,111,400
		工事原価	7,093,400		
		① 一般管理費等	986,600	自動計算	0.1398 7,093,400
		処分費		固定金額	
		契約保証費		固定金額	
		工事価格	8,080,000	自動計算	
		消費税	404,000		0.05 8,080,000
		総工事価格	8,484,000	自動計算	

諸経費画面で選択内容欄に「自動計算」と表示されている行の金額は、ユーザーが入力しなくても設定された条件により自動計算されて金額が表示されます。

金額を調整するなどの理由でこの部分の金額を変更したい場合は、金額欄に直接任意の数値を入力することができます。

工事価格を8万円にするために、一般管理費を8万円下げる。

- ① 一般管理費金額 986,600 の欄に直接「906600」と入力。
- ② キーボードの【Enter】ボタンを押す。⇒⇒「自動計算」が「固定金額」に変わり、【再計算】ボタンが赤く変色します。
- ③ 【再計算】ボタンをクリック。⇒⇒金額が再計算されます。

諸経費画面（修正後）

表紙		諸経費 (当初)				
		名称	金額	選択内容	率	対象額
直接工事費	設定	経費年度		2007_04		
	設定	工事種類		土木工事		
諸経費	設定	工事区分		道路維持工事		
代価一覧	設定	支給品額				
単価一覧	設定	無償貸付料				
下位表詳細	設定	事業損失防止施設費		自動計算		
	設定	PC桁等購入費				
	設定	鋼桁、門扉等				
再計算	設定	直工に属する材料費				
	設定	現場に保管される処分費				
印刷	設定	その他諸経費計算除外金額				
自動計算に戻す	設定	共通仮設費補正		しない		
	設定	イメージアップ経費補正		しない		
単価一括変更	設定	現場管理費補正(工事場所)		しない		
	設定	現場管理費補正(工事期間)		しない		
	設定	現場管理費補正(冬期)		しない		
	設定	一般管理費補正(前払金支出割合)		しない		
	設定	一般管理費補正(契約保証)		しない		
		直接工事費	4,383,400	自動計算		
			728,000			
			728,000	自動計算	0.1661	4,383,400
		率額		計算しない		
	内訳	共通仮設費				
		純工事費	5,111,400			
		現場管理費	1,982,000	自動計算	0.3879	5,111,400
		工事原価	7,093,400			
		一般管理費等	906,600	固定金額	906600	
		処分費		固定金額		
		契約保証費		固定金額		
		工事価格	8,000,000	自動計算		
		消費税	400,000		0.05	8,000,000
		総工事価格	8,400,000	自動計算		

変更した金額を元の自動計算に戻すには、ボタン部の【自動計算に戻す】をクリックします。

4-18 丸めの単位を変更する

土木工事では共通仮設費率額と現場管理費は初期設定では千円丸め、工事価格は万円止めに設定してあります。管工事は丸めの設定をしていないので、工事価格も 1 円単位で表示されます。

土木工事を例にとって丸めの設定を任意に変更する手順を説明します。

共通仮設費率額と現場管理費は丸めなしにして、工事価格を 100 円丸めにする

諸経費画面（初期設定通り）

名称	金額	選択内容	率	対象額
経費年度		2007_04		
工事種類		土木工事		
工事区分		道路維持工事		
支給品額				
無償貸付機械等評価額				
事業損失防止施設費		自動計算		
PC桁等購入費				
綱桁、門扉等の工場原価				
直工に含まれる処分費				
準備費に含まれる処分費				
その他諸経費計算除外金額				
共通仮設費補正				
イメージアップ経費補正				
現場管理費補正(工事場所)				
現場管理費補正(工事期間)				
現場管理費補正(冬期)				
一般管理費補正(前払金支出割合)				
一般管理費補正(契約保証)				
直接工事費	4,383,400	自動計算		
共通仮設費	728,000			
共通仮設費率額	728,000	自動計算	0.1661	4,383,400
イメージアップ経費率額		計算しない		
共通仮設費積上額				
純工事費	5,111,400			
現場管理費	1,982,000			
工事原価	7,093,400			
一般管理費等	986,600	自動計算	0.1398	7,093,400
処分費		固定金額		
契約保証費		固定金額		
工事価格	8,080,000	自動計算		
消費税	404,000		0.05	8,080,000
総工事価格	8,484,000	自動計算		

順次修正していきます。

- ① 諸経費画面を開きます。
- ② 共通仮設費率額の設定欄（自動計算と表示してあるところ）をクリック。
- ③ ▼をクリック。
- ④ プルダウンメニューから「自動計算（丸めなし）」を選択してクリック。

	直接工事費	1,849,070	自動計算	
	共通仮設費	249,561		
	共通仮設費率額	231,000	自動計算	0.1251
内訳	イメージアップ経費率額		自動計算	
	共通仮設費積上額	18,561	自動計算(10万円丸め)	
	純工事費	2,098,631	自動計算(1万円丸め)	
	現場管理費	771,000	自動計算(千円丸め)	78
	工事原価	2,098,631	自動計算(百円丸め)	
	一般管理費等	410,369	自動計算(丸めなし)	
	処分費		計算しない	
	契約保証費		固定率	38
	工事価格	3,280,000	固定金額	
	消費税	164,000	固定金額	0.05
	総工事価格	3,444,000	自動計算	

⇒⇒金額が消えて【再計算】ボタンが赤く変色します。

表紙	名称	金額	選択内容	率	対象額
直接工事費	設定 経費年度		2007_04		
諸経費	設定 工事種類		土木工事		
単価一覧	設定 工事区分				
下位表詳細	設定 支給品額				
再計算	設定 無償提供				
印刷	設定 作業損失防止				
	設定 P.C桁等購入費				
	設定 鋼桁、門扉等の工場原価				
	設定 直工に含まれる処分費				
	設定 準備費に含まれる処分費				
	設定 その他諸経費計算除外金額				
自動	設定		しない		
単価一括変更	設定		しない		
	設定 現場管理費補正(工事)		しない		
	設定 現場管理費補正(工事)		しない		
	設定 現場管理費補正(冬期)		しない		
	設定 一般管理費補正(前払金支出割合)		しない		
	設定 一般管理費補正(契約保証)		しない		
	直接工事費	1,849,070	自動計算		
	共通仮設費	249,561			
	共通仮設費率額		自動計算(...)		
	イメージアップ経費率額		計算しない		
内訳	共通仮設費積上額	18,561			

- ⑤ 【再計算】ボタンをクリック。

⇒⇒金額が再計算されます。

名称	金額	選択内容	率	対象額
諸経費 (当初)				
設定 経費年度		2007_04		
設定 工事種類		土木工事		
設定 工事区分		河川工事		
設定 支給品額				
設定 無償貸付機械等評価額				
設定 事業損失防止施設費		自動計算		
設定 P.C.桁等購入費				
設定 鋼桁、門扉等の工場原価				
設定 直工に含まれる処分費				
設定 準備費に含まれる処分費				
設定 その他諸経費計算除外金額				
設定 共通仮設費補正		しない		
設定 イメージアップ経費補正				
設定 現場管理費補正(工事場所)				
設定 現場管理費補正(工事期間)				
設定 現場管理費補正(冬期)				
設定 一般管理費補正(前払金支出割合)				
設定 一般管理費補正(契約保証)				
直接工事費	1,849,070	自動計算		
共通仮設費	249,879			
共通仮設費率額	231,318	自動計算(丸めなし)	51	1,849,070
イメージアップ経費率額		計算しない		
内訳 共通仮設費積上額	18,561			
純工事費	2,098,949			
現場管理費	771,000	自動計算	0.3678	2,098,949
工事原価	2,869,949			
一般管理費等	410,051	自動計算		2,869,949
処分費		固定金額		
契約保証費		固定金額		
工事価格	3,280,000	自動計算		
消費税	164,000		0.05	3,280,000
総工事価格	3,444,000	自動計算		

⑥ 現場管理費も同様にして「自動計算 (丸めなし)」を選択します。

⑦ 工事価格は「自動計算 (円丸め)」を選択します。

⑧ 【再計算】ボタンをクリック。(赤く変色しています)

⇒⇒再計算された金額が表示されます。

補足説明

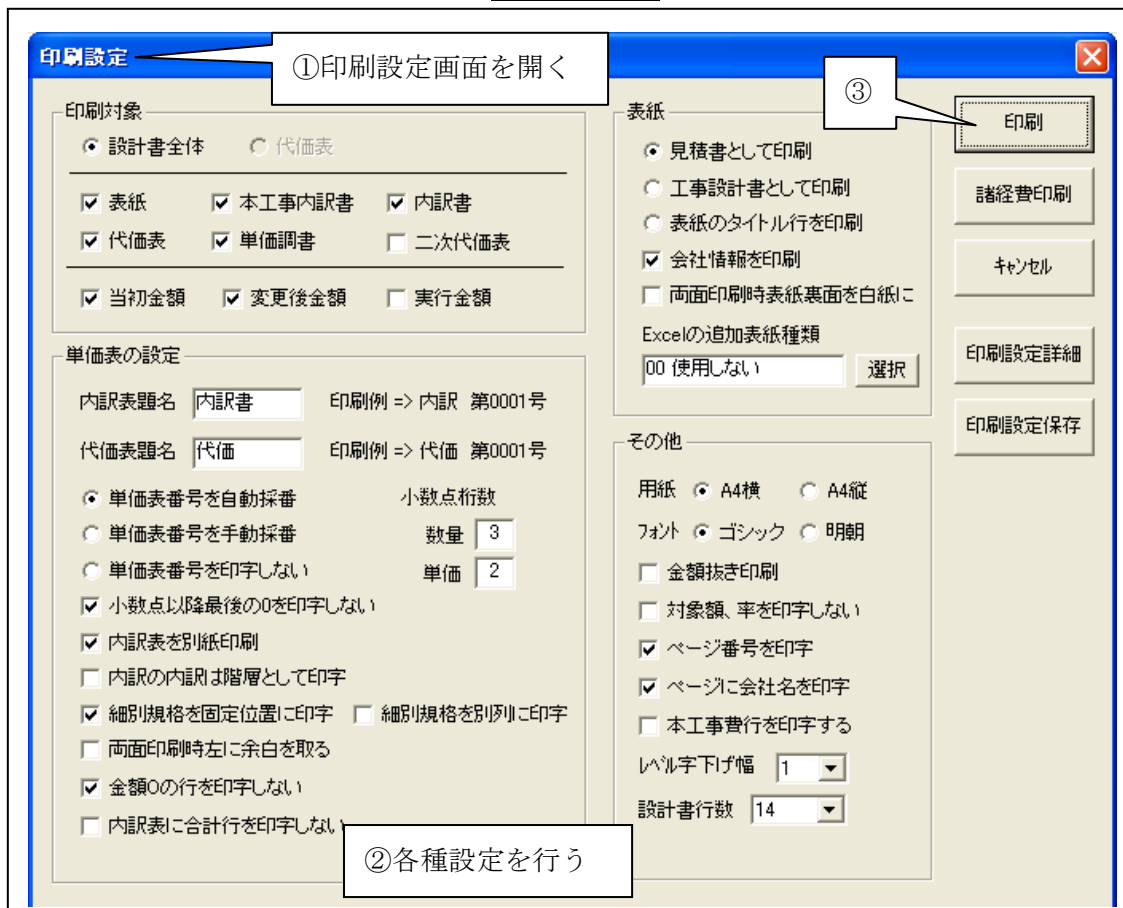
(1) 工事金額が小さいと経費がマイナスになることがあります。これは丸めの初期設定が千円と万円になっているからです。丸めの単位を小さくするか、丸めなしにすると消されます。

5 印刷

5-1 印刷画面の説明と印刷方法

印刷画面は設計書作成のどの画面でも左側ボタン部の【印刷】ボタンをクリックすれば開くことができます。

印刷設定画面



印刷設定画面は上図のように「印刷対象」「単価表の設定」「表紙」「その他」の4つのグループがあり、右側にコマンドボタンが並んでいます。

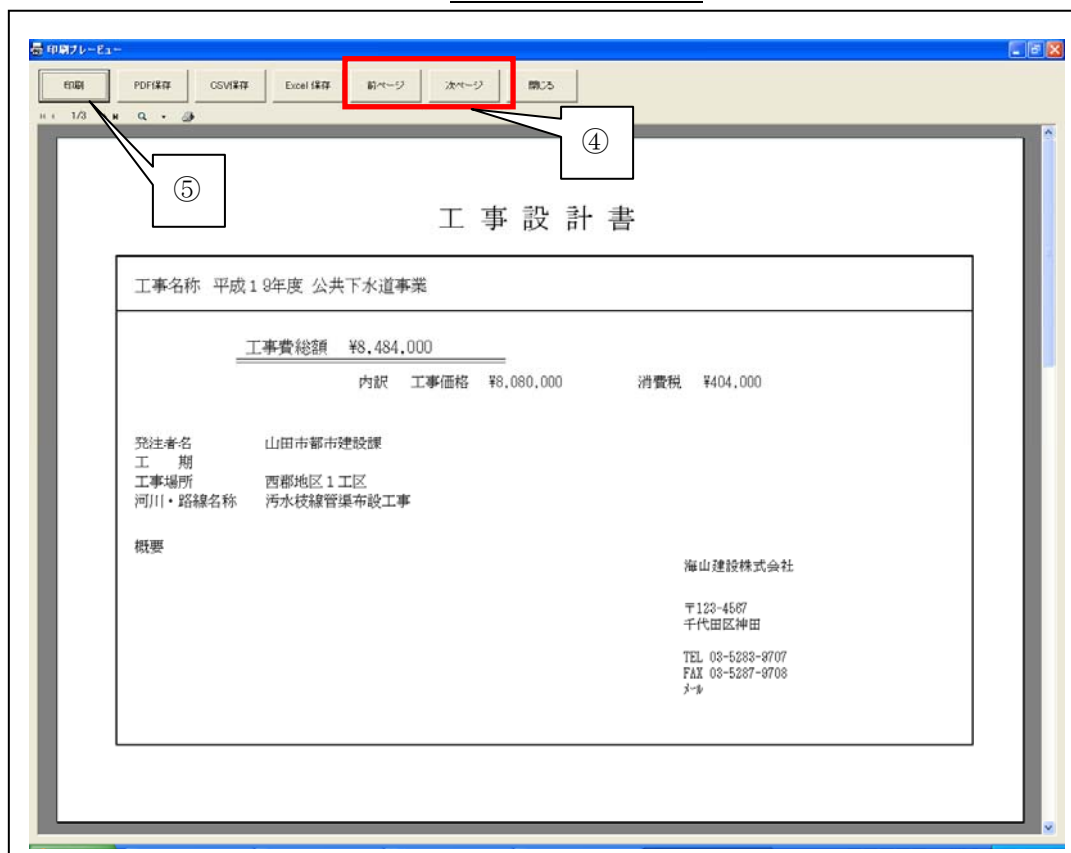
設計書を印刷するには次のような手順で行います。

- ① 【印刷】ボタンをクリックして印刷設定画面を開く。
- ② 印刷設定画面で各種設定を行う。
- ③ 印刷設定画面右上の【印刷】ボタンをクリック。

⇒⇒プレビュー画面が開きます。

上図の設定では印刷対象の「表紙」にチェックが付いているので、プレビューの最初の画面は表紙になります。

印刷プレビュー画面



④ 【前ページ】【次ページ】ボタンで内容を確認

⑤ よければ【印刷】ボタンをクリック。

⇒⇒印刷画面が開きます。

印刷画面



⑥ 設定内容を確認してよければ【印刷】ボタンをクリック。

⇒⇒印刷が始まります。

補足説明

- (1) 印刷画面はお使いのパソコンやプリンターにより違う場合もあります。
- (2) プレビュー画面で【閉じる】ボタンをクリックすると、印刷設定画面を呼び出したときの画面に戻ります。(諸経費画面で【印刷】ボタンをクリックしたときは諸経費画面に戻ります)

5-2 印刷範囲を指定する

内訳書だけ印刷して代価表を印刷しない、など設計書の印刷範囲は「印刷対象」で設定します。印刷しない場合はそれぞれのチェックをはずします。

印刷設定画面（印刷対象部分）

- 設計書全体：設計書全体を対象にします。
- 代価表：現在開いている直接工事の画面（印刷ボタンを押したときの画面）だけを単で印刷します。代価表となっていますが、内訳書でも印刷できます。

- 表紙：表紙画面を印刷します。
- 本工事内訳書：直接工事費から共通仮設費・諸経費・工事価格までの一連です。
- 内訳書：内訳書として作成したものです。
- 代価表：代価として作成したものです。内訳書までの印刷でよければ代価表以降のチェックをはずします。
- 単価調書：単価一覧です。項目別の数量などを確認することができます。
- 二次代価表：機械の運転単価表など代価の中で使われている代価です。

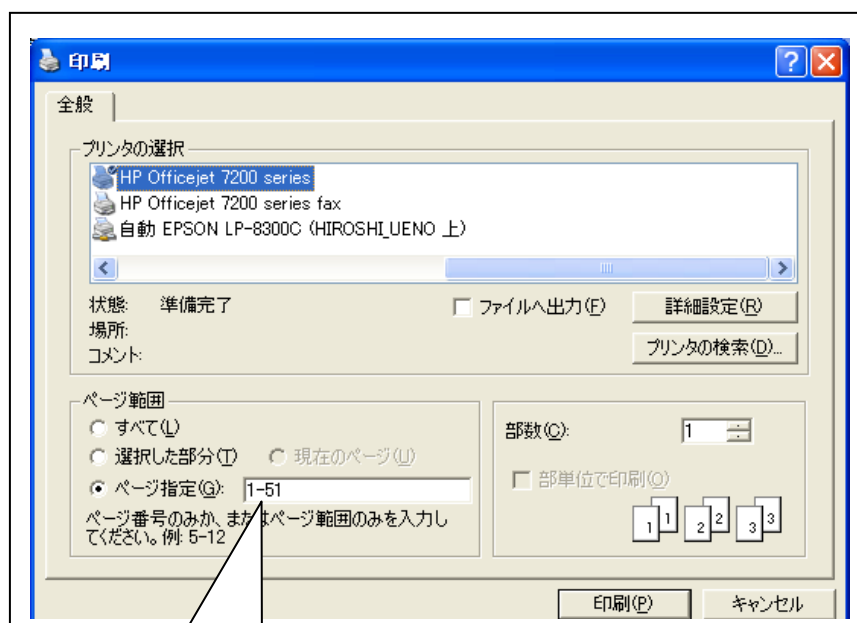
- 当初金額：変更や実行を積算する前の金額のことです。通常の入前の積算は全てこれに該当します。ここにチェックが無いとプレビュー画面で「このコレクションには項目がありません」とエラーメッセージが出てプレビュー画面が表示されません。
- 変更後金額：設計変更に利用したときに使います。「当初金額」と「変更後金額」の両方にチェックをすると、上下2段で印刷することができます。「変更後金額」だけにチェックをすると、変更後金額だけを印刷します。
- 実行金額：実行金額を作成したときに使います。使い方は変更後金額と同じです。

補足説明（設計書の途中印刷）

(1) 設計書を途中から印刷するにはプリンターの設定で行います。印刷プレビュー画面で左上の【印刷】ボタンをクリックすると、印刷画面が開きます。

「ページ範囲」の「ページ指定」に任意の数字を入力します。例えば 12 ページから 15 ページを印刷する場合は「12-15」と入力します。

印刷画面



ここに「12-15」と入力します

ただし、お使いのパソコンやプリンターによって画面が異なる場合もあります。

(2) 画面右側ボタン部の【諸経費印刷】で諸経費の設定状況を印刷することができます。

(3) 【印刷設定保存】ボタンは設定内容を記憶・保存します。

5-3 代価表（単価表）を設定する

内訳書や代価表番号を自分で付けるなど、代価表などを設定するグループです。

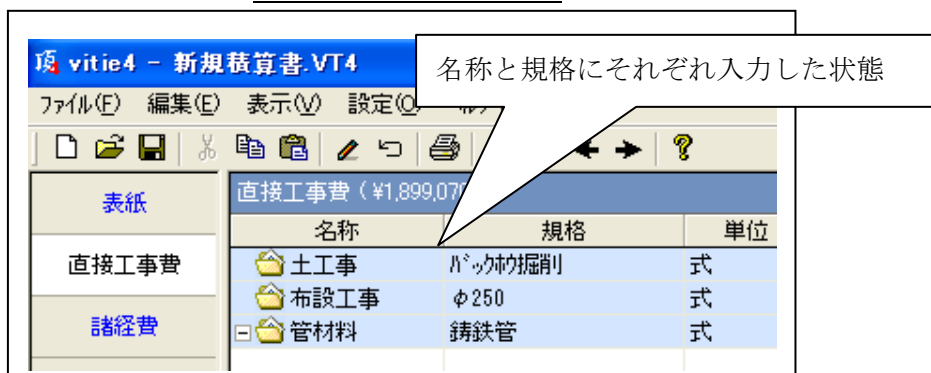
印刷設定画面（単価表の設定部分）

- 内訳表題名：現在の設定は「内訳書〇〇号」となっていますが、「明細書〇〇号」や「内訳表〇〇号」などと、名称を変更したいときにこのボックスに名づけたい名称を入力します。
- 代価表題名：内訳表題名と同じで、「代価表」を「単価表」などに変更することができます。
- 単価表番号を自動 番：内訳書〇〇号などの内訳書番号を自動的に 番する機能です。次項の「手動 番」をするとき以外は必ずチェックをつけます。
- 単価表番号を手動 番：表番号を自分で付けたい場合にチェックを入れます。詳細は→「[5-4 単価表番号を任意に付ける](#)」を参照してください。
- 単価表番号を印字しない：内訳書〇〇号などの内訳書番号を印刷したくないときにチェックをつけます。
- 小数点以降最後の0を印字しない：小数点以下の0を印刷するかどうかを決めます。

(小数点桁数を 3 桁とした場合)	1.100 と入力したときの印字状況
チェックをつけた場合	1.1
チェックをつけない場合	1.100

- 内訳書を別紙印刷：通常はチェックをつけておきます。内訳書の明細（下位表）を階層のように同じ画面内で印刷させるときはチェックをはずします。
- 内訳書の内訳は階層として印字：内訳書の中に作った内訳書は別紙印刷ではなく、その明細を階層として印字させる場合にチェックします。
- 細別規格を固定位置に印字：初期設定ではここにチェックが付いています。
- 細別規格を別列に印字：下図を参照してください。

直接工事費画面（部分）



印刷プレビュー画面（部分）（細別規格を固定位置に印字にチェックがある場合）

費目	工種	施工名称
土工事	バックホウ掘削	
布設工事	φ250	
管材料	鑄鉄管	
【 直接工事費計 】		

印刷プレビュー画面（部分）（細別規格を別列に印字にチェックがある場合）

費目	工種	施工名称
土工事		バックホウ掘削
布設工事		φ250
管材料		鑄鉄管

* 費目・工種と施工名称の間に縦線が入ります。

- 両面印刷時左に 白を取る：両面印刷するときにチェックを入れます。
- 金額 0 の行を印字しない：ここにチェックをつけると、数量や単価が 0 のために金

額が0になる行は印字しません。逆にチェックをはずして印刷させると、単価や数量が0のものをを見つけるチェック印刷ができます。

- 内訳表に合計行を印字しない：下図を参照してください。

内訳書プレビュー画面（チェックが無い場合）

内訳書 第0001号

掘削(土砂)

工種	施工名称	数量	単位	単価	金額	摘要
バックホウ掘削機	掘削(土砂)	1	m ³	173	173	
バックホウ掘削機	掘削(土砂)	1	m ³	251	251	
【合計】		1	m ³		424	

内訳書プレビュー画面（チェックを付けた場合）

内訳書 第0001号

掘削(土砂)

工種	施工名称	数量	単位	単価	金額	摘要
バックホウ掘削機	掘削(土砂)	1	m ³	173	173	
バックホウ掘削機	掘削(土砂)	1	m ³	251	251	

5-4 単価表番号を任意に付ける

内訳書や代価表の番号は一般的には「内訳書 001 号」等と自動的に番号が振られます。作成途中で追加や削除を行っても、最終的な順序を見直して新たな 番を行います。

この番号順序にかかわらず任意に付けることができます。

本工事費内訳書プレビュー画面(部分)

費目	工種	施工名称	数量	単位	単価	金額	摘要
土工事		ハック材掘削	1.000	式		855,470	内訳書 第0001号
布設工事		φ250	1.000	式		493,600	内訳書 第0002号
管材料		鋼鉄管	1.000	式		550,000	内訳書 第0003号

【直接工事費計】

「単価表番号を自動 番」にチェックが付いた状態では、 要欄の内訳書番号は上図のように「内訳書 0001 号」と順番に上から番号が 番されています。

1 行目の「土工事」の内訳書番号を「第 3 号内訳書」としてみます。

- ① 直接工事費画面を開きます。
- ② 1 行目「土工事」行の 要欄に「第 3 号内訳書」と入力して【Enter】を押します。

名称	規格	単位	数量	単価	金額	記号	式	摘要
土工事	ハック材掘削	式	1	855,470	855,470			第3号内訳書
布設工事	φ250	式	1	493,600	493,600			
管材料	鋼鉄管	式	1	550,000	550,000			

- ③ 【印刷】 ボタンをクリックして、印刷設定画面を開きます。

印刷設定画面

印刷設定

印刷対象
 設計書全体 代価表

表紙 本工事内訳書 内訳書
 代価表 単価調書 二次代価表

当初金額 変更後金額 実行金額

単価表の設定
 内訳表題名 印刷例 => 内訳 第0001号
 代価表題名 印刷例 => 代価 第0001号

単価表番号を自動採番 小数点桁数
 単価表番号を手動採番 数量
 単価表番号を印字しない 単価
 小数点以降最後の0を印字しない

内訳表を別紙印刷 **④**
 内訳の内訳は階層として印字
 細別規格を固定位置に印字 細別規格を別紙に印字
 両面印刷時左に余白を取る
 金額0の行を印字しない
 内訳表に合計行を印字しない

表紙
 見積書として印刷
 工事設計書として印刷
 表紙のタイトル行を印刷
 会社情報を印刷
 両面印刷時表紙表面を白紙に
 Excelの追加表紙種類

その他
 用紙 A4横 A4縦
 フォント ゴシック 明朝
 金額抜き印刷
 対象額、率を印字しない
 ページ番号を印字
 ページに会社名を印字
 本工事費行を印字する
 ペル字下げ幅
 設計書行数

④ 「単価表設定」グループの「単価表を手動採番」にチェックを付けます。

これで完了です。プレビュー画面で確認してみます。

本工事費内訳書プレビュー画面（部分）

印刷プレビュー

1/6

自動採番の番号が消えて「第3号内訳書」と表示されています

本工事費内訳

費目	工種	施工名称	数量	単位	単価	金額	
土工事	バックホ		1.000	式		855,470	第3号内訳書
布設工事	φ250		1.000	式		493,600	
管材料	鋼鉄管		1.000	式		550,000	

5-5 表紙を設定する

印刷設定画面（表紙部分）

表紙

見積書として印刷

工事設計書として印刷

表紙のタイトル行を印刷

会社情報を印刷

両面印刷時表紙裏面を白紙に

Excelの追加表紙種類

00 使用しない 選択

- 見積書として印刷：表紙の表題を「見積書」とするときにチェックを付けます。
- 工事設計書として印刷：表紙の表題を「工事設計書」とするときにチェックを付けます。

表紙プレビュー画面

印刷プレビュー

印刷 PDF保存 CSV保存 Excel保存 前ページ

「見積書」または「工事設計書」を選択します

御見積書

工事名称 演習問題用モデル工事

工事費総額 ¥19,193,820

内訳 工事価格 ¥18,278,828 消費税 ¥913,991

- 表紙のタイトル行を印刷：上図の「見積書」の部分に任意の名称をつけるときにチェックを入れます。詳細は→「[5-6 表紙に任意の表題を付ける](#)」を参照してください。
- 会社情報を印刷：表紙画面で入力した「会社情報」を印字します。
- 両面印刷時表紙 面を白紙に：両面印刷する場合にチェックします。
- Excel の追加表紙種類：表紙のデザインを用意されたパターンから選択することができます。参考として「02 水道用見積書 (1)」を選択した場合のプレビュー画面を次ページに示します。

「02 水道用見積書 (1)」を選択した場合のプレビュー画面

表紙選択(表紙見積書はExcelのみ有効)

02 水道用見積書(1) OK キャンセル

御見積書

山田 太郎 様

見積年月日 平成18年10月20日

見積番号 原 133-1212 号

見積有効期限 見積日より 日数

〒123-4567

〇〇県××市△△町1-2-3

株式会社 川上水道

代表取締役 川上 一郎

税込見積金額： ¥5,250,000

御見積金額： ¥5,000,000 消費税額 ¥250,000

件名： 山田太郎宅水道引込工事

場所： 〇〇県××市△△町1-2-3

期間： 年 月 日より 年 月 日

内容：

概要：

備考：

上記の通り御見積申し上げます。



詳細は→「[5-7 表紙のデザインを変える](#)」を参照してください。

5-6 表紙に任意の表題を付ける

表紙に表題は「工事設計書」と「見積書」はあらかじめ用意されているので、印刷設定画面の「表紙」グループでどちらかを選択することができます。(→「[5-5 表紙を設定する](#)」参照)

上記以外にも任意の表題にすることができます。

表紙の表題を「 算見積書」にする。

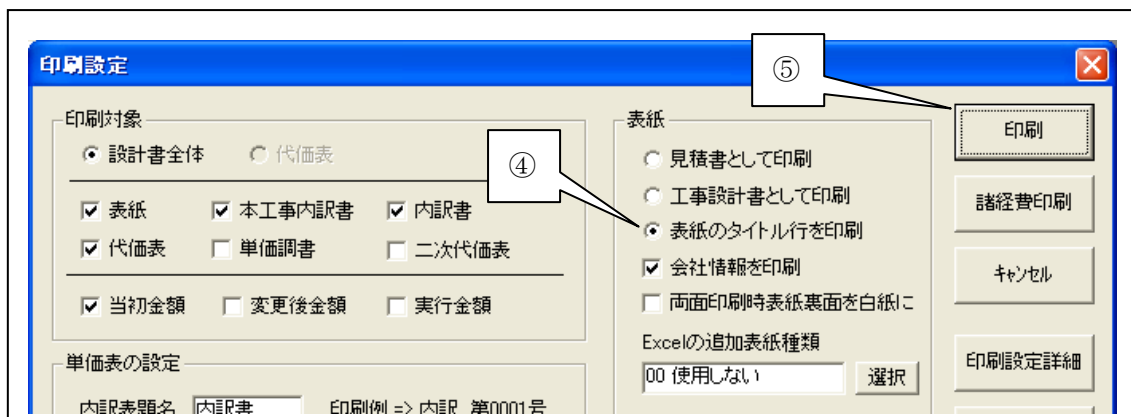
- ① 設計書の表紙画面を開きます。
- ② 「表紙タイトル」行に「 算見積書」と入力して【Enter】を押す。(初期設定では「工事設計書」になっていますので上書きします)

表紙画面(部分)



- ③ 表紙画面の【印刷】ボタンをクリック。
⇒⇒印刷設定画面が開きます。

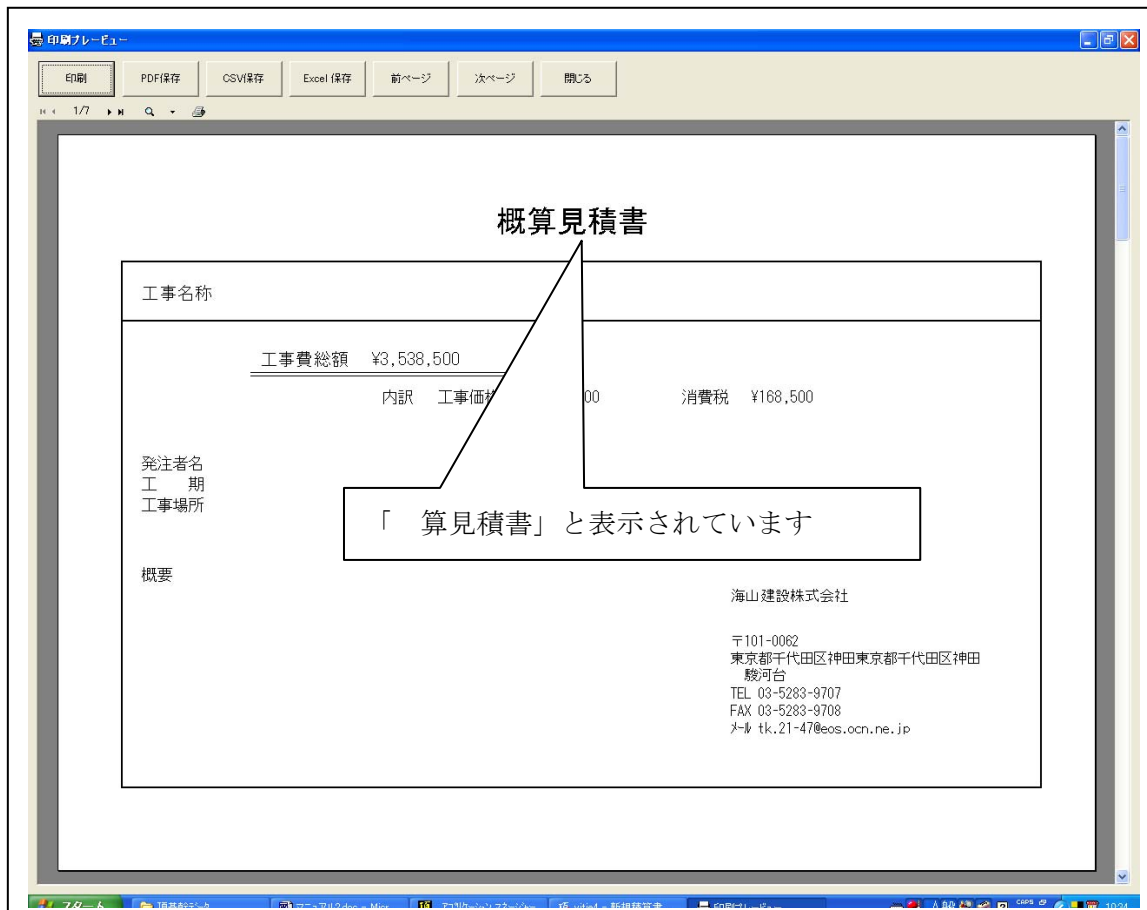
印刷設定画面(部分)



- ④ 「表紙にタイトル行を印刷」にチェックを入れる。

- ⑤ 印刷設定画面の【印刷】ボタンをクリック。
⇒⇒印刷プレビュー画面で確認してみます。

印刷プレビュー画面（表紙）

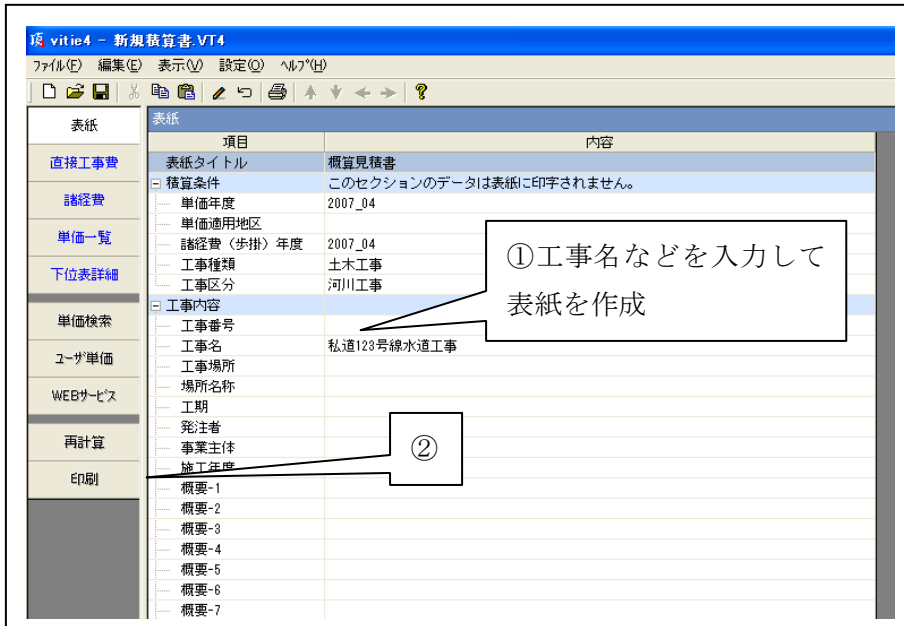


5-7 表紙のデザインを変える

Excel シートを利用して表紙のデザインが何種類か用意されています。それらを利用する手順を説明します。

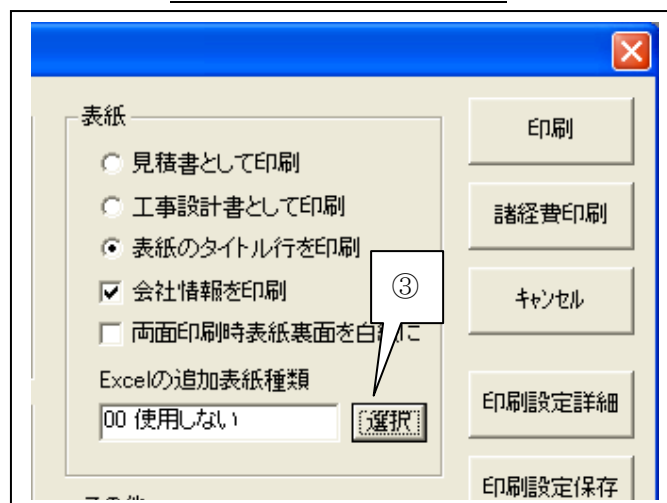
- ① 表紙を作成します。(タイトルは 算見積書としました)
- ② 【印刷】 ボタンをクリック。

表紙画面 (部分)



⇒⇒印刷設定画面が開きます。

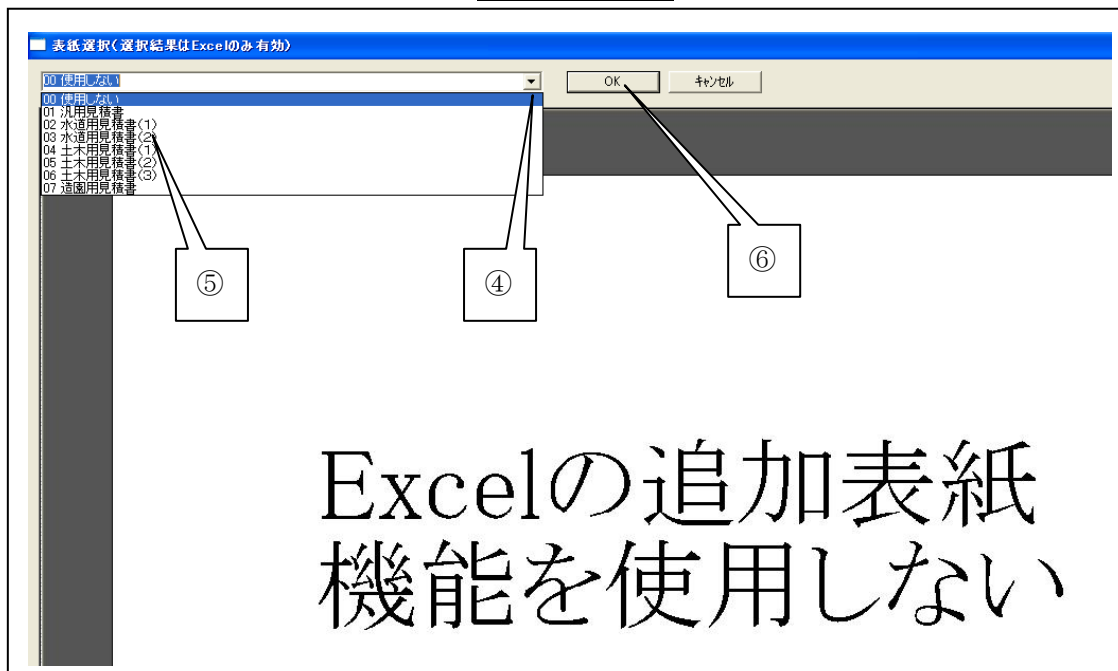
印刷設定画面 (表紙部分)



- ③ 「Excel の追加表紙種類」の【選択】 ボタンをクリック。

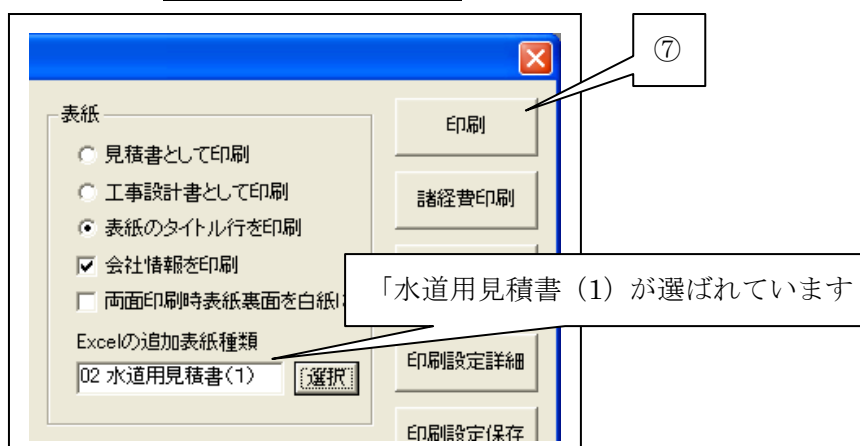
⇒⇒プレビュー画面が開きます。

プレビュー画面



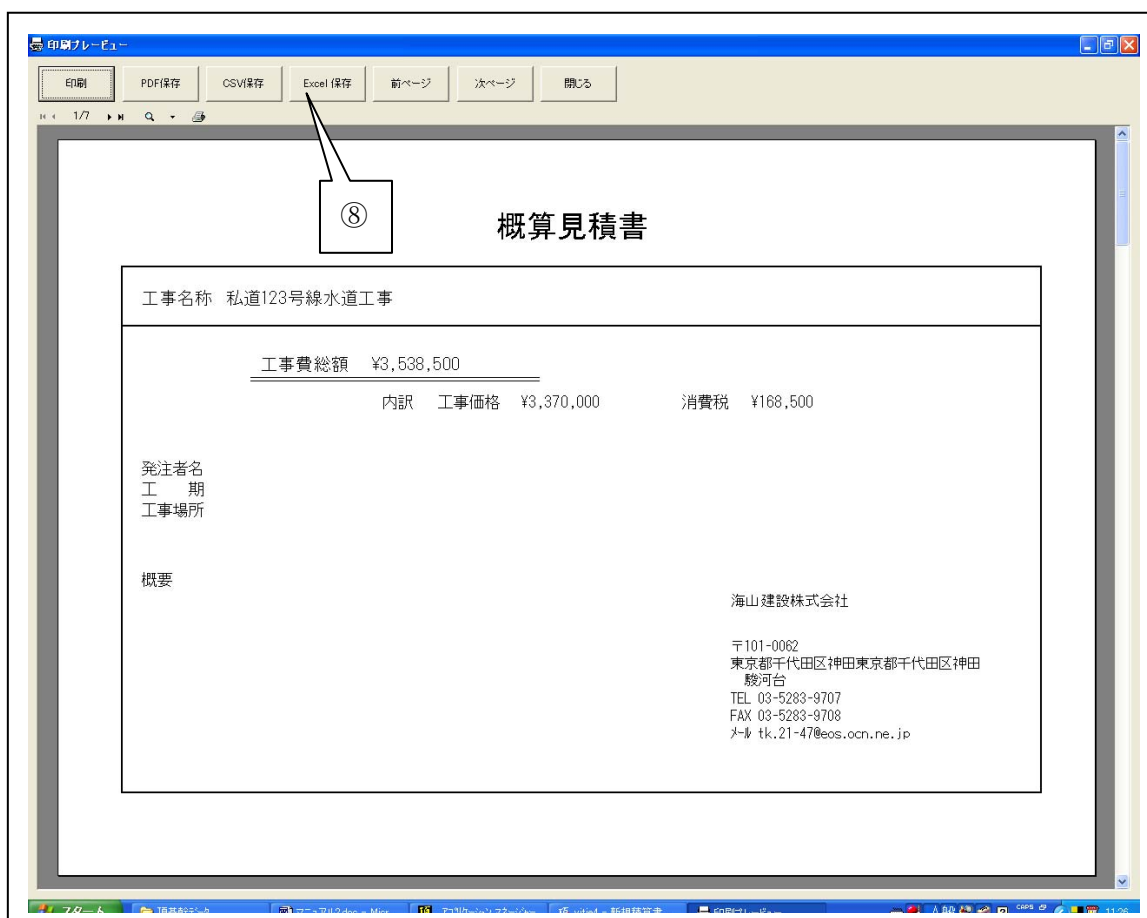
- ④ ▼をクリック。
- ⑤ プルダウンメニューから「02 水道用見積書 (1)」を選択してクリック。
- ⑥ 【OK】をクリック。
- ⇒⇒再び「印刷設定画面」に戻ります。

印刷設定画面(表紙部分)

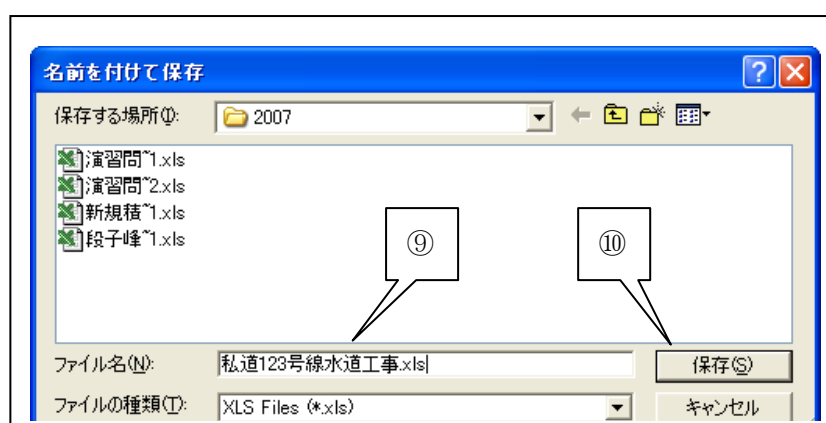


- ⑦ 【印刷】ボタンをクリック。(印刷対象に表紙が選ばれていることを確認してください)
- ⇒⇒印刷プレビュー画面の表紙が開きます。

表紙の印刷プレビュー画面



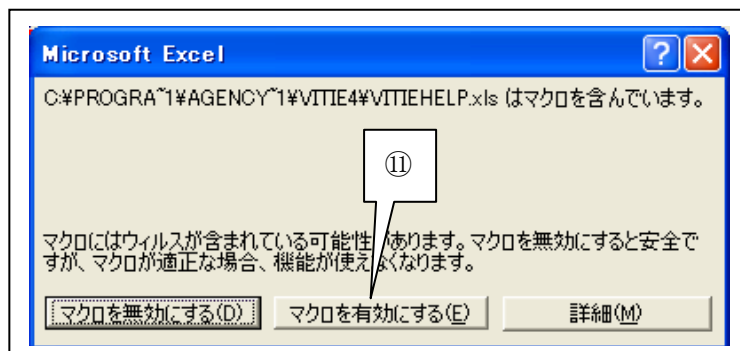
⑧ 【Excel 保存】をクリック。⇒⇒「名前を付けて保存」の画面が表示されます。



⑨ 名前を付けて

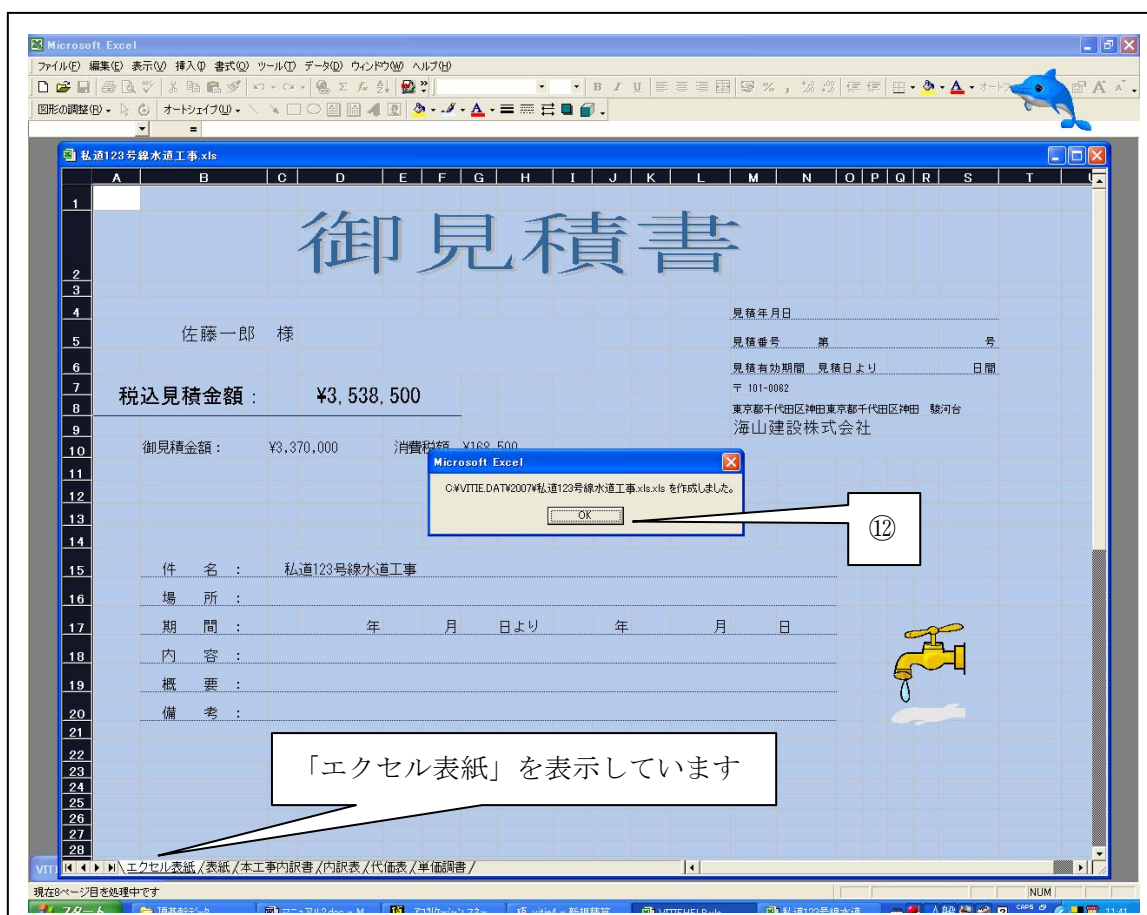
⑩ 【保存】ボタンをクリック。

⇒⇒Excel 画面が開いて次の画面に変わります。



⑪ 【マクロを有効にする】をクリック。

⇒⇒次の画面に変わります。



⑫ 【OK】をクリック。⇒⇒確認画面が消えて Excel の表紙画面が残ります。通常の Excel シートとして自由に編集することができます。

現在は 用見積書 1、水道工事用 2、土木工事用 3、造園工事用 1 種類があります。

5-8 金額抜き印刷などその他の印刷設定

印刷設定画面（部分）（その他グループ）

印刷設定保存

その他

用紙 A4横 A4縦

フォント ゴシック 明朝

金額抜き印刷

対象額、率を印字しない

ページ番号を印字

ページに会社名を印字

本工事費行を印字する

行文字下げ幅

設計書行数

- 用紙：A4 サイズの縦と横を選択できます。
- フォント： ゴシックと明 を選択できます。
- 金額抜き印刷：単価と金額を空欄にした印刷ができます。
- 対象額、率を印字しない：率計算行の 要欄に対象額などを印字しています。

本工事内訳書プレビュー画面

本工事費内訳書							
費目	工種	施工名称	数量	単位	単価	金額	摘要
土工事		ガッタの掘削	1.000	式		855,470	内訳書 第0001号
布設工事		φ250	1.000	式		483,600	内訳書 第0002号
管材料		納鉄管	1.000	式		550,000	内訳書 第0003号
【直接工事費計】						1,899,070	
共通仮設費種上額						18,561	
仮設費						18,561	内訳書 第0004号
【共通仮設費】						237,577	1,899,070 x0.1251
【共通仮設費計】						256,138	
【純工事費】						2,155,204	
【現場管理費】						792,000	2,155,204 x0.3678
【工事原価】						2,947,204	
【一般管理費等】						422,788	2,847,204 x0.1438 調整額 = 1,011
【工事価格】						3,370,000	
【消費税】						188,500	3,370,000 x0.05

初期設定では率計算行の 要欄に対象額と率を印字しています。チェックを付けると印字しなくなります。

湖山建設株式会社 1

- ページ番号を印字：各ページ右下 にページ番号を印字します。
- ページに会社名を印字：各ページ下中 に表紙で入力した会社名を印字します。
- 本工事費行を印字する：本工事費内訳書の1行目に「**本工事費**」と印字するしないを選択できます。

本工事費プレビュー画面

費目	工種	施工名称	数量	単位	単価	金額	摘要
本工事費							
土工事		がっつり掘削	1.000	式		855,470	内訳書 第0001号
布設工事		φ250				483,600	内訳書 第0002号
管材料		鋼鉄管				550,000	内訳書 第0003号
【直接工事費計】						1,889,070	
共通仮設費積上額			1.000	式		18,561	
仮設費			1.000	式		18,561	内訳書 第0004号
【共通仮設費】						237,573	1,889,070 x0.1251
【共通仮設費計】						256,134	
【純工事費】						2,155,204	
【現場管理費】						792,000	2,155,204 x0.3678
【工事原価】						2,947,204	
【一般管理費等】						422,798	2,947,204 x0.1438 調整額 = 1,011
【工事価格】						3,370,000	

湖山建設株式会社

1

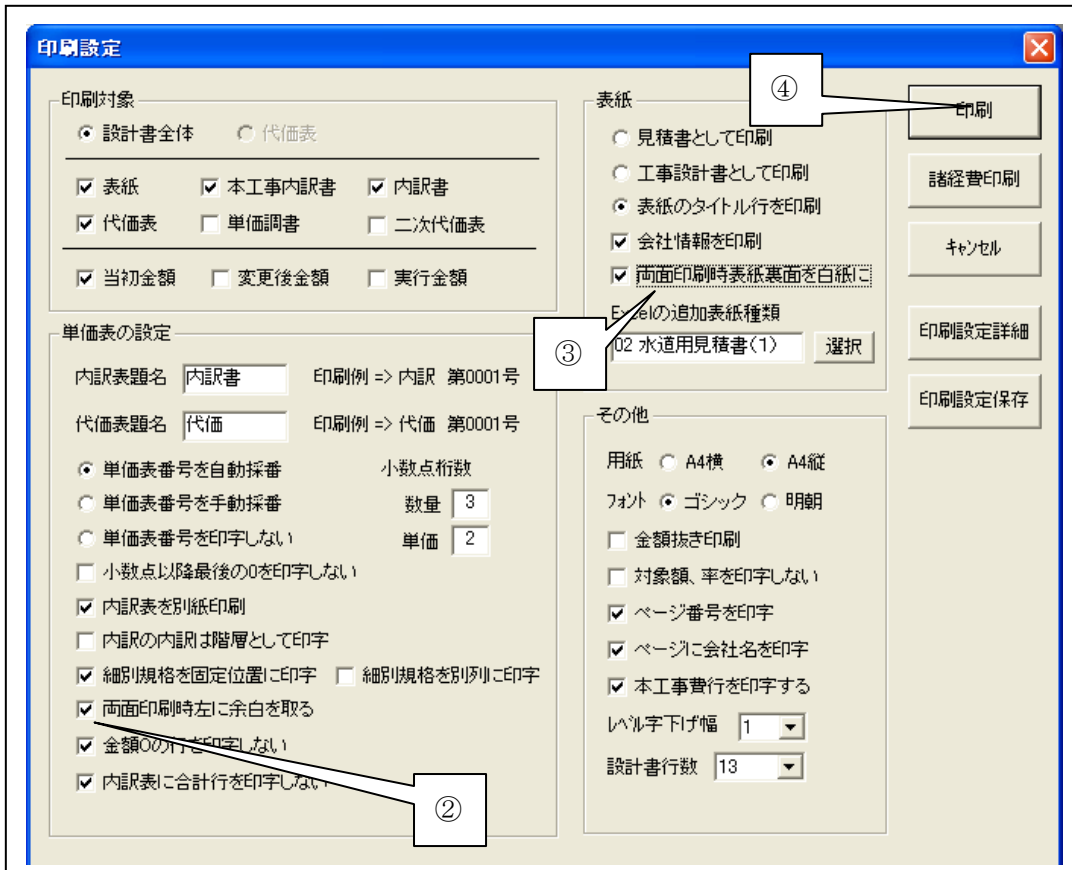
- レベル字下げ：階層方式で作成した場合、レベルが下がるごとに字下げされます。この字下げ を指定することができます。「1」は1字分、「2」は2字分の が字下げされます。
- 設計書行数：設計書の行数を指定できます。用紙の選択でA4横の場合は9～14行、A4縦の場合には13～21行を選択することができます。

5-9 両面印刷をする

一般的な両面印刷の手順を説明します。お使いのパソコンやプリンターによっては画面が違う場合や、両面印刷ができない場合もあります。

- ① 印刷設定画面を開きます。

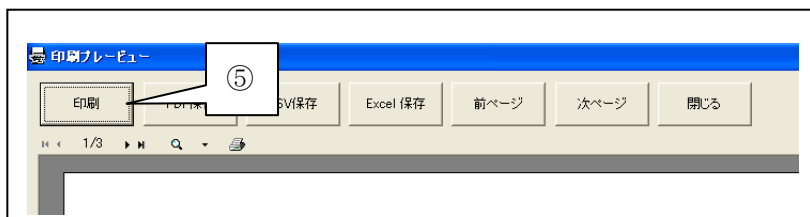
印刷設定画面



- ② 単価表の設定グループの「両面印刷時左に 白を取る」にチェック。
- ③ 表紙グループの「両面印刷時表紙 面を白紙に」にチェック。
- ④ 【印刷】ボタンをクリック。

⇒⇒印刷プレビュー画面に変わります。

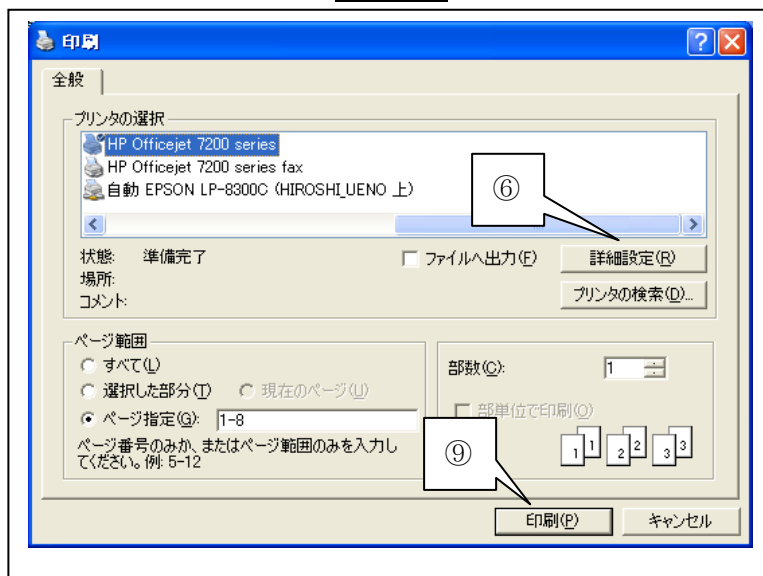
印刷プレビュー画面 (部分)



- ⑤ 印刷プレビュー画面の左上 の【印刷】ボタンをクリック。

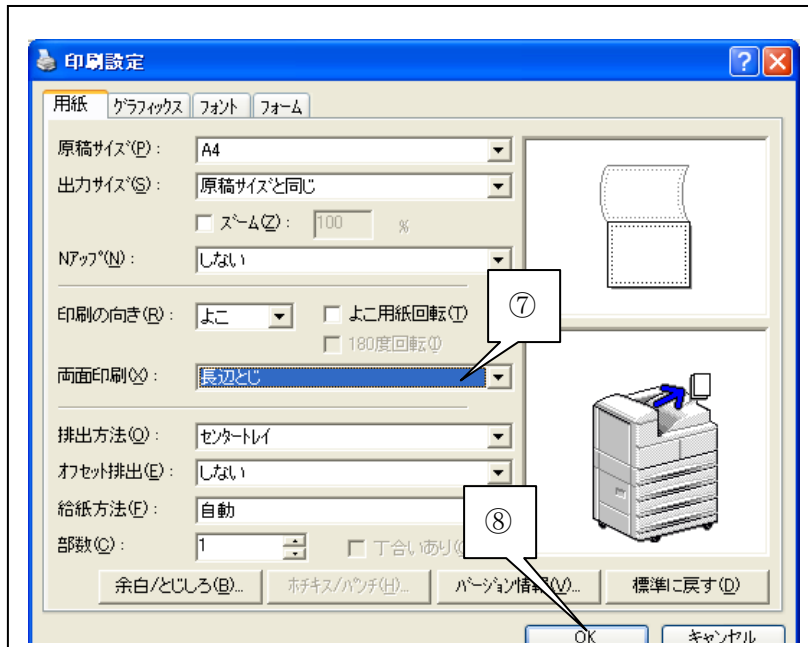
⇒⇒印刷画面が開きます。

印刷画面



⑥ 【詳細設定】をクリック。⇒⇒プリンターの印刷設定画面が開きます。

プリンターの印刷設定画面 (例)



⑦ 「両面印刷」を「長 とじ」に合わせます。

⑧ 【OK】をクリック。⇒⇒再びプリンターの印刷画面に戻ります。

⑨ 【印刷】をクリック。⇒⇒印刷が始まります。

5-10 エクセル用紙の印刷編集（上段に色をつけるなど）

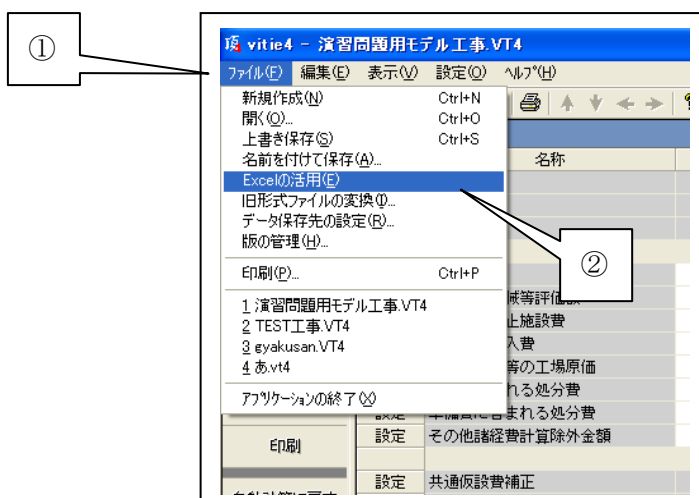
エクセルに変換すれば、線で上下2段に分けることや、下図のように色をつけるなどの編集をして印刷することができます。

エクセルに変換した本工事内訳書（上段に色をつけたもの）

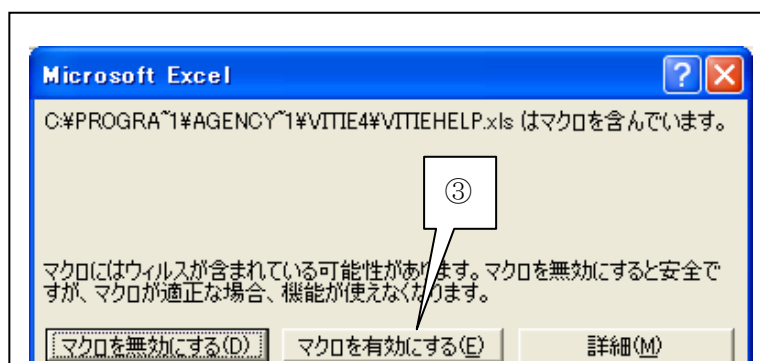
費目	工種	施工名称	数量	単位	単価	金額	摘要
*** 本工事費 ***							
道路改良			1	式		16,624,404	
道路土工			1	式		4,434,000	
盛土工			1	式		1,937,000	
掘削(土砂)			4,500	m3	474	1,998,000	
掘削(硬着)			50	m3	586	29,300	
路床盛土工			1,000	m3		120,000	
路床(流用土)			1	式		120,000	
路床盛土工			3,000	m3		937,000	
路床(流用土)			1	式		937,000	
法面整形工			1	式		1,234,000	
法面整形(切土部)			1,500	m2	642	963,000	
法面整形(盛土部)			500	m2	542	271,000	
残土処理工			1	式		530,000	

上の例のように上段に色をつけて印刷する手順を説明します。

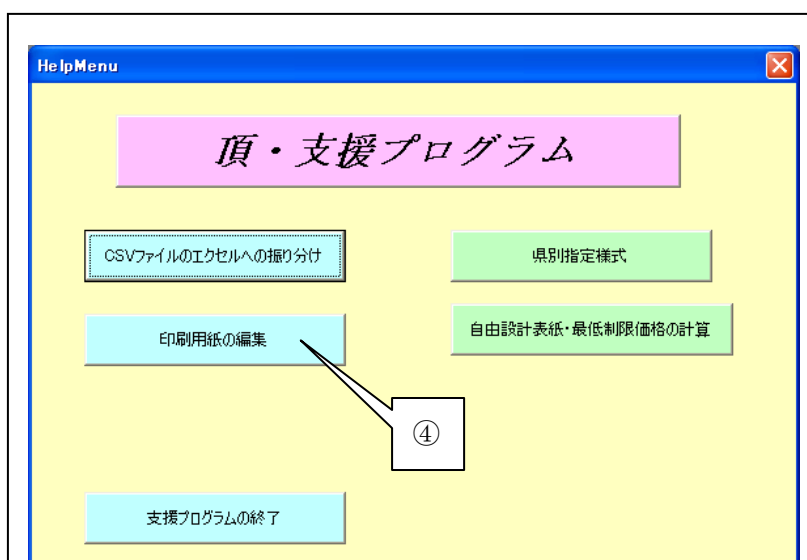
- ① 積算が終了したら諸経費画面（直接工事費画面でも）のメニューバーの「ファイル」をクリック。
- ② プルダウンメニューの「Excelの活用」をクリック。



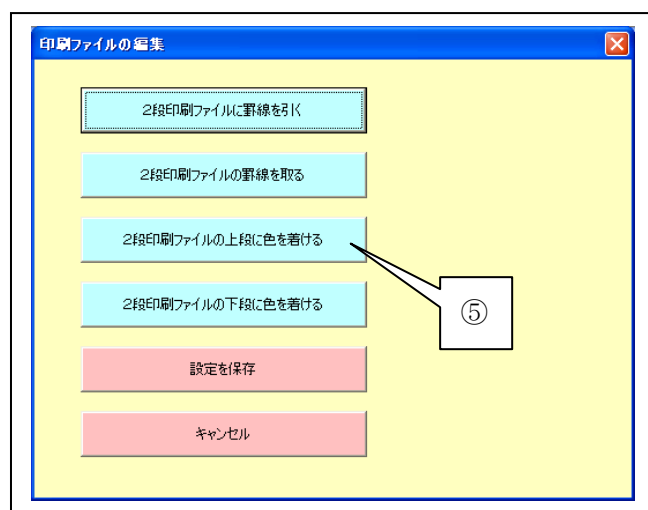
⇒⇒マクロの確認画面が出ます。



③ 【マクロを有効にする】をクリック。⇒⇒頂・支 援プログラムが開きます。



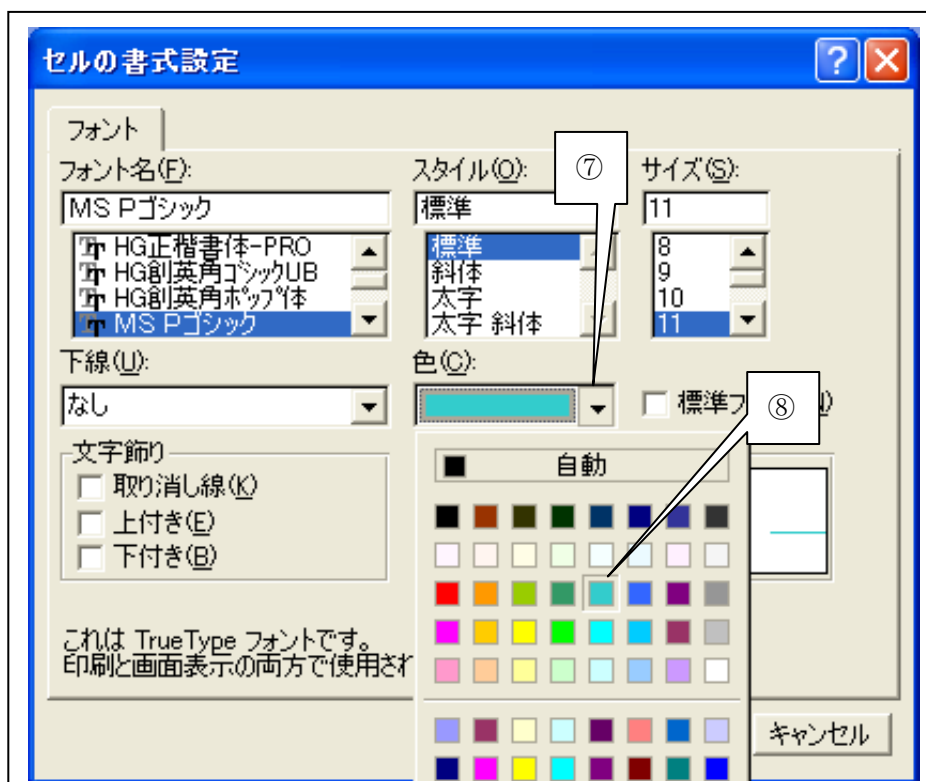
④ 【印刷用紙の編集】をクリック。



- ⑤ 【2 段印刷ファイルの上段に色を付ける】をクリック。

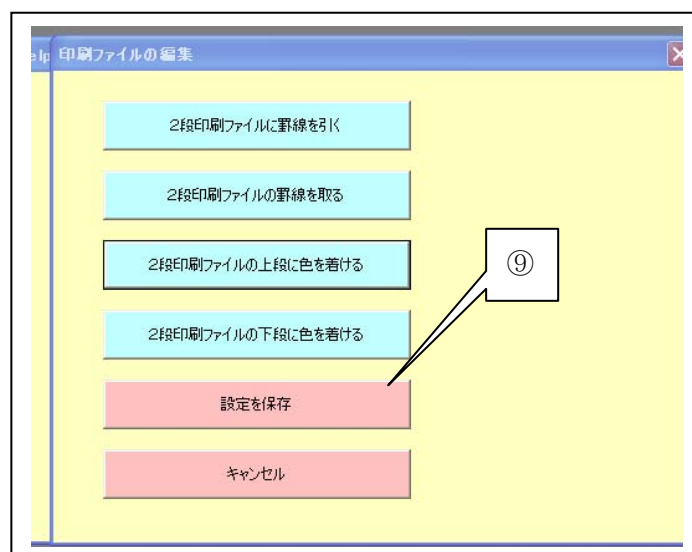


- ⑥ 【OK】をクリック。

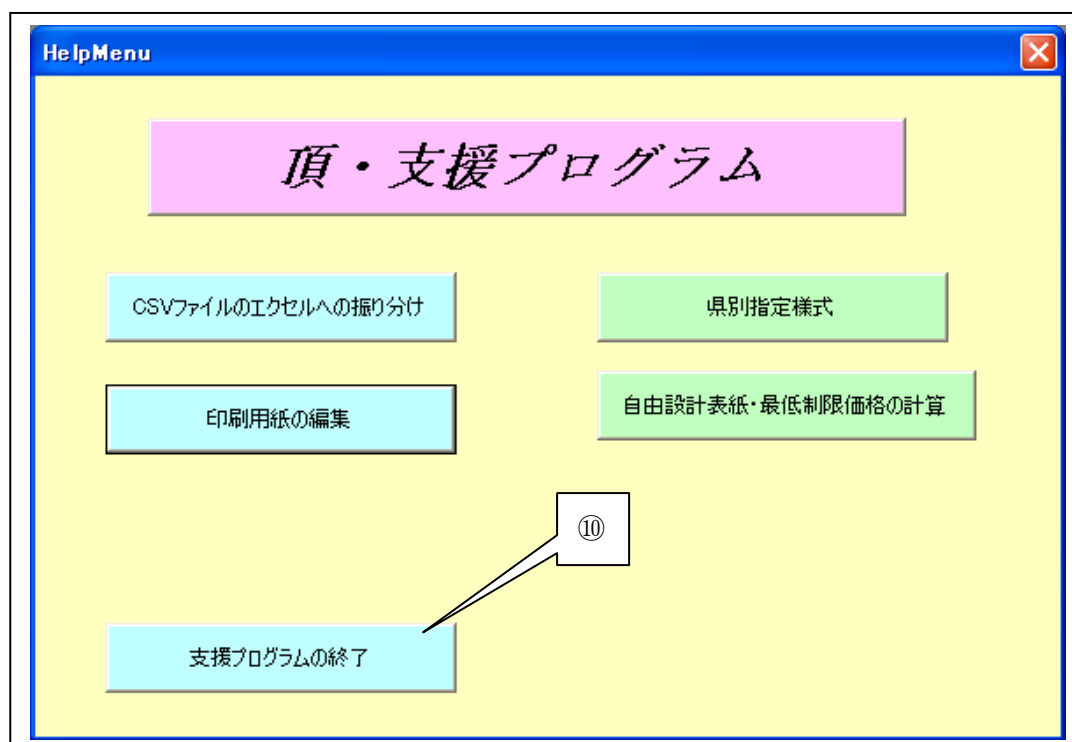


- ⑦ 色の▼印をクリック。
⑧ 色を選択して【OK】をクリック。

⑨ 【設定を保存】をクリック。⇒⇒これで上段に色をつける設定が保存されました。



⑩ 【支 援プログラムの終了】をクリック。



これで設定を終了したので、以降エクセルに変換した場合上段に色が付いて表示されます。

試しに下記の工事をエクセルに変換してみます。

造成に伴う新設道路工事.VT4						
表示(M) 設定(O) ^M^H						
直接工事費 (¥1,651,090.)						
名称	規格	単位	数量	単価	金額	記号
構造物取壊し工		式	1	267,359	267,359	
側溝工		式	1	356,931	356,931	
舗装工		式	1	226,800	226,800	
水道工		式	1	600,000	600,000	
整地工		式	1	200,000	200,000	

設定通り上段に指定した色が付きました。

宅地造1.xls							
B	C	D	E	F	G		
本 工 事 費 内 訳 書							
費目	工種	施工名称	数量	単位	単価	金額	摘要
** 本工事費 **							
		構造物取壊し工					
			1	式		267,359	内訳 第0001号
		側溝工					
			1	式		356,931	内訳 第0002号
		舗装工					
			1	式		226,800	内訳 第0003号
		水道工					
			1	式		600,000	内訳 第0004号
		整地工					
			1	式		200,000	内訳 第0005号
		【 直接工事費計 】					
						1,651,090	
		【 共通仮設費 】					
						206,000	1,651,090 x 0.1251
		【 共通仮設費計 】					
						206,000	

補足説明

- (1) 「Excel の 用」で設定したあとにエクセルで保存したものに有効です。
- (2) 一度設定すると同じ手順で色を白色にしない限り有効です。
- (3) Excel ファイルに変換する方法は→「[6-3 Excel ファイルに変換する](#)」を参照してください。

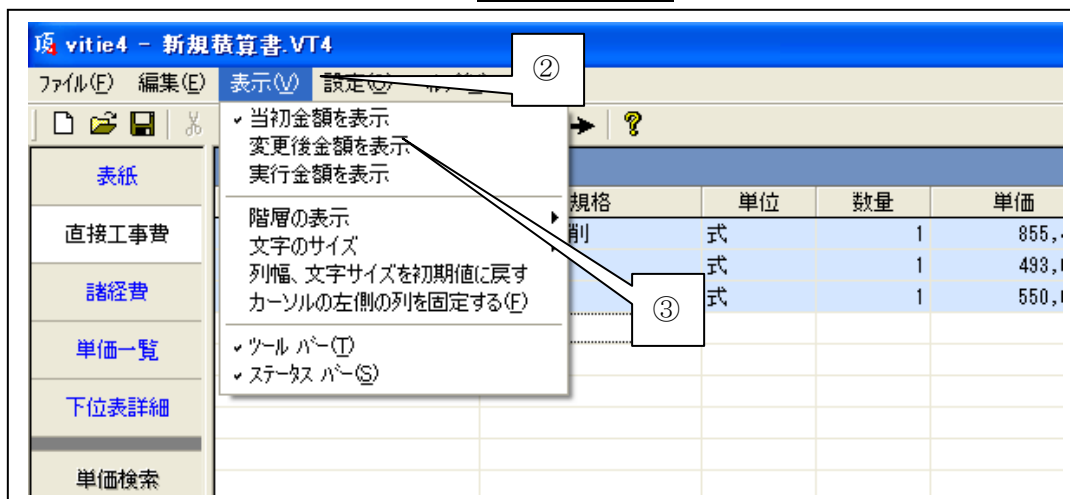
6 その他の機能

6-1 設計変更・実行予算に使う

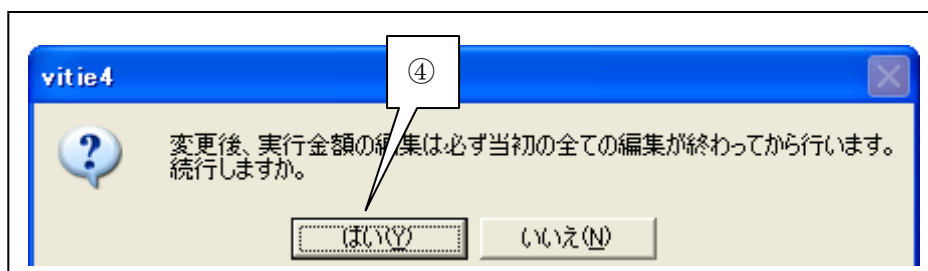
設計変更用の作業のために、当初設計と変更設計を べて表示して作業することができます。

- ① 直接工事費画面を開きます。

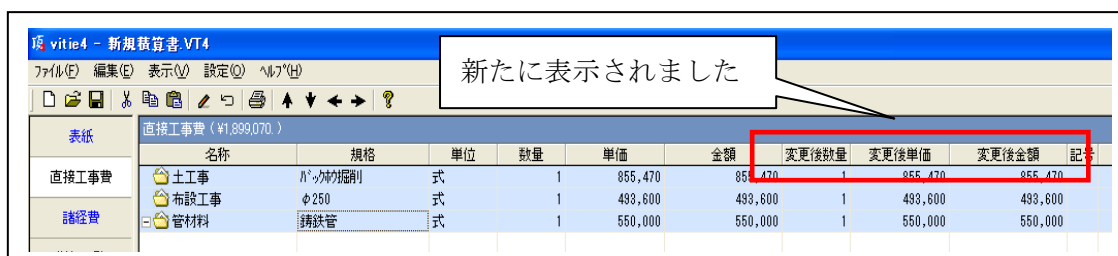
直接工事費画面



- ② メニューバーの「表示」をクリック。
- ③ プルダウンメニューから「変更後金額を表示」をクリック。
⇒⇒当初設計終了の確認メッセージが出ます。



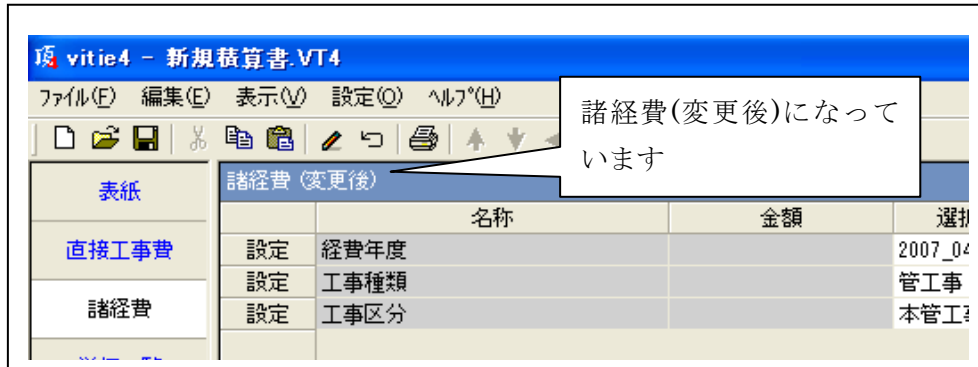
- ④ 【OK】をクリック。⇒⇒直接工事費画面に戻ります。



⇒⇒「変更後数量」「変更後単価」「変更後金額」が新たに表示されています。

この画面で変更設計を入力後、【諸経費】ボタンをクリックして諸経費画面を表示します。

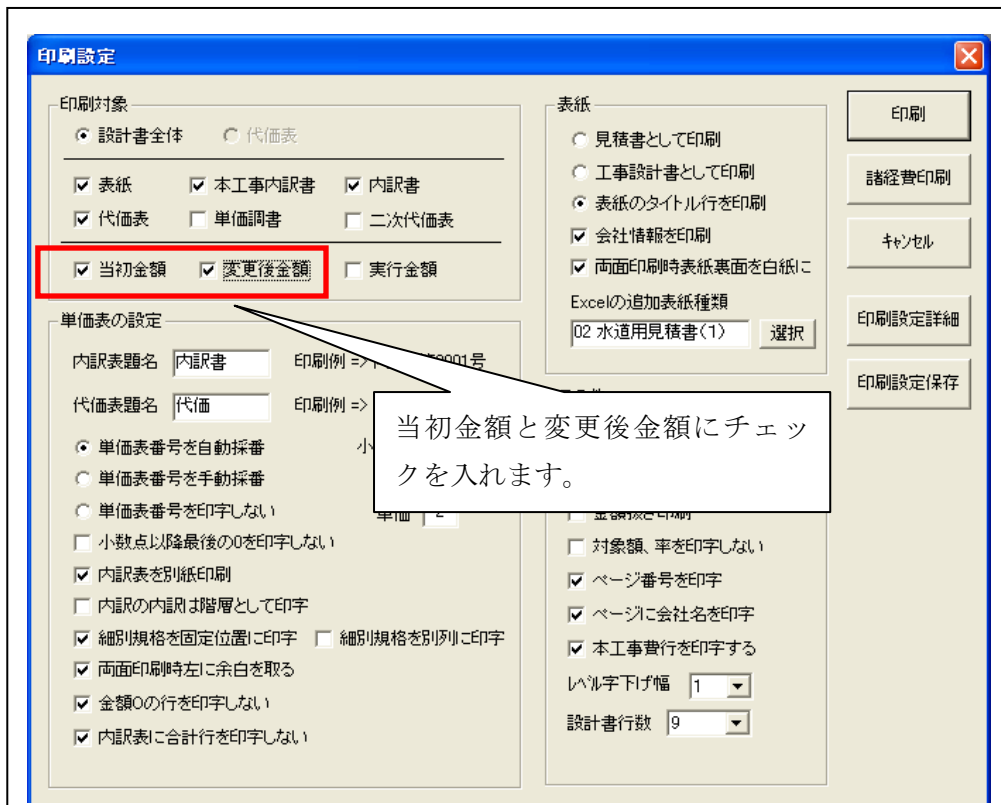
諸経費画面 (部分)



上図のように直接工事費画面に変更後の金額が表示されているときに、諸経費画面を開くと変更後の諸経費が表示されます。(諸経費画面は上下2段で表示できません)

⇒⇒諸経費画面から【印刷】ボタンで印刷設定画面を開きます。

印刷設定画面



「当初金額」と「変更後金額」の両方にチェックを入れると、当初と変更後を上下2段で印刷することができます。変更後金額だけを印刷する場合は「変更後金額」だけにチェックを

付けます。

補足説明

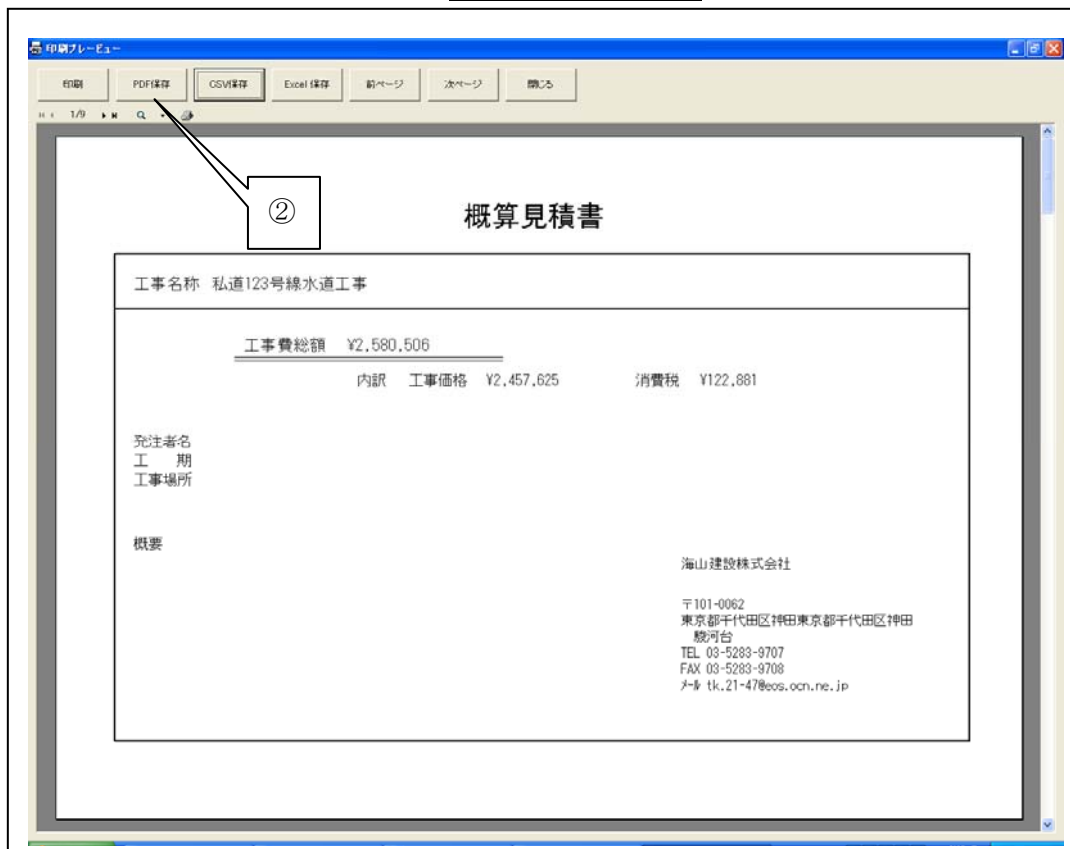
- (1) 変更後の作業で当初設計部分を変えることはできません。当初設計が完了してから変更後作業をしてください。
- (2) 実行予算の作業でも同様です。したがって、設計書と実行予算を同時進行で作成することはできません。
- (3) 最初に変更後に表示された数量・単価は、当初設計のものがそのままコピーされています。
- (4) 数量はこの画面で直接変更することができます。
- (5) 内訳書の金額を変更する場合は、通常の前算と同じように下位表で変更してください。
- (6) 代価表の単価を変更する場合も下位表に降りて明細を開いて変更してください。下位表に降りないで直接単価を変更すると「下位を切り出す」かどうかの確認メッセージが出ます。
- (7) 実行予算の場合は上記③で「実行金額を表示」を選択します。

6-2 PDF ファイルに変換する

完成した頂の積算ファイルを PDF ファイルに変換することができます。

- ① 印刷プレビュー画面を開きます。

印刷プレビュー画面

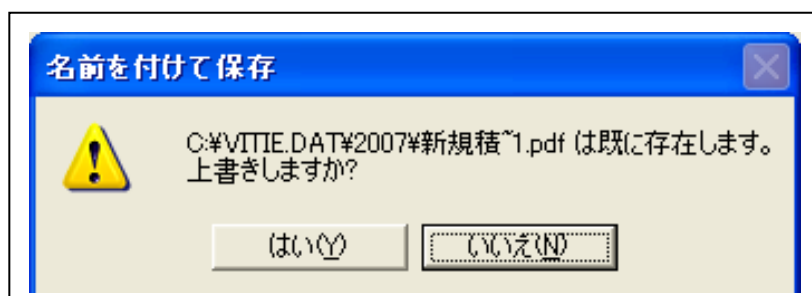


- ② 【PDF 保存】 をクリック。



- ③ 名前を入力します。
- ④ 【保存】 をクリック。

すでに同じ名前のファイルがある場合は下記のような警告メッセージが出ます。



上書きするなら【はい】新たに別の名前をつけるなら【いいえ】をクリックして別の名前をつけてください。ここでは「はい」とします。

警告メッセージが出ない場合は次に進みます。



⑤ 【OK】をクリック。

以上で「2007」というフォルダに PDF ファイルとして保存されました。

補足説明

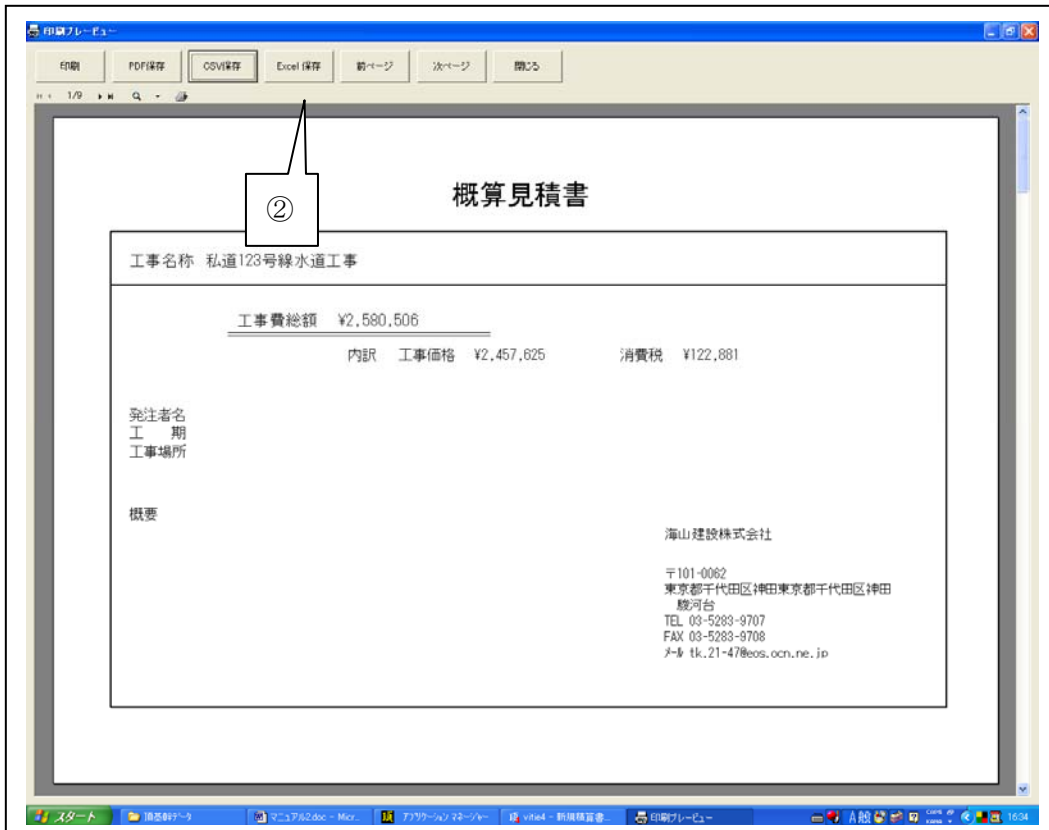
PDF ファイルにするとアクロバットリーダーで めるようになります。

6-3 Excel ファイルに変換する

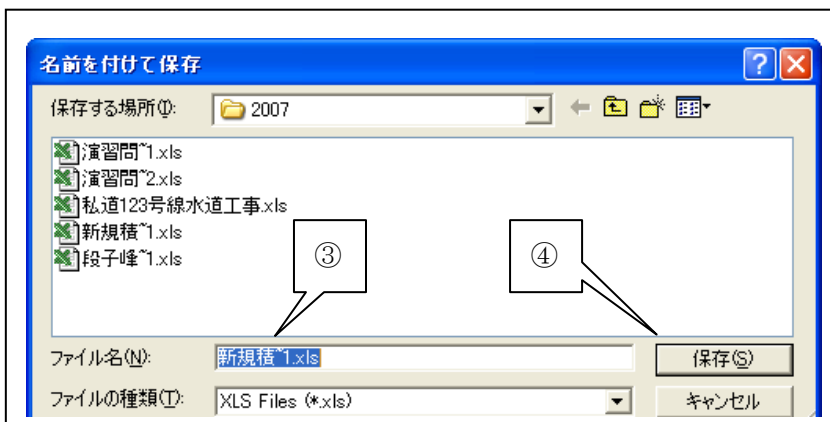
完成した頂の積算ファイルを Excel ファイルに変換することができます。Excel ファイルに変換すると「頂」のソフトがなくても自由に編集することができます。

- ① 印刷プレビュー画面を開きます。

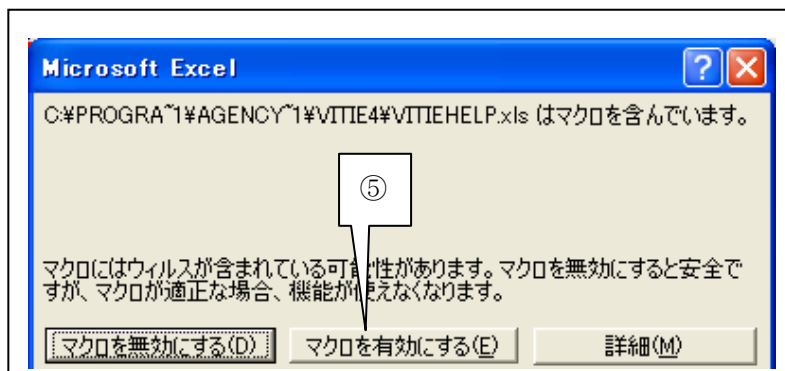
印刷プレビュー画面



- ② 【Excel 保存】をクリック。

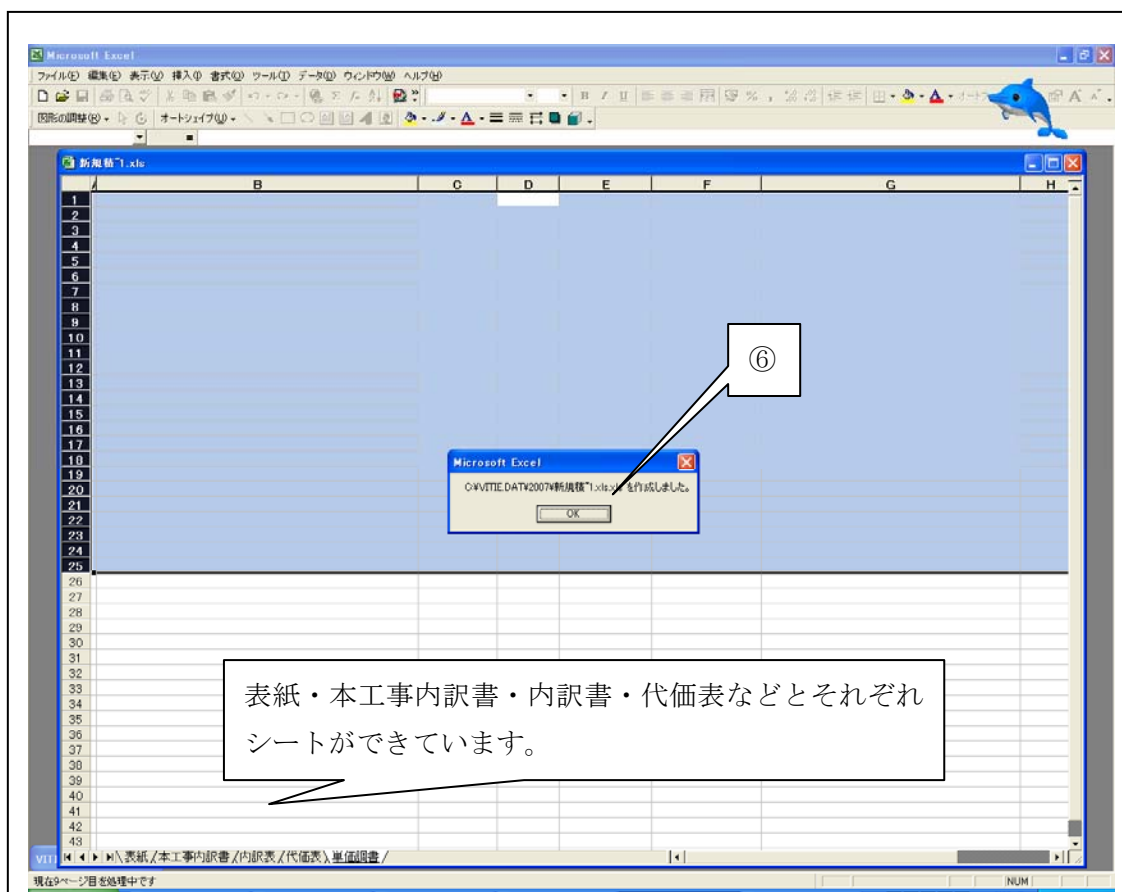


- ③ 名前を入力します。
- ④ 【保存】をクリック。



⑤ 【マクロを有効にする】をクリック。

エクセル画面



⑥ 【OK】をクリック。

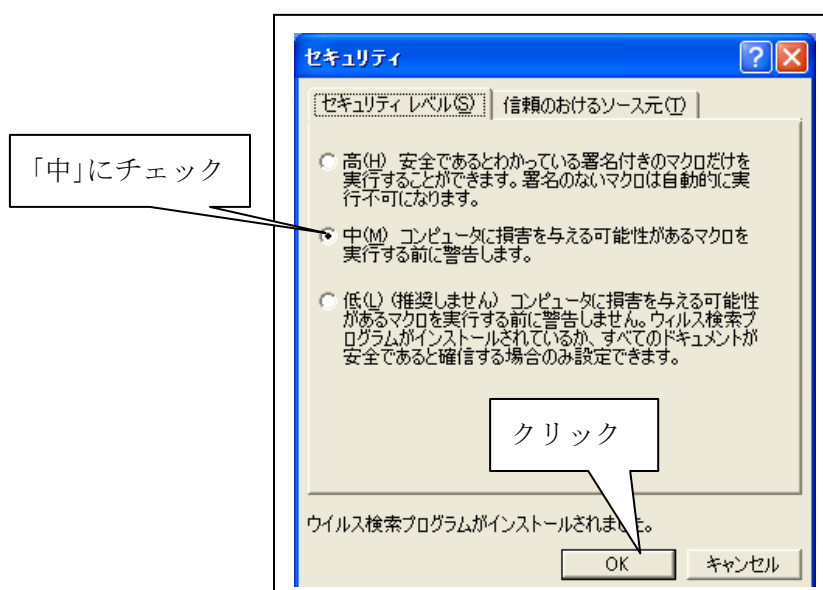
⇒⇒エクセル画面が開き画面下部に表紙・本工事内訳書・内訳書・代価表・単価調書などと印刷設定画面の印刷対象グループで指定した（チェックを付けた） がシートごとに作成されています。

補足説明

(1) お使いのパソコンがエクセルのセキュリティ設定が「高」になっていると、⑤の操作「マクロを有効にする」をクリックしてもエラーになります。セキュリティレベルを「中」に設定してください。終了後に「高」に戻す場合には同じ手順で行います。

● お使いのパソコンが Excel2000 の場合

エクセルのプログラムを起動させて、メニューバーの「データ」⇒「マクロ」⇒「セキュリティ」と選択して「中」にチェックを付けて【OK】をクリックします。



● お使いのパソコンが Excel2002 以降の場合

エクセルのプログラムを起動させて、「ツール」⇒「オプション」⇒「セキュリティ」⇒「マクロセキュリティ」で「中」を選択してください。

(2) エクセル保存をするときは必ず他のエクセルを終了させてください。エクセルプログラムが起動していると変換できません。

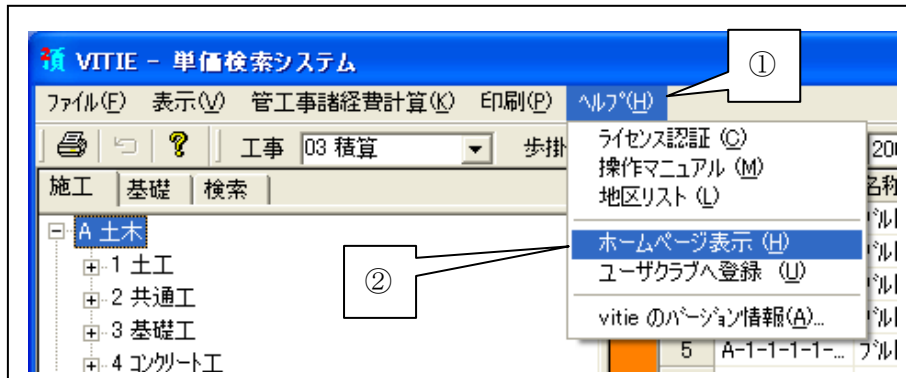
(3) 保存したエクセルファイルを開くには「スタート」⇒「すべてのプログラム」などからエクセルを起動させてツールバーの「ファイルを開く」をクリックします。選択ウィンドウを 2007 に設定し、目的のファイル名を選択して【開く】をクリックします。頂から保存したエクセルファイルは Windows(C)⇒VITIE.DAT⇒2007 の中にあります。(2007 は頂の 2007 年の ・ 版で積算した場合です)

6-4 単価データの更新版をダウンロードする

お使いのコンピュータがインターネットにつながっていれば、頂の単価データの更新版を頂のホームページからダウンロードすることができます。

- ① 単価検索システム画面のメニューバーの「ヘルプ」をクリック。

単価検索システム画面（部分）



- ② プルダウンメニューから「ホームページ表示」をクリック。
⇒⇒しばらく待つと頂のホームページが表示されます。

頂ホームページトップ画面



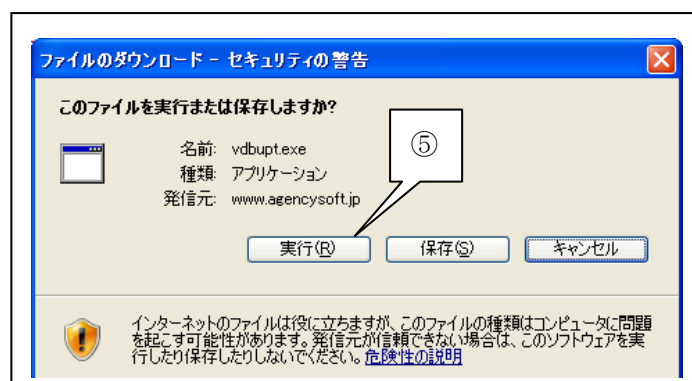
- ③ 画面左側の CONTENTS 枠内にある 3 行目の「データ更新」をクリック。

⇒⇒画面がダウンロードエリア画面に変わります。

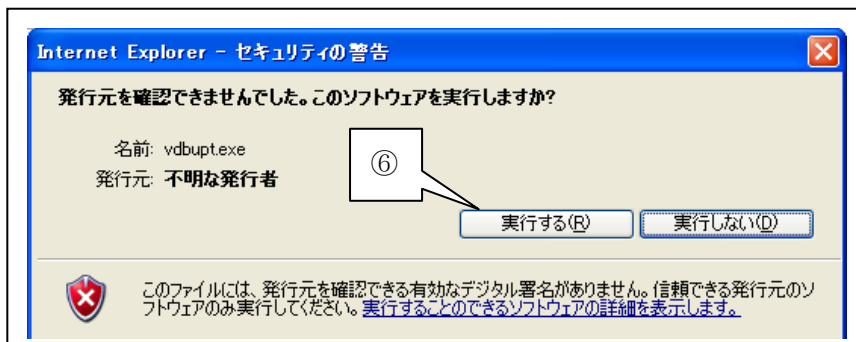
ホームページ（ダウンロード画面）



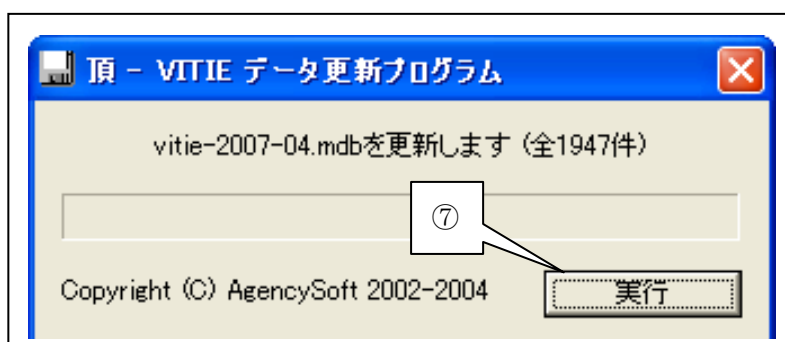
④ データ年度 2007-04 内のご契約の県名をクリック。(データ年度 2007-04 の場合)



⑤ 【実行】をクリック。



⑥ 【実行する】をクリック。



⑦ 【実行】をクリック。




⑧ 【閉じる】をクリック。(これで更新は終了しました)

⇒⇒画面が再びダウンロードエリア画面に戻ります。

ホームページ（ダウンロード画面）



- ⑨ ホームページを閉じるには右上の閉じるボタンをクリック。
⇒⇒ホームページを開く前の単価検索システム画面に戻ります。

補足説明

- 設計書作成画面の「ヘルプ」からでもホームページを開くことができます。
- ここでいう単価データの更新版とは各県が公表している単価のことです。版は10月単価でCDを作成していますが、仮に12月に単価が更新された場合にこの機能で12月単価をダウンロードすることができます。（インターネットで公表している県に限ります）
- 単価データのりを修正した単価データは、頂を起動したときにインターネットを通じて自動的に頂のサーバに確認にいき、修正データがあれば自動的にダウンロードします。「頂-VITIE データ更新プログラム」が起動して確認を求めてきますので「実行」をクリックすればインストールされます。（通常は必ず実行してください）

6-5 プログラムの修正版をダウンロードする

頂のプログラムにバグが発見されたときには、直ちに修正プログラムを作成します。その場合の修正プログラムをインターネットからダウンロードする手順を説明します。

- ① 頂のホームページを開きます。

補足説明 頂のホームページを開くには次の3つの方法があります。

- (1) 単価検索システム画面の「ヘルプ」⇒「ホームページ表示」をクリック。(前項の6-4「単価データの更新版をダウンロードする」を参照)
- (2) 設計書作成画面の「ヘルプ」⇒「ホームページ表示」をクリック。
- (3) アドレスをインターネットの「お気に入り」に登録しておき、「お気に入り」からアドレスをクリックして直接ホームページを開く。

重要 プログラムのインストールは「頂」が起動しているときは実行できません。そのために、頂を起動させる必要の無い(3)の「お気に入り」からホームページを開くことをお勧めします。(前もってお気に入りに登録しておく必要があります)

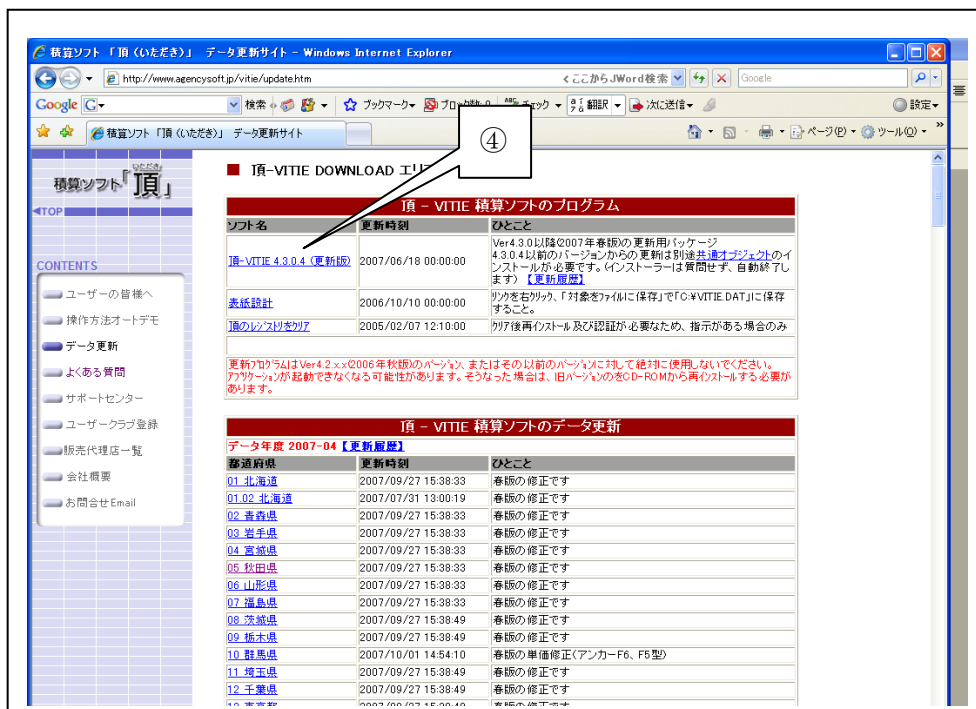
ホームページ (トップ画面)



- ② 「データ更新」をクリック。

⇒⇒ダウンロードエリア画面が開きます。

ホームページダウンロードエリア画面



③ 上記補足説明の (1) (2) の方法でホームページを開いた場合は、頂のプログラムを全て終了してから④に進みます。(3)の「お気に入り」から開いて、頂が起動していない場合はそのまま④に進みます。

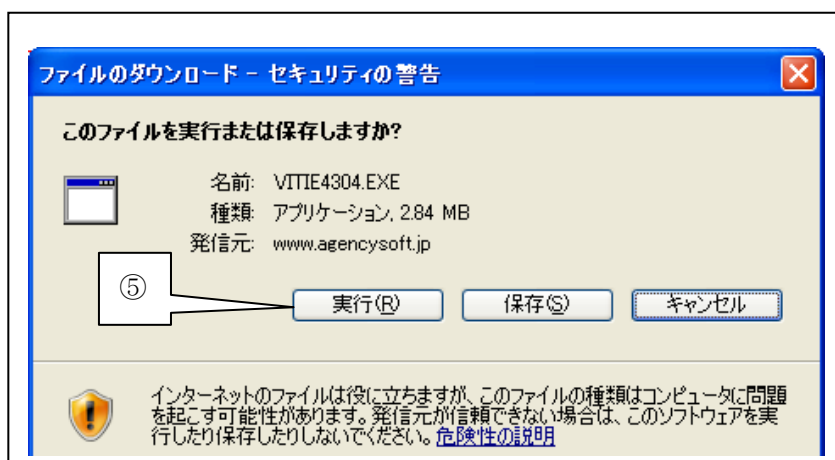
④ 「積算ソフトのプログラム」の1行目「頂-VITIE4.4.0.1 (更新版)」をクリック。

補足説明

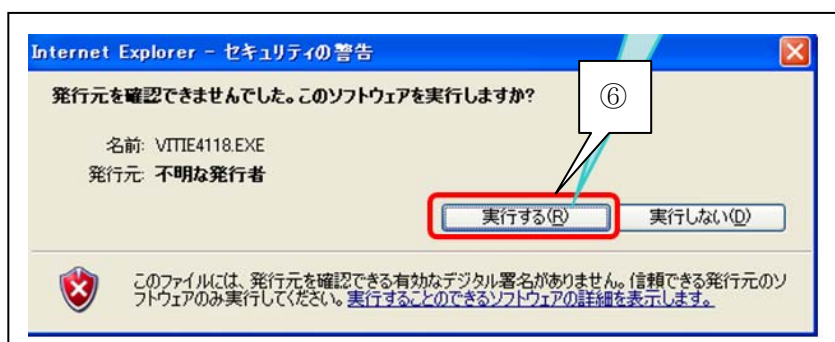
VITIE4.4.0.1の4.4.0.1はプログラムの2007-10月版のバージョンです。ホームページでのバージョン情報が進んでいる場合(4.4.0.2など)にはダウンロードをおいします。進んでいなければダウンロードの必要はありません。

お使いのバージョンを確認するには最初の画面オープンウィザードにVer4.4.01などと表示されています。ヘルプメニューからも確認できます。

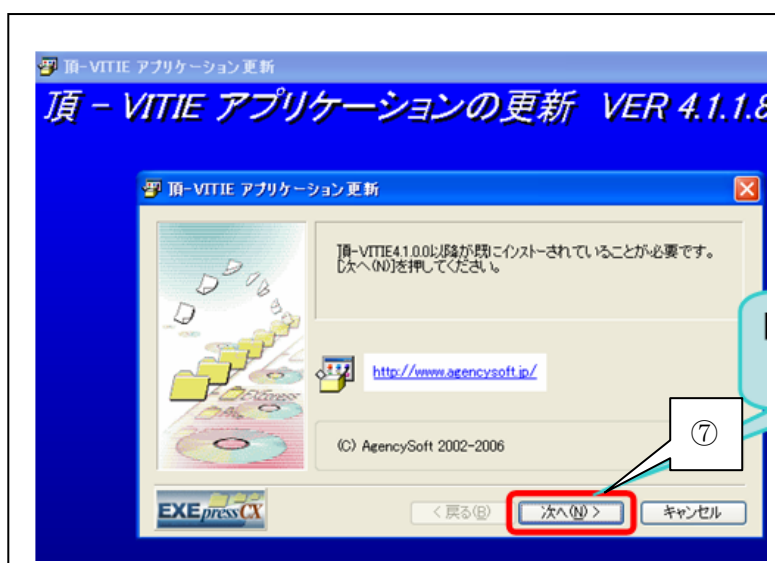
⇒⇒ダウンロードの確認画面が表示されます。



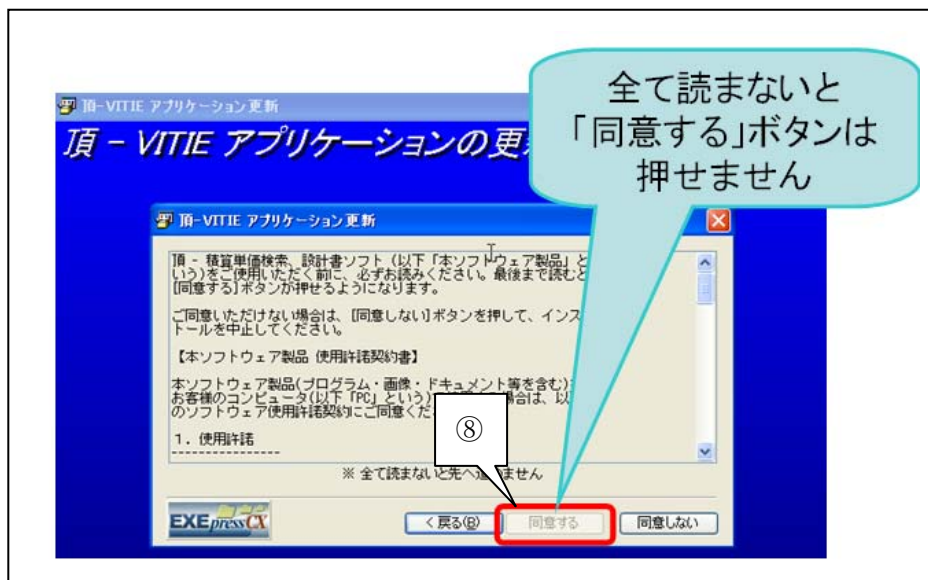
⑤ 【実行】をクリック。



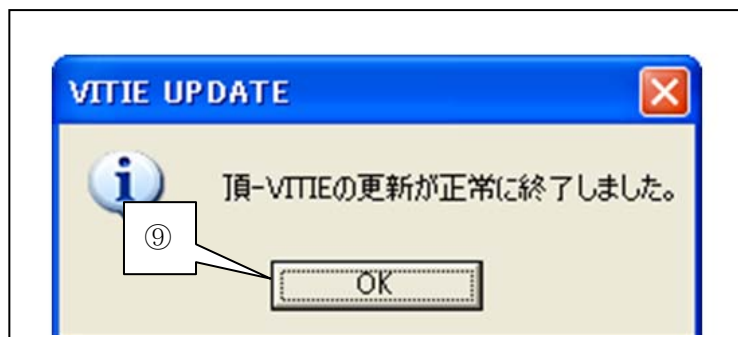
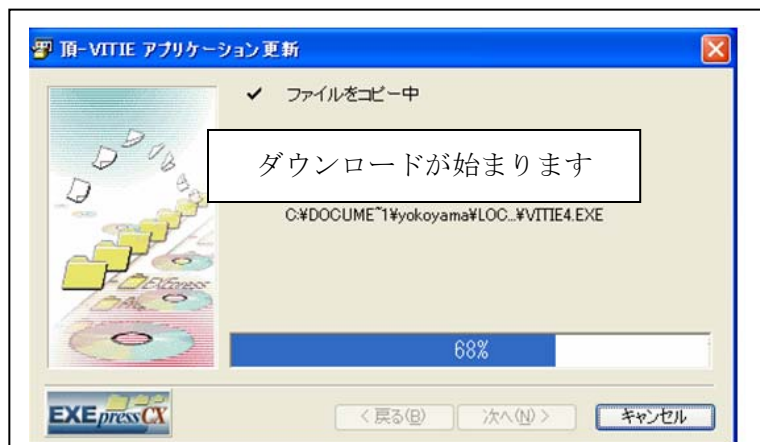
⑥ 【実行する】をクリック。⇒⇒アプリケーション更新画面が起動します。



⑦ 【次へ】をクリック。



- ⑧ 【同意する】をクリック。(一番下まで 読むと「同意する」がアクティブになります)



- ⑨ 【OK】をクリック。
プログラムの更新が終了します。

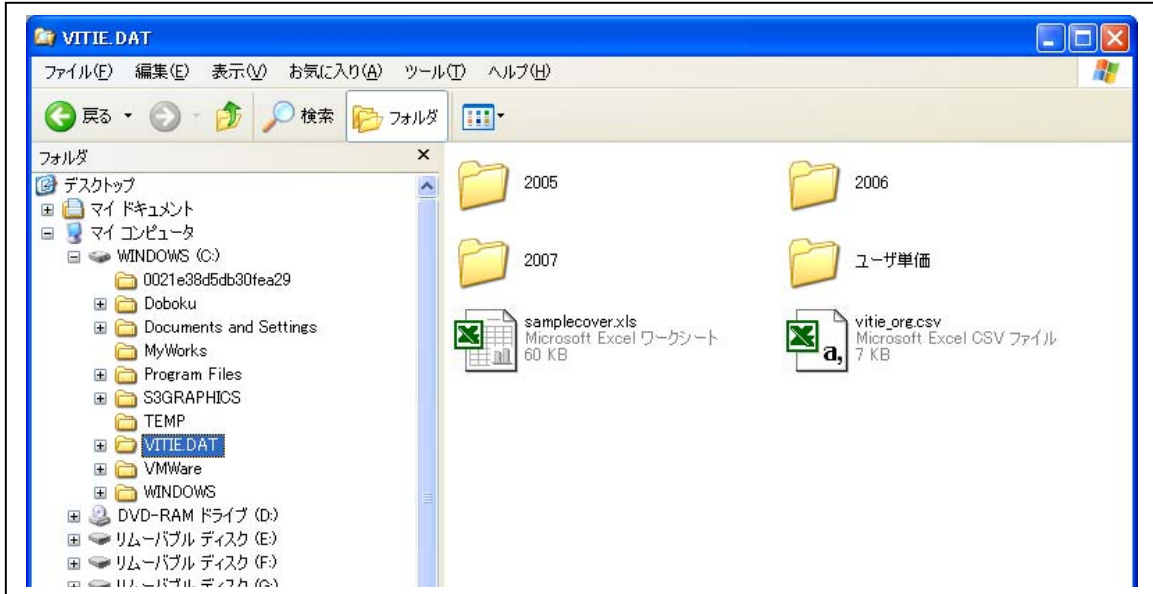
補足説明

- (1) 修正プログラムをアップした場合にはホームページの「更新」や「ユーザーの皆様へ」などで随時お知らせいたします。
- (2) 画面の内容はお使いのパソコンによって、異なる場合もあります。

6-6 データの保存先を変える

頂のデータは初期設定では WINDOWS (C) ドライブのなかに VITIE.DAT というフォルダ名で保存されます。

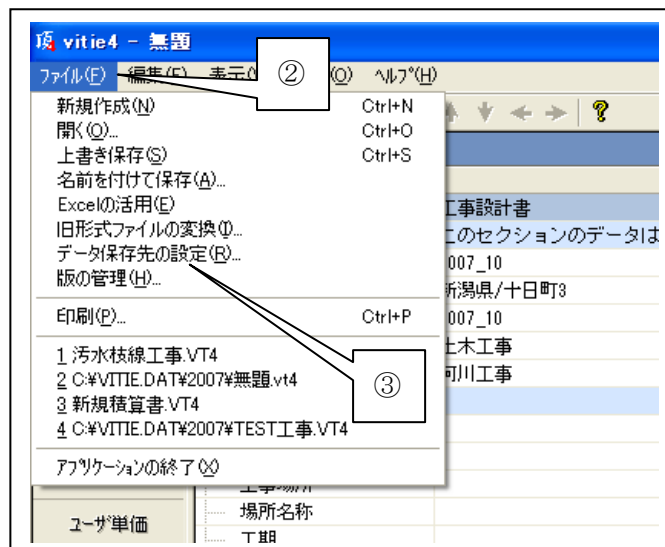
エクスプローラーからマイコンピュータ・WINDOWS(C)を開いた画面



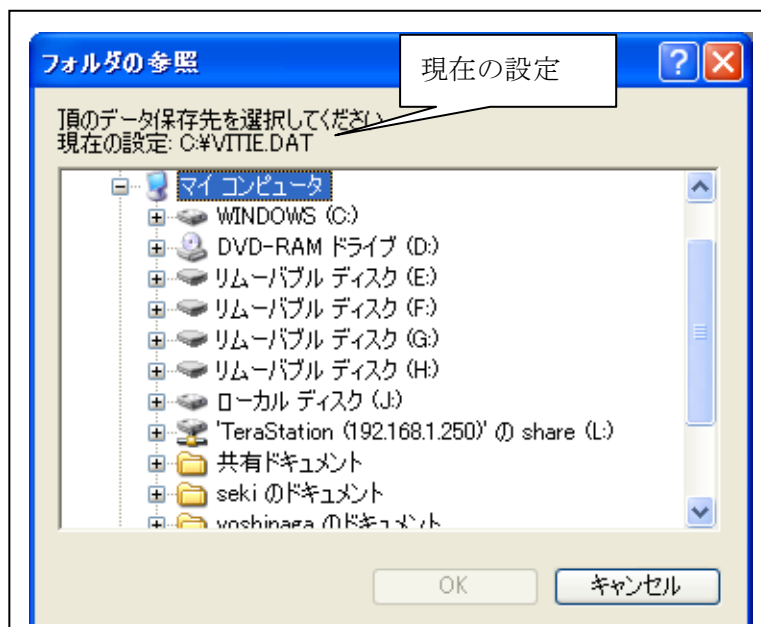
この保存先を変更する手順を説明します。

- ① 設計書画面を開きます。(表紙でも直接工事でも可能です)
- ② メニューバーの「ファイル」をクリック。
- ③ 「データ保存先の設定」をクリック。

表紙画面 (一部)



⇒⇒フォルダの参照画面が開きます。この上部に「現在の設定：C:\VITIE.DAT」と表記してあります。

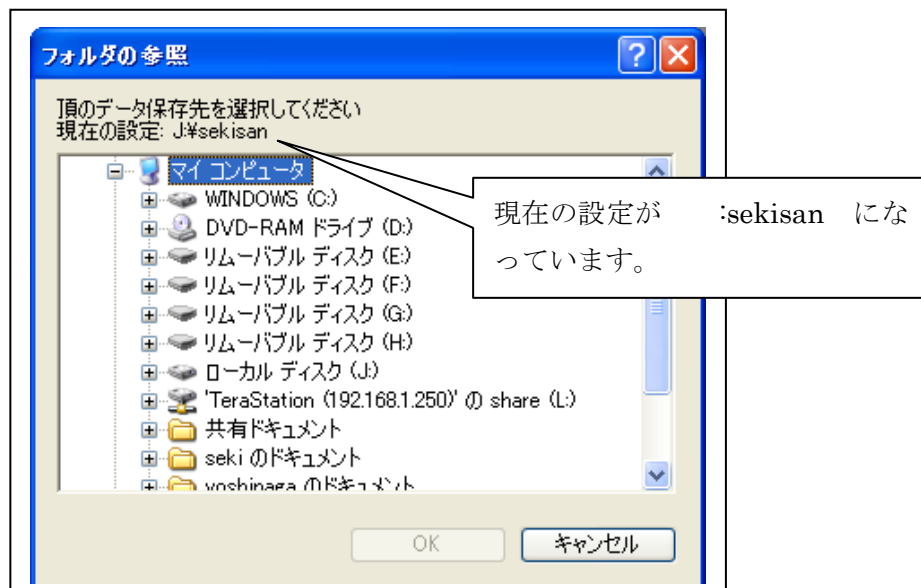


④ ここで新しい保存先を指定して【OK】をクリックします。仮に保存先をローカルディスク () にフォルダ名「sekisan」を作りそのフォルダを指定してみます。



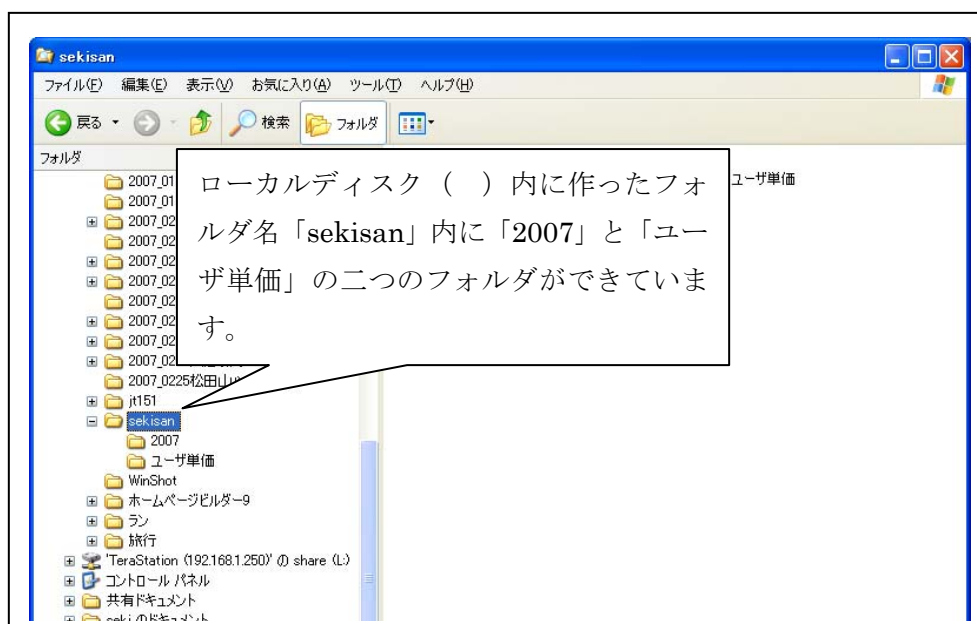
⑤ 【OK】をクリック。⇒⇒これで保存先が変わりました。

先ほどと同じように、「ファイル」⇒「データ保存先の設定」をクリックしてみると下図のように保存先が変わっています。



この状態で新しい工事ファイルを保存するとローカルディスク () の「sekisan」フォルダ内に「2007」と「ユーザ単価」の二つのフォルダが生成され、工事ファイルは「2007」の中に保存されています。

エクスプローラーからローカルディスク () をみると



以上で保存先の変更は終了です。

7 トラブル一覧

7-1 数値を入力できない

お使いのキーボードの【NumLock】または【NumLk】の小さなランプが点灯しているか確認してください。（ノートパソコンの場合はランプが無い場合もあります）

このランプが消えていると数値を入力することができません。【NumLock】または【NumLk】ボタンを押して、再度試してみてください。

7-2 ダブルクリックしても文字の修正ができない

「頂」ではダブルクリックには「下位表を表示する」と「文字を修正する」と2種類の機能があります。「下位表を表示する」に設定されていると、ダブルクリックしても下位表を表示してしまいます。ダブルクリックの機能を文字の修正にしたい場合は→「[1-6 ダブルクリックの機能を設定する](#)」を参照してください。

7-3 設計書に貼り付けると単価が変わってしまう

(A) 過去年度に作成した設計書を使って新しい積算をしている（例えば平成18年の設計書呼び出して平成19年の単価などを貼り付けた）場合

(B) 過去年度に登録したユーザー単価を新しい設計書に貼り付けた場合などにこの現象が起こることがあります。

「頂」では一つの単価に一つのコードを割り振っています。例えば特殊作業員のコードはY0000001624、普通作業員はY0000001625などとなっていますが、年度が変わって単価が変わってもこのコードは変わりません。

そのために、年度の違う（単価の違う）普通作業員を同じ設計書に在させることはできません。同じコードで違う単価を持つ項目を貼り付けた場合は、以上の理由から後から貼り付けたものの単価をすでにある（先に貼り付けてある）単価に強制的に変更してしまいます。

上記(A)の例ではすでに18年度の単価が使われているので、後から19年度の単価を貼り付けた場合に、同じコードがあれば18年度の単価が変わってしまいます。

同様に(B)の場合はユーザー単価が古い年度なので、同じコードのものがあればユーザ

一単価のほうが19年度の単価に変わります。

このように年度が異なるデータを貼り付ける場合は注意が必要です。対処方法としては積算終了後に「単価一覧」画面を開いて単価の確認をお勧めします。

万一単価の変更が必要な場合は→「[3-25 積算物件の同一単価を一度に変更する（単価一覧）](#)」を参照してください。

7-4 印刷プレビュー画面がでない（コレクションがありません）

印刷設定画面で「当初設計」にチェックが無い場合に「このコレクションには項目がありません」とエラーメッセージが出て画面が表示されません。

印刷設定画面

印刷設定

印刷対象

設計書全体 代価表

表紙 本工事内訳書 内訳書

代価表 単価調書 二次代価表

当初金額 変更後金額 実行金額

表紙

見積書として印刷

工事設計書として印刷

表紙のタイトル行を印刷

会社情報を印刷

両面印刷時表紙裏面を白紙に

Excelの追加表紙種類

00 使用しない

単価表の設定

内訳表題名 ここにチェックが無い

代価表題名 印刷例 => 代価 第0001号

単価表番号を自動採番 単価表番号を手動採番 単価表番号を印字しない

小数点桁数

数量 単価

小数点以降最後の0を印字しない

内訳表を別紙印刷

内訳の内訳は階層として印字

細別規格を固定位置に印字 細別規格を別列に印字

両面印刷時左に余白を取る

金額0の行を印字しない

内訳表に合計行を印字しない

その他

用紙 A4横 A4縦

フォント ゴシック 明朝

金額抜き印刷

対象額、率を印字しない

ページ番号を印字

ページに会社名を印字

本工事費行を印字する

レベル字下げ幅

設計書行数

7-5 修正プログラムをダウンロードできない

頂のプログラムが起動しているか確認してください。プログラムのダウンロードはそのプログラムが起動していると上書きすることができません。

頂の「ヘルプ」⇒「ホームページ表示」でホームページを開いた場合は、まだ頂のプログラムが起動しています。必ず ボタンで頂を終了させて、ホームページだけが開いている状態で再度実行してください。

7-6 データの保存ができない

保存先を変更しませんでしたか。保存先をハードディスクではなく、リムーバブルディスクやローカルディスクなどの外付けの記憶装置に変更した場合、その記憶装置が接続されていないとエラーが出て保存できません。データの保存先については→「[6-6 データの保存先を変える](#)」を参照してください。

7-7 エクセルファイルで保存できない

お使いのパソコンでエクセルのマクロセキュリティが「高」になっていると、頂のファイルをエクセルに変換するマクロが有効になりません。セキュリティを「中」にしてください。その手順は→「[6-3 Excel ファイルに変換する](#)」を参照してください。

7-8 単価検索画面で明細が表示されない

単価検索画面で目的の代価をダブルクリックしてもリスト部下段に何も表示されないことがあります。これはスクロールバーが下に移動している場合が多く、スクロールバーの位置を確認してください。

単価検索システム画面

スクロールバー：この位置が最上段になっているか確認してください。

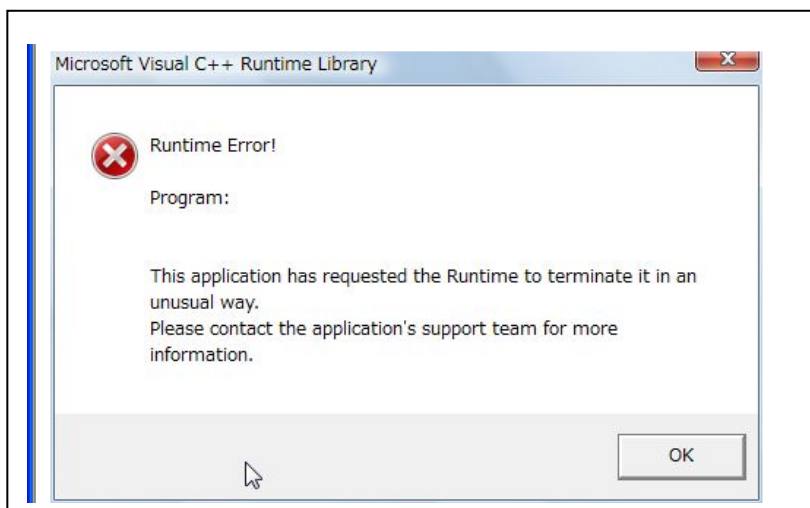
スクロールバーが下がっていると下図のようになります。

スクロールバーが下がっています

7-9 「ランタイムエラー」とエラーメッセージが出る（Windows Vista の場合）

お使いのパソコンの基本ソフトが「Vista」の場合にこのエラーが出る場合があります。

エラーメッセージ

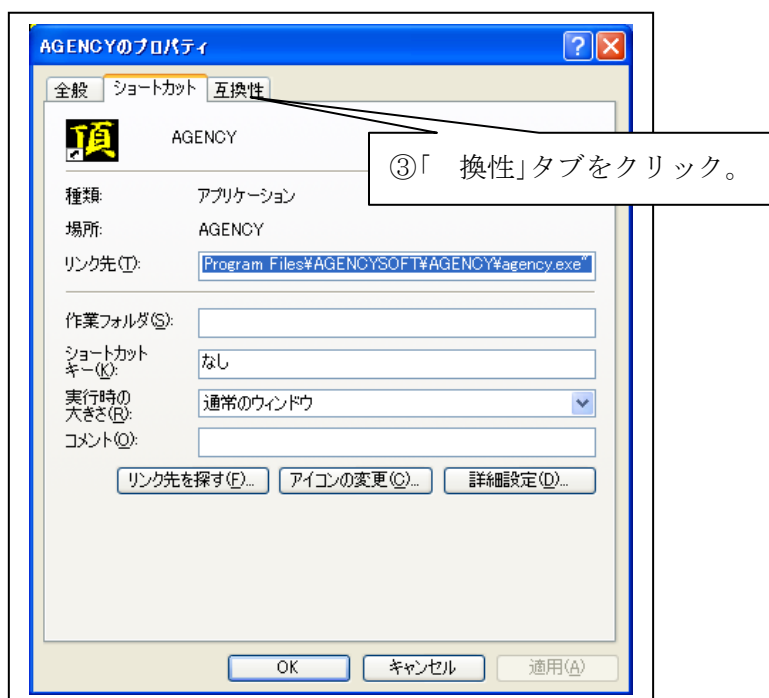


Vista の XP 換モードで頂を起動すればエラーを回避することが可能です。

- ① デスクトップの頂のアイコンを右クリック。
- ② 「プロパティ」をクリック。



- ③ 「 換性」 タブをクリック。



- ④ 「 換モードでこのプログラムを実行する」 にチェック。
⑤ WindowsXP を選択。
⑥ 特 レベル「管理者としてこのプログラムを実行する」 にチェック。
⑦ 「OK」 をクリック。これで完了です。

